

八十一條ニ記載シタル加重ノ一事情モナク公道ニ於テ犯シタル竊盜、
 第二此事情中ノ一(夜間、從犯、兵器携帶、損壞或ハ踰越又ハ暴行)ヲ以テ犯
 シタル竊盜、第三此事情中ノ數箇ヲ以テ犯シタル竊盜是ナリ故ニ公道
 ニ於テ犯シタル總テノ竊盜ハ賊物ノ性質ノ如何ニ關セス又其竊盜ニ
 屬シタル事情ノ如何ニ關セス該條中ニ入ルヘシ千八百二十一年十一月十一日ノ判決而
 ノ該條ノ罪ヲ生ジシコハ旅人ニ對シテ又ハ其不在ノ際ニ於テ其物品
 ニ付テノ竊盜ヲ犯シヤチ區別スルニ及ハス唯罪ヲ成就シタル場
 所ノ公道タルヲ以テ充分ナリトス但シ第三百八十三條ハ旅人ニ對シ
 テ又ハ路上ニ運搬シタル物品ニ付竊盜ヲ犯セシノ場合ヲ記載ス故ニ
 該條ハ已レノ運搬スヘキ物品ヲ竊盜シタル運送人、放棄スル獸類ノ竊
 盜又ハ附託シタル木材、器具ノ竊盜ニ適當ニサル可シ但シ此諸種ノ場
 合ニ於テハ路上ノ竊盜ナキニ非スト雖モ唯其刑ヲ加重セサルノミ

第七百四十八號 公道○法律ハ公道ノ義解ヲ掲ケサリシカ此名義ハ
 國、縣又ハ邑ニ因テ之ヲ維持スルニ拘ハラス公用ニ供シタル總テノ道
 路ニ屬スルナリ而シテ國道、縣道、邑道タルノ區別アリト雖モ其公道タル
 コハ皆同一ナリ公道ト看做サ、ル道路ハ私有ノ道路私有地ノ用ニ供
 スル道路、道路ヨリモ寧ロ開拓ニ供スル通路是ナリ刑法論第二千七百七十三號參觀
 川及ヒ運河三月八日、四月十六日、五月二十三日、六月八日、六月十六日、六月二十三日、六月三十日、七月七日ノ判決町村ノ街路ヲ經過スル所ノ公道ノ一部千八百八十五年四月六日、千八百八十五年五月二十三日、千八百八十五年七月七日ノ判決ハ第三百八十三條ニ從テ之
 チ公道ト同視ス可カラサルナリ

第三百八十一條第二項

○第七項

數人ニテ共犯スル竊盜

第七百四十九號 竊盜ノ罪ハ其犯セシ場所及ヒ時刻ニ關シテノミナ
 ラス其執行ヲ容易ナラシメタル附屬ノ事情ニ因テ加重ス數人ノ共犯
 ハ即チ此事情中ノ一ナリ但シ此共犯ノ罪ハ夜間又ハ住家ニ於ケル竊

數人ニテ共犯スル竊盜

盜ト均シク危害ヲ増加スル所ノ他ノ所爲ノ集合アルハ非サレハ加重セサルナリ故ニ數人ノ共犯シタル竊盜ト雖モ他ノ事情ナキハ尋常ノ竊盜ニシテ加重ス可キモノニ非ス第三百八條 夜間又ハ住家ニ於テ之ヲ犯セシトハ其犯人ヲ懲役ノ刑ニ處シ第三百八條 夜間兵器ヲ以テ第三百八條 公道ニ於テ第三百八條 又ハ第三百八十一條ニ記載シタル暴行ヲ以テ第三百八條 犯シシトハ有期徒刑ニ處シ第三百八十一條ニ記載シタル四事情ヲ以テ犯スカ又ハ公道ニ於テ此事情中ノ二箇ヲ以テ犯セシトハ無期徒刑ニ處ス第三百八條

第七百五十號 第三百八十一條ノ第二項ハ二人又ハ數人ノ竊盜ヲ犯セシトハ語ヲ揭ケ以テ加重ヲ定ム故ニ法律ハ數人ノ共犯ト徒犯トヲ區別シ此共犯ニ非サレハ刑ノ加重ノ原因トセサルナリ而シテ徒犯ハ唯罪ヲ挑唆シ或ハ之ヲ容易ナラシメシノミニシテ其執行ノ所爲ニ加ハ

ラサルモノナルカ故ニ該條ヲ以テ之ヲ論セサルナリ共犯ハ執行ノ所爲ニ加ハリ或ハ共謀ヲ以テ或ハ身ヲ以テ其成就ヲ幫助スルノ所爲ナルカ故ニ罪ヲ犯セシト看倣ス何トナレハ竊盜ノ危害ハ執行ニ加ハリタル犯人ノ數ニ因テ増加スレハナリ竊盜ノ執行中ニ若シ他ヨリ人ノ來ルアレハ之ヲ犯人ニ通知シシカ爲メニ監視ヲ爲ス者及ヒ幫助ヲ以テノ徒犯者ハ之ヲ共犯者トス千八百八十三年四月九日及千八百八十八年九月九日ノ判決但シ藏匿ヲ行フタルハ徒犯者ハ之ヲ共犯者中ニ加ヘサルナリ千八百十八年九月十一日ノ判決

○第八項 損壞ニ因テノ竊盜

第七百五十一號 義解○法律ハ第三百九十三條第三百九十四條第三百九十五條及ヒ第三百九十六條ニ於テ損壞ノ義解ヲ揭ケタリ故ニ損壞ハ通路ヲ防遮シ又ハ之ヲ閉鎖スヘキ器具及ヒ諸般ノ圍繞ヲ擱開シ又ハ毀壞スルニ因リテ生スルモノトス而シテ法律ニ記載スル所ノモ

第三百八十一條
第三百八十四條
第三百八十五條
第三百八十六條
第三百八十七條
第三百八十八條

ノハ常ニ之ヲ開ク可キ方法ニ非サル暴法ヲ以テ圍繞ヲ毀壞シ閉戸ヲ
開發スルノ場合ナリ共和第十四年第四百三十一日一千八百二十七年六月十日又
法律ハ振開及ヒ毀壞ニ用ヰタル器械ノ通路ヲ防遮シ又ハ閉鎖ス可キ
モノタルヲ要スルナリ八百三十四年二月二十五日及ヒ千

第七百五十二號 損壞ニハ外部内部ノ別アリ第三百九十四條及雙方
ノ場合ニ於テ損壞ハ住家住居ニ供シタル家屋其附屬ノ家屋又ハ圍繞
アル地内ニ於テ行ヒシキニ非サレハ加重ノ原因トナラサルナリ是レ
内部ノ損壞ニ付テハ第三百八十一條ノ第四項及ヒ第三百八十四條ノ
規則ヨリ生シ外部ノ損壞ニ付テハ第三百八十四條及ヒ第三百九十六
條ノ規則ヨリ生シモノナリ判決例ニ於テハ屢此規則ヲ採用セリ但
シ損壞ノ事情ハ加重ノ條件タルヲ以テ宣告書ニ若シ其明記ナキハ
其判決ヲ効ナキモノトセリ千八百二十六年三月二十日千八百二十七年

口千八百三十一年一月六日千八百三十四年一月一判決文ニ曰ク第三百九
十五條及ヒ第三百九十六條ニ從ヘハ損壞ハ外部ニ於テハ其損壞ニ基
キテ第三百九十五條ニ記シタル場所ニ入リシキ又内部ニ於テハ同條
ニ記載シタル場所ニ於テ内部ノ戸、牆、塀、戸棚及ヒ其他閉鎖シタル家具
ニ付爲シタルキニ非サレハ竊盜ノ加重ノ事情ヲサカルナリ千八百一
十年十月四日故ニ旅舎ノ門戸ニ於ケル馬背ニ結着シタル皮囊ノ竊盜公道
ニ於テ馬車内ニテ施ス閉鎖シタル箱匣ノ竊盜及ヒ運送人ノ人ヨリ託
ヲ受ケタル閉鎖シタル箱匣ノ竊盜ハ法律ニ記載シタル損壞ニ於ケル
竊盜ヲ構造セサルナリ千八百二十三年三月二十六日千八百二十六年一月
十一月二十七日千八百三十八年二月二十五日千八百五十二年
第七百五十三號 外部ノ損壞○此種ノ損壞ハ概シテ圍繞シタル場所
ニ竊盜者ノ入ルヲ容易ナラシメ且ツ其入ルニ用立チシキニ於テ加重

損壞ニ因テノ竊盜

ノ原因トナルナリ但シ二判決ニ於テハ壁内ニ閉テタル烟筒及ヒ窓ノ窓ヨリ剥キタル鐵棒ノ竊盜ハ損壞ニ因テ内部ニ入りタルノ所爲ナシト雖モ外部ノ損壞ヲ以テ施シタルモノトスルヲ許セリ千八百十一年八月三日同年五月二十一日ノ判決然レモ第三百九十五條ノ規則ト意思トニ從ヘハ外部ノ損壞ハ之ニ由テ家屋内ニ入りタルモ非サレハ有罪ニ非ス此損壞ハ竊盜ノ執行ニ先テタル所爲ニシテ執行ノ所爲ニ非サルカ故ニ竊盜トハ別所爲ナリト雖モ竊盜ヲ行ハシカ爲メ圍繞在ル場所ニ入ル可キ不正且ツ暴害ナル方法ナリ是レ此場合ニ於テ加重ヲ施スノ原由ナリ刑法論第二千八百五十五號參照

第七百五十四號 内部ノ損壞○内部ノ損壞ノ格段ナル性質ハ第三百九十六條ニ之ヲ指示ス此損壞ハ住家ノ内部ニ入りタル後内部ノ戸、塙、塙、戸棚及ヒ其他鎖シタル家具ニ付爲シタルモノナリ内部ノ戸、塙、塙ト

ハ如何ン内部ノ戸、塙、塙トハ家屋内ニ入りタル後竊盜ヲ行ハシカ爲メ振開、毀壞シタルモノヲ云フ故ニ竊盜ヲ成就シタル後遁逃ヲ容易ナラシメンカ爲メニ施シタル損害ハ豫備ノ所爲ニ非サルヲ以テ該條中ニ入ラサルナリ千八百十三年六月閉鎖シタル家具トハ如何ン閉鎖シタル家具トハ其中ニ在ル物品ヲ保存ス可キモノヲ云フ箱匣、箆櫃ノ如キ是レナリ然レモ酒樽ハ此中ニ入ラサルナリ千八百五十二年九月九日ノ判決

第七百五十五號 第三百九十六條ノ第二項ハ箱匣、箆櫃、括リタル行李及ヒ其他閉鎖シタル家具ヲ其場ニ於テ損壞スルコトナク其儘ニテ奪却シタル所爲ヲ内部ノ損壞トス此場合ニ於テハ第三百九十五條ニ記載シタル場所ニ於テ奪却ヲ行ヒシコトヲ要用トセス法律ハ道路等ニ於テ行ヒシ奪却ニモ適當ス千八百五十五年十月故ニ其罪ハ家屋ノ内外ヲ論ビス同一ナルカ故ニ之ヲ區別スルニ及ハス然レモ其内又ハ外タルコト

千八百三十二年一或ハ少クハ錠、海老錠又ハ其他閉鎖ニ用ユヘキ器具
ナ其奪却後ニ毀壞セシヲ千八百五十二年九月九日千八百五十七年五
月二日及ヒ千八百六十年三月九日ノ判決
ヲ判定スルヲ要スルナリ

第三百九十七條

第九項 踰越ニ因テノ竊盜

第七百五十六號 第三百九十七條ハ踰越ノ事情ノ義解ヲ掲ケリ該條
ヨリシテ左ノ二則ヲ生ス、第一踰越ノ加重ノ原因タラシニハ犯人カ其
踰越シタル場所ニ入ルノ目的ヲ以テ之ヲ行ヒシヲ、第二踰越ヲ以テ犯
シタル竊盜ハ建造物又ハ圍繞アル地ニ於テ犯シキニ非サレハ其刑
ヲ加重セサルヲ是ナリ此二則ハ外部ノ損壞及ヒ踰越ニ通シ用フヘキ
モノナリト雖モ唯其判定方法ニ關シテハ判決例ニ於テ此二事情ノ間
ニ差等ヲ設ケタリ即チ損壞ニ付テハ之ヲ構造スヘキ所爲ヲ宣告書ニ
記スルノミチ以テ足レリトシス其第三百九十五條ニ記載シタル場所

ニ於テ爲シシヲ附記スルヲ要スト雖モ之ニ反シテ踰越ニ付テハ踰
越ヲ以テ竊盜ヲ犯シシヲノミテ宣告書ニ記スルヲ以テ充分トシ建造
物又ハ圍繞アル地ニ於テ之ヲ犯セシヲ附記スルニ及ハサルナリ數
十年來ノ問題○千八百三十二年十一月十八日ノ判決ニシテ當今確定シタ
ル此決定ハ陪審會ニ於テ被告人ナ踰越ヲ以テノ竊盜ノ罪人ナリト申
陳スルハ必ス圍繞アル地ニ於テ竊盜ヲ犯シト看做スト云フノ規
則ニ基キシモノナリ千八百三十一年六月七日千八百五十一年五月三
日第七百五十七號 手ヲ以テ施ス所爲トスル此踰越ハ第三百九十七條
ヨリ生スル所ノ二箇ノ條件ヲ有ス家屋ノ外部ヨリ内部ニ入ルヲ及ヒ
非常ナル方法ヲ以テ此入込ヲ爲スヲ是ナリ此圍繞ヲ越ヘテ圍繞内ニ
入ルノ所爲ハ即チ踰越ヲ構造スル所ノモノナリ故ニ圍繞内ニ入りタ
ル後ナシタルノ踰越ハ其竊盜罪ニ加重ヲ生セサルナリ千八百二十六年
三月十三日

踰越ニ因テノ竊盜

及七千八百五十二年 踰越ヲシテ加重ノ原因ト爲サンニハ非常ナル方
 三月十二日ノ判決 法ヲ以テ圍繞内ニ入シヨク要ス何トナレハ竊盜者圍繞ノ壁ニ附着シ
 クル開キタル戸口又ハ人ノ通行ヲ許ス所ノ壁ノ損所ヨリ入りタルキ
 ハ踰越ニ於ケル竊盜ヲ犯サ、レハナリ千八百九十年十月十一日ノ判決ハ土
 地ノ圍繞ニ用ヰタル溝渠ノ凝結シタル際ニ於テ之ヲ越ヘテ圍繞内ニ
 入りタル場合ニ適當ス月二十日ノ判決然レモ踰越ニ付梯子又ハ其他
 ノ器械ヲ用ヰシテ要セサルナリ故ニ窓ヨリ入りタルノ所爲ハ此窓ノ
 土地ヨリ僅ニ數「メ」トル「ニ」離レス且犯人ノ他ノ器械ノ助ケナクシテ
 入りタルキト雖モ踰越ヲ構造スルヲ得何トナレハ窓ハ尋常ノ通路ニ
 非サレハナリ千八百八十一年七月十八日千八百九十三年六月十
 日ノ判決
 第七百五十八號 踰越ノ之ニ續キ犯シタル竊盜ヲ目的トセサルキ即
 ち他ノ目的ヲ以テ踰越ヲ爲シタルキハ均シク竊盜ノ罪ヲ加重スヘキ

平判決例ニ於テハ之ヲ可決ス何トナレハ踰越ノ後直チニ竊盜ノ執行
 アレハナリ此決定ハ總テノ事情ニ適當スヘキ平兵器ノ携帯、夜間、共犯
 ノ事情ノ如ク其所爲アレハ即チ執行アリトスル場合ト踰越、損壞、偽鑰
 暴行ノ事情ノ如ク其施行ナケレハ豫備ノ所爲ニ過キサレ場合トチ區
 別スルヲ得ヘシ而シテ此終リノ事情ノ竊盜ノ所爲外タルキ即チ他ノ目
 的ヲ以テ爲セシモノタルキハ之ヲシテ加重ノ原因クラシムルハ至難
 ノコナル可シ刑法理論第二卷
 第四百二號參照

第七百五十九號 第三百九十七條ノ第二項ハ地下ノ口ヨリ入ルノ所
 爲ヲ踰越ト同視ス故ニ此方法ニハ踰越ト同一ノ規則ヲ適當ス該所爲
 ノ格段ナル性質ハ地下ノ口ヨリ入りシヨクナリ故ニ加重ヲ適施シシニ
 ハ犯人カ通路ニ非サル地下ノ口ヨリ入りシテ要スルナリ此事情ノ有
 無ハ踰越ノ場合ニ於ケル如ク法律ニ循テ陪審會ニ下問ス可キモノナ

踰越ニ因テノ竊盜

リ而シテ地下ノ口ヨリ入ルノ所爲ハ踰越ノ語中ニ包含スト雖モ然レモ其外面上ノ原素ヲ宣告書ニ記載スルヲ要スルナリ
第七百六十號 踰越ハ竊盜ヲ犯スノ目的ヲ以テ行ヒシキニ非サレハ之ヲ有罪トセス故ニ此目的ナキモハ住所ヲ侵スノ罪ヲ構造スルニ過キサルナリ第三百八十一條第三百八十二條第三百八十三條及ヒ第三百八十四條ハ同規則中ニ於テ損壞踰越僞鑰ノ事情ヲ掲ケ且此諸事情ニ付テハ同一ノ加重ヲ適施スルナリ

第三百九十八條及ヒ第三百九十九條

○第十項 僞鑰ヲ以テノ竊盜

第七百六十一號 僞鑰ノ使用ハ全ク之ヲ損壞及ヒ踰越ト同視シ同一ノ場合ニ於テ其刑ヲ加重ス故ニ僞鑰ノ使用ハ竊盜ノ執行ノ所爲トシテ之ヲ施シ且建造物又ハ圍繞アル地ニ於テ使用シシキニ非サレハ之ヲ有罪トセスナルナリ
千八百二十年七月二十七日千八百三十八年七月二十七日及ヒ千八百三十九年六月六日ノ判決故

ニ其他ノ場所ニ於テ爲シタル其使用ニハ加重ヲ適施シサルナリ
千八百六十四年六月十一日及ヒ千八百六十四年四月十九日ノ判決 然レモ僞鑰ノ使用ハ建造物又ハ圍繞アル地ニ入りテ爲スモ又外部ニ於テ爲スモ其竊盜ヲ行ハシカ爲メニ爲シシキハ都テ之ヲ有罪トスルナリ

第七百六十二號 僞鑰○第三百九十八條ハ僞鑰ノ義解ヲ掲ケ且尋常ノ用方外ニ適用シタル真正ノ鑰ヲ僞鑰ト同視セリ然レモ竊盜者錠ニ屬シタル鑰ヲ竊取又ハ發見シ而シテ之ヲ使用シシキハ僞鑰ヲ使用セシト看做ス可キ乎判決例ニ於テハ一旦滅失又ハ竊取セラレシ鑰ハ其初メノ用方ヲ失ヒ其錠ニ屬スルヲ止メ且其使用ハ僞鑰ノ用ヲ爲スモノトシ此問題ヲ可決セリ
千八百二十五年十二月十八日千八百三十六年五月十九日及ヒ千八百五十四年四月二十七日ノ判決 然レモ人此決定ヲ論駁セリ何トナレハ第三百九十八條ハ用方ヲ失フタルモノ又ハ贗造シタルモノニ非サレハ之ヲ僞鑰トセス且真正

僞鑰ヲ以テノ竊盜

ノ鑰ヲ以テ犯シタル竊盜ト贗造シタル鑰又ハ用方ヲ失フタル鑰ヲ以テ犯シタル竊盜トハ同一ノ罪ニ非サレハナリ刑法論第二千五百五十七號參照

第七百六十三號 第三百九十九條ノ竊盜ノ豫備ノ所爲ナル偽鑰ノ竊盜ヲ罰ス此場合ニ於テハ其製造者ハ竊盜ノ從犯者ナルヤ又竊盜ニ加ハラサル者ナルヤヲ區別ス此第二ノ場合ニ於テ罪ヲ構造シテハ唯鑰ヲ製造セシノ所爲ノミヲ以テ足レリトセス其詐偽タルコト又ハ其豫備ノ所爲タルコトヲ知リテ製造セシコトヲ要ス即チ製造者ハ其如何ナル竊盜ニ使用ス可キヤハ之ヲ知ラスト雖モ其竊盜ノ用ニ立ツ可キコトヲ前知セシヲ要スルナリ然レモ製造者竊盜ノ企ヲ知リ此企ノ爲メ且其執行ヲ助ケンカ爲メニ鑰ヲ製造セシキハ之ヲ從犯者トス千八百九十一年六月十三日判決若シ製造者錠鑰ノ製造ヲ職業トスル者タルキハ其職業上害ヲ行フヲ以テ其刑ヲ加重シ三月乃至二年ノ禁錮(竊盜ニ加ハラサル時ニ於

適施スルモノ)ヲ轉シテ二年乃至五年ノ禁錮トス

第三百八十一條及第三百八十五條及第三百八十六條

○第十一項 兵器ノ攜帶、暴行又ハ脅迫ヲ以テノ竊盜
第七百六十四號 兵器ノ攜帶○兵器ノ攜帶ハ竊盜ニ屬スル加重ノ事情ナリ第三百八十一條ノ第三項第三百八十五條ノ第三項及ヒ第三百八十六條ノ第二項ハ犯人中ノ一人又ハ數人ノ兵器ヲ表携又ハ陰携セシキハ總テ犯人ノ刑ヲ加重ス此加重ハ他ノ事情ノ補充ヲ要セサルカ故ニ晝間一人ニテ人ノ住セサル又ハ住居ニ附屬セサル場所ニ於テ竊盜ヲ犯セシキト雖モ唯兵器ノ表携又ハ陰携アレハ其竊盜ヲ重罪トスルニ充分ナリトス若シ加之他ノ加重スヘキ事情アルキハ尙ホ其刑ヲ加重ス第三百八十一條及第三百八十五條此場合ニ於テハ加重ハ兵器攜帶ノ所爲ニ附着シ其使用シシト否トニ關セサルナリ然レモ其使用ハ素コリ暴行ノ所爲ナレハ攜帶トハ別種ノ加重ヲ構造スルナリ

兵器ノ攜帶、暴行又ハ脅迫ヲ以テノ竊盜

第七百六十五號 暴行^〇の暴行ハ竊盜罪ニ有期徒刑ヲ來タスヲ以テ加重ノ諸事情中竊盜ノ性質上ニ最モ威力ヲ行フモノナリ第三百八十二條及ヒ第三百八十三條此加重ヲ來タス所ノ暴行ハ如何ナルモノナル乎此暴行ハ人ノ身體ニ對スル諸暴行ニシテ假令入ノ安寧ヲ害サ、リンキト雖モ同一ナリ第三百八十一條ノ第五項ハ兵器ヲ使用ス可シ爾ノ後偽スト云テ爲シタル脅迫ヲ暴行ト看做ス而シテ第三百八十二條及ヒ第三百八十五條ハ此種ノ暴行ノ殺害又ハ創傷ヲ生シシヲ要用トシサルナリ故ニ竊盜ヲ犯スノ間人ヲ縛シ置キ之ヨリ鑰ヲ奪ヒ其物品ヲ奪取シシキハ此人ノ身體ニ如何ナル創傷ヲ起サ、リシト雖モ暴行アリトス千八百三十三年三月二十三日ノ判決此暴行ハ拘留所内ニ於テ拘留ヲ受ケタル者ノ一人ノ他ノ者ニ對シテ施シタル千八百七十六年又竊盜ヲ行ハシカ爲メ又ハ遁逃ヲ成就シシカ爲メ施シタル千八百十二年十月十日ノ判決雖モ同一ナリトシ此變

方ノ場合ニ於テ加重ヲ施スナリ但シ此終リノ場合ニ關シテ判決例ニ於テハ法律ノ暴行ヲ以テ犯シタル竊盜ニノミ加重ヲ適施スルコト即チ竊盜ノ執行ニ關スル暴行ニノミ加重ヲ適施シ竊盜者ノ安寧ヲ保護セシカ爲メノ暴行ニハ之ヲ適施セサルコト駁セリ刑法論第二千二百一十一號參照

第三百八十二條ノ第四項

〇第十二項

偽稱偽服又ハ偽命ヲ以テ犯シタル竊盜

第七百六十六號 第三百三十一條ノ第四項ハ偽ノ衣服偽ノ名稱ヲ以テ又ハ官命ト偽リテ住家又ハ住居ニ供シタル家屋ニ於テ犯シタル竊盜ニ加重ヲ適施ス此場合ニ於テ法律ノ加重ヲ施ス所以ノモノハ不正ノ方法ヲ以テ住家ニ入ルノ所爲ヲ罰センカ爲メナリ蓋シ法律ハ此所爲ヲ踰越損壞及ヒ偽鑰ノ使用ト同視スレハナリ

第七百六十七號 竊盜罪ニ付名稱命令及ヒ衣服ノ借用ノ加重ヲ生スル條件ハ第一住家ニ入ラシカ爲メニ此借用ヲ爲セシコト第二借用即チ

偽稱偽服又ハ偽命ヲ以テ犯シタル竊盜

偽粧ノ所爲ナリ茲ニ論スル所ノモノハ官吏ノ擅權又ハ其威權妄用ニ非スシテ借用シタル名稱、不適法ニ着用シタル衣服又ハ不正ニ製シタル命令狀ノ使用ナリ

第三百八十一條
第三百八十二條
第三百八十三條
第三百八十四條
第三百八十五條

第十三項

刑ヲ加重スヘキ數事情ノ集合

第七百六十八號 竊盜罪ニ加重ヲ來タス可キ諸種ノ事情ハ既ニ述ヘ盡クセシヲ以テ該項ニ於テハ數多ノ事情ノ集合ニ因テ竊盜ノ刑ヲ加重スヘキ場合ヲ説示サン抑、數多ノ事情ハ其相互ニ連結スルキニ非サレハ加重ヲ生セズ故ニ夜間タルノ事情ハ從犯アリタルキ又踰越、損壞偽鑰ノ使用、偽稱、偽命ノ借用ハ住家ニ入ルノ用ヲ爲セシキニ非サレハ刑ヲ加重ス可キノ事情ニ非サルナリ唯一事情ノミヲ以テ重罪ヲ生スルハ左ノ場合ニノミ限ルヘシ、第一犯人カ第三百八十六條ノ第三項及ヒ第四項ニ記載シタル一身分ヲ有スルコト、第二兵器ヲ表携又ハ陰携セ

於テ竊盜ヲ犯シシト第三項第三項第五第三百八十一條ノ第四項ニ記載シタル事情ヲ以テ竊盜ヲ犯シシト是ナリ

第七百六十九號

下ニ記スル二箇ノ事情ノ集合ハ前號ノモノヨリモ

重キ加重ヲ生ス即チ暴行ニ因テ死又ハ創傷ヲ起シシト第三項第三百八十一條ニ記載シタル一事情ヲ以テ公道ニ於テ竊盜ヲ犯シシト第三項第三百八十一條ニ記載シタル一事情ヲ以テ公道ニ於テ此二事情夜間二人タルコト中ノ一ヲ以テ竊盜ヲ犯シシト第十四條是ナリ又下ニ記スル場合ノ如ク三箇ノ事情ノ集合ハ猶ホ上ノ場合ヨリモ重キ加重ヲ生ス即チ第三百八十一條ニ記載シタル二箇ノ事情ヲ以テ公道ニ於テ竊盜ヲ犯シシト第三項夜間住家ニ於テ二人又ハ數人ニテ竊盜ヲ犯シシト第三項此事情中ノ二箇ト兵器、携帶ノ事情トヲ以テ竊盜ヲ犯シシト第三項

刑ヲ加重ス可キ數事情ノ集合

第十五條 是ナリ千八百六十三年五月十三日ノ法ニ因テ改定ニ屬シタル
第四項 第三百八十五條ハ四箇ノ事情ヲ以テ犯シタル竊盜ノ場合ヲ記スト雖
モ第四ノ事情ハ別段加重ヲ生セサルナリ第三百八十一條ハ五箇ノ事
情ノ集合ヲ記載シ此場合ニ無期徒刑ヲ適施ス

第七百七十號 加重ノ事情ハ法律ニ明記アルハ非サレハ刑ノ加重
ノ原因タラサルナリ故ニ暴行ヲ以テ夜間二人ニテ犯シタル竊盜ハ犯
人ハ中一人ノ被害者ノ僕婢タルハ雖モ有期徒刑ヲ生シ又夜間數人
ニテ兵器ヲ携帶シテ犯シタル竊盜ハ住家ニ於テ踰越ヲ施セシキト雖
モ上ト同一ノ刑ヲ生スルニ過キササルナリ夫レ加重ヲ適施シニハ唯
法律ニ何々ノ所爲ハ加重ノ原因ナリト記載アルノミヲ以テ足レリト
シス必ス其効刑^{即チ}ノ記載アルヲ要スルナリ數事情ノ集合ノ場合ニ於
テハ精細ニ法律ノ文義ヲ討テ且數事情ノ集合ノ法律ニ明記アルハ非

非サレハ加重ヲ適施セサルヲ規則トス

第七百七十一號 總テ各事情ハ其孤立ノ時ニ於ケル如ク數所爲ノ集
合ノ場合ト雖モ格段ナル性質及ヒ必要ナル原素ヲ有スルヲ要ス故ニ
第三百八十一條ニ記載シタル竊盜ニ付テハ五事情中各法律上必要ナ
ル條件ヲ集合スルヤ否ヲ調査スルヲ必要ナリトス<sup>千八百三十六年
二月四日ノ判決</sup>
ニ該條ハ例ヘハ外部ノ損壞ノ住家ニ入ルノ用ニ立チシ^トヲ判定セシ
キニ非サレハ決シテ適施ス可ラサルナリ

第四百條

○項外「エキストルジョン」^{シヤンク}「エキストルジョン」^{シヤンク}又ハ差押ヘ
或ハ質入シタル物件ノ竊盜

第七百七十二號 第四百條ハ初メ「エキストルジョン」<sup>強テ書證類ニ手
ムルノ所爲</sup>ノミヲ記載シシカ其後數多ノ附加ニ遇ヘリ即チ千八百三
十二年四月二十八日ノ法ニ因テ差押ヘタル物品ノ竊取ヲ附記シ千八

差押ヘ或ハ質入シタル物件ノ竊盜

百六十三年五月十三日ノ法ニ因テ「エキストルシヨ」ノ一種ナル「シヤ
ンター」ヨ「海計ヲ以テ證書ニ手署セシメ又ハ之ヲ試スルノ所爲ト質入シタル
物品ノ使用及ヒ竊取ヲ附記セリ此二法ニ因テ諸種ノ事柄ヲ該條ニ附
記シタル所以ノモノハ若シ別ニ數條ヲ新設スルキハ條例ノ番號ヲ轉
易スルヲ以テ唯之ヲ避クルノ目的ニ出テシニ外ナラサルナリ

第七百七十三號「エキストルシヨ」○「エキストルシヨ」トハ威力暴
行又ハ強制ヲ以テ犯シタル竊盜ナリ「エキストルシヨ」ハ如此ク竊盜
ノ性質ヲ有スルカ故ニ下ノ諸件ヲ生ス第一之ニ第三百八十條ヲ適施
スルヲ「千八百三十四年四月三十日」千八百三十四年二月八日ノ判決第二強制ノ所爲ナキ
キハ尋常ノ竊盜ヲ構造スルニ過キササルヲ「千八百四十年」ニ
「エキストルシヨ」ハ竊盜ヲ包含スト雖モ然レハ復格段ナル性質ヲ有
スルナリ何トナレハ其竊盜ハ竊取ニ因テ生シシモノニ非スシテ被害

者ヲ威迫強制シテ書類ニ手署シシメ又ハ之ヲ交付シシメシニ因テ生
スルモノナレハナリ此場合ニ於ケル竊盜ハ其手署及ヒ交付ニ因テ構
造ス可キナリ

第七百七十四號 此「エキストルシヨ」ノ罪ハ第一證書又ハ書類ノ義
務規則又ハ義務釋放ノ記載アルトニ非サレハ成立セズ何トナレハ證
書ノ必スシモ人ニ損害ヲ醸ス可キモノタルヲ要スレハナリ總テ手署
ヲ爲セシ者ノ財産ニ害ヲ醸シ之ニ對スル權利ヲ約シ又ハ人ノ權利ノ
證ヲ竊取スルノ所爲ハ第四百條ヲ以テ論スヘキ所爲中ニ入ルナリ第
四百條ニ記載スル所ノ規則ノ語ハ第四百四十七條ニ記載スル所ノモノ
ト同一ノ意味ヲ有スルカ故ニ義務又ハ義務ノ釋放ノ外手署ヲ爲セシ
者ノ財産ニ關スルヲ得ヘキ總テノ規則ヲ包含ス然レハ此規則ノ語ハ
無印ノ證書ヲ交付シシメシノ所爲ニ適當セス何トナレハ該證書ハ如

差押へ或ハ質入シタル物件ノ竊盜

何ナル約束ヲモ包含セサレハナリ千八百六十五年三月二十八日及七千八百六十五年三月二十七日ノ判決
 又名譽ニノミ關スル書類ニ適當セス何トナレハ法律ハ該條ニ於テハ外部ノ損害ニ非サレハ之ヲ保護セサレハナリ刑論第二千二百六十六號參照已レニ交付セシメタル證書ノ不規則ニシテ如何ナル効チモ生スルヲ得可カラサルキハ此無効ノ犯人ノ意ニ關セサルカ又「エキストル」シヨ「ン」ノ未遂犯トシテ其證書ヲ交付セシメシニ非サルカヲ調査セサルヲ得サルナリ

第七百七十五號 第二「エキストル」ハ威力暴行又ハ強制ヲ以テ之ヲ行ヒシチ要ス法律ハ此三執行方法ヲ列記セシチ以テ外面上ノ暴行内心上ノ強制ヲ論セス諸種ノ暴行ヲ罰セント欲セリ此強制ノ成立ニ付テハ民法第千百十二條ニ從テ常人ヲ抑壓スルノ性質ヲ有シ且之ニ其身體又ハ財産ニ著大ナル目前ノ害ヲ生スルノ恐れヲ抱カシムルヲ以テ是レリトス上ノ三方法中ノ一ハ則チ重罪ヲ構造スル一條件ヲ爲スモノナリ故ニ威力暴行ヲ用ヒサルキト雖モ強制ヲ以テ「エキストル」シヨ「ン」チ行ヒシ「コ」チ判定セシキハ重罪ヲ構造スルナリ千八百五十五年一月十日ノ判決又暴行ノ所爲ノ其効チ生セサリシキハ此所爲ハ「エキストル」シヨ「ン」ノ罪チ生セシテ格段ナル罪チ生スルノ故チ以テ千八百六十九年十二月十九日ノ判決又「己」レニ交付セシメタル書類ニ規則義務又ハ義務釋放ノ記載アルキハ「エキストル」シヨ「ン」ノ未遂犯千八百五十二年四月十日ノ判決トシテ之ヲ有罪トス

第七百六十七號 「シ」ヨ「ン」タ「ー」シ「ニ」千八百六十三年五月十三日ノ法律
 ハ第四百條ニ第二項チ附加シ「書」面又ハ言詞ヲ以テ漏洩又ハ讒謗ヲ爲スチ脅カシ金銀或ハ第一項ニ列記シタル書類チ已レニ交付セシメ或ハ之ヲ交付セシメント試ミ又ハ書類ニ手署セシメ或ハ手署セシメント

差押へ或ハ質入シタル物件ノ竊盜

ト試ミシ者「チ」一年乃至五年ノ禁錮ト五十「フラン」乃至三千「フラン」ノ罰金トニ處ス此罪ノ性質ヲ定ムルハ至難ナルカ上ニ條例ノ意味少シク曖昧ニ屬スルカ故ニ「エキストルシヨ」ノ豫備タル其姦計ト「エキストル」ヨ「ン」ヲ構造スル所ノ外面上ノ所爲トチ區別スルヲ要ス姦計トハ書面又ハ言詞ヲ以テ漏洩又ハ説謗ヲ爲スチ脅カス「ナリ」外面上ノ所爲トハ金銀又ハ證書ヲ交付セシメシ「ノ」所爲ナリ「シヤンターシユ」ノ未遂犯ニ付テハ此二原素ヲ知ル「困難」ナリ此場合ニ於テハ脅迫ノミノ所爲ハ其「エキストル」シヨ「ン」ヲ目的トセシキニ非サレハ有罪ニアラサル「ナリ」チ喚起スヘシ如此ク「エキストル」シヨ「ン」ノ所爲アリシキハ竊盜ヲ構造スト雖モ犯人其己レニ屬シ且己レノ要求スルヲ得ヘキ物ヲ得ンカ爲メニ脅迫ヲ爲セシキハ罪ヲ構造セサルナリ「シヤンターシユ」罪ノ公訴ハ被害者ノ告訴ヲ俟タス「シテ」之ヲ始ム然レモ檢事ハ深慮ノ後ニ

非サレハ此公訴ヲ起サ「ル」ヲ要シ「急」ニ急施スルヲ要セサルナリ千八百十三年五月三十日司法省廻達

第七百七十七號 差押ヘタル物品ノ竊取○第四百條ノ第三項及ヒ第四項ハ差押ヘタル物品ノ毀壞及ヒ竊取ヲ記載ス此物品ノ毀壞ハ竊盜ノ性質ヲ有セサル可シ何トナレハ差押ハ債主ノ身體ヨリ其物件ノ所有權ヲ分離セシニ非サレハナリ其竊取ニ付テハ法律ハ差押ヲ受ケタル者カ其看守人トナリシキト此看守ノ他人ニ屬セシキトチ區別ス此第一ノ場合ニ於テハ背信ノ罪ヲ生シ第二ノ場合ニ於テハ第四百條ヲ適施スヘキ格段ナル罪ヲ生ス而シテ差押ヘタル物件ノ所有權ハ差押ヲ受ケタル者カ看守人トナリシト否トニ因テ變更セサルナリ毀壞及ヒ竊取ハ其未タ差押ノ告知ヲ得サル前ト雖モ差押ヲ受ケタル者ノ充分之チ知リテ爲セシト判定セシキハ第四百條ヲ以テ之ヲ論スルナリ

差押ヘ或ハ買入シタル物件ノ竊盜

千八百六十二年三月十八日ノ判決然レモ不正ニ之ヲ爲シキニ非サレハ有罪トセサ
ルカ故ニ善意ニテ爲シタルモハ必ス其罪消散スヘシ千八百五十二年九月十七日ノ判決
決但シ竊取ノ不正ナルコトハ債主カ差押ヘラレタル物件ヲ取り自ラ
之ヲ使用セカリシヲ以テ止マサルナリ而シテ該條ノ罪ヲ生シシニハ竊
取ノ目的ノ如何ヲ搜索スルコト及ハス唯裁判所ノ命ニ背キ且他人ノ權
利ヲ害セシヲ以テ充分トス千八百四十四年四月十七日ノ判決第四百條ノ規則ハ管ニ
差押ヘタル物件ニノミナラス官ノ手ニ預カル所ノ動産ヲ竊取セシ總
テノ場合ニ適當ス又此規則ハ放棄シタルニ因リ官ノ手ニ差押ヘタル
動物ノ竊取千八百四十四年九月九日ノ判決差押ヘタル土地内ニアル枯木ノ株ヲ預
リ中ニ引拔キ之ヲ炭ニ化セシノ所爲千八百五十年十月二十六日ノ判決ニ適當ス
第七百七十八號 質入ト爲シタル物件ノ竊取○第四百條ノ第四項ハ
「質入ノ名義ヲ以テ人ニ附シタル物件ヲ毀壞竊取シ又ハ毀壞竊取ヲ爲

サント試ミタル債主、質入人又ハ其他ノ者ニ第四百一條ノ刑ヲ適施
ス是レ刑罰ヲ以テ抵當貸ヲ保安スルノ目的ニ出テタルモノナリ然レ
モ抵當ノ約束ハ書入レタル物件ノ所有權ヲ債主ニ移轉スルモノニ非
サルカ故ニ債主又ハ債主ノ爲メ他人此物件ヲ竊取スルモ竊盜ヲ
構造セサルナリ千八百五十二年八月二十五日ノ判決

第七百七十九號 從犯○第四百條ノ末尾ノ項ニ情ヲ知リテ竊取シタ
ル物件ノ藏匿者又ハ差押ヲ受ケタル者、債主、質入人ノ配偶者尊屬ノ
親或ハ卑屬ノ親ニシテ此物件ノ毀壞又ハ竊取ヲ助ケシ者ニ正犯者ト
同一ノ刑ヲ適施ス如此ク該條ハ犯人ノ、配、耦、者、尊、卑、屬、ノ、親、ト指示セシ
カ故ニ第三百八十條ハ第四百條ニ記載スル場合ニハ適當セサルナリ
然レモ藏匿者及ヒ第四百條ニ指示シタル人ノ外ハ何人モ從犯ノ所爲
ニ付訴ヲ受ケサルモノト思惟ス可カラス何トナレハ第五十九條ハ重

差押ヘ或ハ質入シタル物件ノ竊盜

罪又ハ輕罪ノ名義ヲ帶ヒタル總テノ所爲ニ關シテ徒犯ノ責任ヲ設ク
 レハナリ千八百四十四年二月藏匿者ハ其預リタル物件ノ不正ニ竊取シ
 タルモノタルコトヲ知リシキニ非サレハ徒犯者ニ非サルナリ第六十條然
 レヒ藏匿者物件ノ差押人ヨリ其預リタル物件取戻ノ要求ヲ受ケタル
 後尙ホ藏匿ヲ止メサリシキハ假令物件ヲ預リタル後ニ其不正物タル
 コトヲ知リシキト雖モ徒犯ノ責消散セサルナリ千八百五十年七月
 第七百八十號 差押ヲ受ケタル者又ハ質入人ニ非サル者差押ヘタル
 又ハ質入シタル物件ヲ竊取セシキハ其差押ヲ受ケタル者負債主又ハ
 質入人ノ爲メニ其竊取ヲ行ヒシヤ又ハ全ク私益ノ爲メ該所爲ヲ行ヒ
 シヤヲ判定ス第一ノ場合ニ於テハ第四百條ニ記載スル所ノ徒犯アリ
 トシ第二ノ場合ニ於テハ不正ノ竊取即チアリトス千八百四十五年四月
十六日然レヒ正常ノ權アル旨ヲ申立テ私益ノ爲メ間接ニ竊

取ヲ共犯セシ者ハ之ヲ徒犯者又ハ他人ト混淆ス可カラズ如此キ者ハ
 己レニ屬スル物件ヲ取戻ス所ノ債主千八百五十二年七月一日ノ判決用方ニ因テノ不
 動産トシテ差押ヘタル不動産ニ屬スル物件素ヨリ借地契約ニ因リテ
 竊取セシ小作人千八百四十四年四月是ナリ

○第二款 倒産ノ罪詐僞取財ノ罪及ヒ其他詭計ノ罪

○第一節 倒産ノ罪及ヒ詐僞取財ノ罪

○第一項 通常倒産ノ罪及ヒ詐僞取産ノ罪

從第四百二條
 至第四百四條

第七百八十一號 倒産トハ不注意若シハ懈怠ノ所爲又ハ詭計ノ所爲
 ニ因テ分散シタル商人ノ景狀ナリ倒産ニ通常詐僞ノ二種アリ不注意
 若クハ懈怠ノ所爲ヨリ生シタルモノヲ通常ノ倒産ト云ヒ惡意及ヒ詭
 計ヲ以テ豫備シタルモノタルト詭欺ニ出テタルモノトヲ論セス必要
 ナルニ原素ヲ有ス犯人カ商人ノ身分ヲ有スルコト及ヒ其分散ノ所爲是

通常倒産ノ罪及ヒ詐僞取産ノ罪

ナリ故ニ何人モ陪審會ニ於テ商人ナリト同時ニ申陳セシトニ非サレ
 ハ倒産ノ罪人ト申陳セラル、コナシ倒産ノ場合ヲ列記スル所ノ商法
 第五百八十五條第五百八十六條及ヒ第五百九十一條ハ犯人カ商法第
 一條ニ記載スル所ノ義解ニ從テ商人ノ身分ヲ有スル乎ヲ調査ス總テ
 倒産ハ不注意又ハ詭計ノ行ハレタル分散ニ外ナラサルカ故ニ何人モ
 分散ノ景狀ヲ有セサルハ倒産ノ罪人ト申陳セラル、コナシ倒産ノ
 罪ノ必要ナル條件ハ第五百八十五條第五百八十六條及ヒ第五百九十
 一條ニ之ヲ記載ス

第七百八十二號 商事裁判所ニ於テ分散ヲ宣告セルト雖モ分散人
 ニ對シテ倒産ノ公訴ヲ行フヲ得ヘキ乎然リ何トナレハ如何ナル規則
 モ倒産ノ公訴ヲシテ債主ノ私訴分散管財人ノ告訴又ハ分散ノ宣告ト
 關係ニシメサレハナリ此場合ニ於テ商法第五百八十五條及ヒ第五百

八十六條ハ檢事カ職務上ノ訴ヲモ行ヒ得ルモノトス
 千八百四十五年四月十五日
 千八百四十六年五月
 千八百四十七年三月六日
 千八百四十八年三月十五日
 千八百四十九年八月十一日
 千八百五十年三月十六日
 千八百五十一年三月十六日
 千八百五十二年三月十六日
 千八百五十三年三月十六日
 千八百五十四年三月十六日
 千八百五十五年三月十六日
 千八百五十六年三月十六日
 千八百五十七年三月十六日
 千八百五十八年三月十六日
 千八百五十九年三月十六日
 千八百六十年三月十六日
 千八百六十一年三月十六日
 千八百六十二年三月十六日
 千八百六十三年三月十六日
 千八百六十四年三月十六日
 千八百六十五年三月十六日
 千八百六十六年三月十六日
 千八百六十七年三月十六日
 千八百六十八年三月十六日
 千八百六十九年三月十六日
 千八百七十年三月十六日
 千八百七十一年三月十六日
 千八百七十二年三月十六日
 千八百七十三年三月十六日
 千八百七十四年三月十六日
 千八百七十五年三月十六日
 千八百七十六年三月十六日
 千八百七十七年三月十六日
 千八百七十八年三月十六日
 千八百七十九年三月十六日
 千八百八十年三月十六日
 千八百八十一年三月十六日
 千八百八十二年三月十六日
 千八百八十三年三月十六日
 千八百八十四年三月十六日
 千八百八十五年三月十六日
 千八百八十六年三月十六日
 千八百八十七年三月十六日
 千八百八十八年三月十六日
 千八百八十九年三月十六日
 千八百九十年三月十六日
 千八百九十一年三月十六日
 千八百九十二年三月十六日
 千八百九十三年三月十六日
 千八百九十四年三月十六日
 千八百九十五年三月十六日
 千八百九十六年三月十六日
 千八百九十七年三月十六日
 千八百九十八年三月十六日
 千八百九十九年三月十六日
 千九百零年三月十六日

通商倒産ノ罪及ヒ詐偽取産ノ罪

同年三月十日故ニ分散人ト債主トノ間ニ定ムル契約ノ検査ヲ施行スル所ニ於
 及ヒ分散人ヲ宥恕ス可キノ宣告ハ分散人ニ對シテ公訴ヲ行フノ障礙
 ナルヲナシトス千八百九十一年三月十日ノ判決ヲ參照
 第七百八十三號 通常ノ倒産○通常ノ倒産ハ輕罪ヲ構造スルカ故ニ
 外面上ノ原素ノミナラス内心上ノ原素アルヲ要スルナリ故ニ此罪ヲ
 構造センニハ分散人カ通常倒産ヲ構造ス可キ一所爲ヲ犯セシノミヲ
 以テ充分トス必ス故意即チ法律上罰スヘキ意思ヲ以テ之ヲ犯セシチ
 要スルナリ通常ノ倒産ハ詐偽ヲ以テ犯セシチ要スル乎又失錯ヲ以テ
 充分トスヘキ乎詭計ハ必スシモ輕罪ノ成立ニ付テ必要ナラスト雖モ
 然レモ至重ナル失錯ナクシテ輕罪ヲ構造スルヲ得サルナリ第五百八
 十五條及ヒ第五百八十六條ニ列記シタル種々ノ所爲ハ之ヲ詭計トセ
 スト雖モ商人ノ不注意即チ失錯ヲ罰スルニ在ルナリ此失錯ハ内心上

ノ目的ニ因テ之ヲ判定シ且犯人カ箇様ナル所爲ヲナセシトノミ宣告
 セスシテ大膽若クハ懈怠ニ因リ又ハ管理共宜キヲ得サルニ因リ罪人
 トナリシ旨ヲモ宣告スルヲ要ス而シテ法律ノ罰セント欲スル所ノモノ
 ハ此内心中ノ所爲ナリ千八百五十六年五月十七日及ヒ通常ノ倒産ヲ構
 造スヘキ所爲ノ通常ノ失錯ヨリ生シモノニ非スシテ罰スヘキノ詭
 計ヨリ生シシモノタルキハ其刑ヲ加重スト雖モ其罪ノ性質ハ變易セ
 ス何トナレハ犯人ノ意思ノ如何ニ關セズ其所爲同一ニシテ且同一ナ
 ル害ヲ興ス可ケレハナリ刑法論第二千
 六百六十九號參照
 第七百八十四號 商法第五百八十五條及ヒ第五百八十六條ハ通常ノ
 倒産ヲ構造スルヲ得ヘキ數所爲ヲ列記ス其第一ニ曰ク「列記シタル各
 所爲ノ犯人ハ之ヲ通常ノ倒産人ト宣告ス」ト其第二ハ此所爲ヨリ生シ
 タルモノヲ掲ケ「其犯人ハ之ヲ通常ノ倒産人ト宣告スルヲ得ヘシ」ト記

通常倒産ノ罪及ヒ詐偽取産ノ罪

載モリ此區別ハ倒産ヲ宣告セサルヲ得○
 ○場○合○ト○ナ○分○離○シ○ン○カ○爲○メ○設○ク○シ○ル○モ○ノ○ナ○リ○然○レ○モ○此○二○條○ノ○區○別
 ○ニ○拘○ハ○ラ○ス○裁○判○所○ハ○此○第○一○ノ○場○合○ト○雖○モ○罪○ノ○成○立○ヲ○宣○告○セ○サ○ル○ノ○權
 ○ヲ○有○ス○ル○カ○故○ニ○此○區○別○ハ○無○用○ニ○屬○シ○適○用○ス○ル○ヲ○得○サ○ル○ナ○リ
 第七百八十五號 第五百八十五條ニ記載シタル通常ノ倒産ノ場合ニ
 付テハ少シク解説ヲ要ス其第一項ニ記載スル所ノ過度ナル一身ノ費
 用中ニハ博奕ニ因テノ損失及ヒ一家維持外ノ總テノ費用ヲ包含ス而
 ヲ商人カ贅澤又ハ驕奢ニ耽ルカ又ハ不正ノ信用ヲ得ンカ爲メニ故ラ
 ニ證ス可カラサル費用ヲナセシカヲ調査スルノ權ハ裁判所ニ屬スル
 ナリ同條第二項ニ記載スル所ノ偶成ノ所行又ハ公證書類ノ相場ニ關
 シテ費タル使用ハ大額ニシテ商人ノ資力ニ應シテ定ム可シ且偶成ノ
 所爲又ハ證書若クハ商品ノ相場ニ關シテ一部分ノ正當ノ所爲ニシテ

一部分ノ偶成ノ所爲ニ係ハルモノハ之ヲ除ク(費セシモノタルヲ)要
 スルナリ第三項ハ商人カ分散ヲ遲延セシメンカ爲メニ物件ヲ買入レ
 之ヲ低價ニ販賣スルノ所爲又ハ有報ノ借入ヲ約セシノ所爲ヲ記載ス
 此所爲ハ如何ニ有害ナル時ト雖モ商人カ自己ノ地位ヲ顧ミ分散ヲ遲
 延シ○ン○カ○爲○メ○ニ○行○ヒ○シ○キ○且○此○方○法○ニ○因○テ○其○地○位○ヲ○回○復○ス○ル○ヲ○得○サ○リ
 シキニ非サレハ法律ニ因テ之ヲ有罪トセサルナリ第四項ハ分散後ニ
 シテ且分散ト分離シタル所爲即チ諸債主ニ對シテ一債主ニノミ辨濟
 ヲナセシノ所爲ヲ記載ス破産院ニ於テハ此第五百八十五條ノ規則ハ
 嚴格ナルモノタルカ故ニ分散人カ辨濟ヲ止メタル後ニ諸債主ニ對シ
 テ一債主ニノミ辨濟ヲナセシノノ確實ナル裁判所ニ於テ刑法ヲ適施
 セサルノ權ヲ有シ○
 下○判○決○心○リ
 千○八○百○四○十○一○年○七
 月○三○十○日○ノ○判○決
 第七百八十六號 第五百八十六條ニ記載シタル所爲○商法第五百八

通常倒産ノ罪及ヒ詐偽取産ノ罪

十六條ニ記載スル所ノ通常ノ倒産ノ場合ハ法律ニ於テ訴フルヲ得ヘ
 キモノトセリ該條ニ記載スル第一ノ所爲即チ商人ノ資力ニ不相應ナ
 ル著大ナル契約ヲ爲セシノ所爲ハ内心上ノ調査ヲ生スヘキ不注意ノ
 所爲ナリ其他ノ所爲ハ寧ロ外面上ノ所爲ニ係ハルナリ第二項(商人カ
 分散ノ後ニ其債主トノ間ニ結ヒタル契約ヨリ生スル義務ヲ執行セサ
 ルニ因リ再ヒ分散ノ宣告ヲ受ケタル場合ヲ記載スル所ノモノ)ハ恩惠
 ノ契約ヲ爲シタル分散人カ其義務ヲ執行セサルノ一事ニ付テノミ訴
 チ受ケシ場合ニモ適當スルナリ千八百七十年六月二日ノ判決第三項第四項及ヒ第
 五項ニ記載スル所ノ不規則及ヒ遺忘ニ付キ訴ヲ起サンニハ唯通常ノ
 懈怠アルノミヲ以テ充分ナリトス然レモ此懈怠ノ宥恕スヘキヤ又ハ
 輕罪トスヘキ程ノ不正アルヤヲ判定スルノ權ハ裁判官ニ屬スルナリ

千八百九十三年九月二日ノ判決

第七百八十七號 從犯○通常ノ倒産ニ付テハ法律ハ從犯者アルコトヲ
 許サス何トナレハ此種ノ倒産ハ商人タルノ身分ヨリ出テ且其職業ノ
 執行ニ附着シタル法律上ノ保證ヲナス所ノ分散人一身ノ義務ノ不執
 行ヨリ生スルモノニシテ素ヨリ意思ナク豫備ナク一致ナク懈怠不注
 意又ハ證書若クハ法式ノ遺忘ニ因テ犯シタル所爲ニ從犯者アルノ理
 ナケレハナリ上ノ所爲ニ付テハ法律ハ如此ク決定セリ但シ他人ノ分
 散ニ加ハリシノ所爲ハ別段ニ之ヲ有罪トス商法第五百九十三條○千八百四十四年十月十日ノ判決
 通常ノ倒産ノ罪ヲ構造スヘキ總テノ所爲ハ分散人ノ一身ノ義務ノ
 不執行ニ原因スルヲ以テ其ヲ執行スルノ義務ナキ他人ニハ關係セサ
 ルノミナラス其不執行ヲ助ケシト雖モ之ヲ有罪トセサルナリ
 第七百八十八條 詐偽ノ倒産○商法第五百十一條ニ記載シタル詐偽
 ノ倒産ヲ構造スヘキ所爲ハ第一簿冊ノ竊取、第二貸高ノ一部ノ脱漏此

通常ノ倒産罪及ヒ詐偽倒産ノ罪

中ニハ總テノ金高總テノ負債又ハ總テノ商品、日用物若クハ動産ノ脱漏竊取ヲモ包含ス第三貸高ノ一部ノ藏匿此中ニハ偽リテ費用若クハ損失アリトスルノ所爲、収入ヲ得ルノ遺忘又ハ偽リテ販賣若クハ賣約アリトスルノ所爲ヲ包含ス第四分散人カ公證書、私證書又ハ其他ノ書類ヲ以テ負債アリト偽リ認ムルコト是ナリ

第七百八十九號 詐僞ノ倒産ノ第一ノ條件ハ詭計ナリ故ニ分散人カ失錯ニ因テ第五百九十一條ニ記載シタル一所爲ヲ行ヒシヲ以テ充分トセス必ス其債主ヲ欺クノ意思ヲ以テ行ヒシヲ要スルナリ此場合ニ於テ法律ノ罰セント欲スル所ノモノハ不注意又ハ大膽ノ所爲ニ非スシテ詐僞取財又ハ竊盜ナリ故ニ判決例ニ於テハ分散人カ惡意ヲ以テ所爲ヲ行ヒ且其所爲ノ判定アリシハ非サレハ罪ヲ構造セスト記載スルヲ要スルナリ千八百二十六年九月十九日及千八百二十七年四月十四日ノ判決但シ或ル判決

ニ於テハ必ス惡意アリトスル所爲ト必スシモ惡意アリトセサル所爲トチ區別シ第一ノ場合ニ於テハ陪審會ニ於テ被告人チ有罪ナリト申陳スルヲ要用トセス唯其所爲確實ナリト申陳セシヲ以テ充分トセリ千八百二十六年五月十二日及千八百六十六年五月十五日ノ判決然レモ如此キ區別チ立ツルハ至難ナリ何トナレハ犯人ノ意思ヲ調査セスシテ唯其外面上ノ所爲ノミチ取リテ之チ有罪トスルヲ得サレハナリ刑法理論第二千二百二號參觀

第七百九十號 分散ニ付第五百九十一條ニ記載シタル一所爲アレハ詐僞倒産ノ訴ヲ起スヲ得ヘシト雖モ該條ハ定限ヲ有スルカ故ニ如何ニ有罪ナルモ分散人ノ貸高又ハ借高ヲ藏匿スルヲ目的トセサル所爲又ハ分散財産ニ對シテ詭計ヲ構造セサル所爲ハ詐僞倒産ノ所爲ニ非サルナリ故ニ分散人他ノ目的ヲ以テ及ヒ分散財産ニ害ヲ起サシテ背信、偽造、竊盜ヲ犯スモ詐僞倒産ノ罪ヲ構造セサルナリ○前ニ述ヘタ

通常倒産ノ罪及ヒ詐僞取産ノ罪

ル詭計ノ諸所爲ハ分散ノ前後ニ關セサルナリ千八百十三年三月八日判決然レモ此各所爲ニ付テハ其レヲ構造スルノ原素ヲ有スルヲ判定スルヲ要ス故ニ陪審會ニ於テ唯被告人詐僞倒産ノ罪アリト申陳スルモ此申陳ハ刑名宣告ノ原因ヲラサル可シ何トナレハ宣告ハ被告人ノ商人タルヲ其分散ヲナセシメ第五百九十一條ニ記載シタル一所爲ヲ行ヒシヲ此三事ヲ判定シタル上ナシタル申陳ニ基カサルヲ得サレハナリ千八百十六年七月一日判決而シテ此三原素ハ陪審會ニ爲シタル一問中ニ包含ス然レモ詭計ノ所爲ニ關シテハ必スシモ其法律ニ記載スルモノタルヲ要スルナリ故ニ例ヘハ陪審會ニ於テ商人カ貸金ノ一部ヲ消費セリト申陳スルモ罪ヲ構造セス何トナレハ法律ハ其藏匿又ハ脱漏ニ非サレハ之ヲ有罪トセサレハナリ千八百四十年八月三十日及同十二月二十一日ノ判決

○詐僞倒産ノ未遂犯ハ之ヲ重罪トシテ罰ス

第七百九十一號 從犯○詐僞倒産ハ尋常倒産ト異リテ從犯ノ規則ニ從フ商法第五百九十三條ニ曰ク「分散人ノ爲メ其動産又ハ不動産ノ全部又ハ一部ヲ竊取又ハ藏匿セシ者ハ之ヲ詐僞倒産ノ罪ニ處ス此規則ハ總テ刑法第六十條ニ記載シタル他ノ場合ト抵觸ス可カラズ」ト詐僞倒産罪ノ從犯ハ如此ク常法ニ依テ之ヲ規定ス始メ刑法第四百三條ニ於テハ詐僞倒産ノ從犯ハ商法ニ從テ之ヲ判決ス可キヲ規定セシカ其後千八百三十八年五月二十八日ノ法ハ該條ヲ改定シ以テ詐僞倒産罪ノ從犯ノ原素ハ刑法第六十條ニ從テ搜索スヘシト告示セリ故ニ該條ニ記載スル所ノ從犯ノ諸方法ハ悉皆詐僞倒産ニ適當スヘシ其方法トハ幫助、約束ヲ以テノ挑唆脅迫又ハ教唆ニ因テノ從犯ヲ云フナリ此場合ニ於テハ陪審會カ從犯者アリ又法律ニ定メタル挑唆又ハ幫助ノ所爲ヲ行ヒシト申陳セシノミヲ以テ充分トシ分散人ノ爲メニ何々ノ

所爲ヲ犯セリト記載スルニ及ハサルナリ千八百四十一年三月五日千八百四十四年六月三日千八百四十五年二月

第七百九十二號 附屬ノ所爲○商法第五百九十三條ハ左ノ者ニ從犯ノ場合外ニ於テ詐僞倒産罪ノ刑ヲ適施ス、第一分散人ノ爲メ其動産又ハ不動産ノ全部又ハ一部ヲ竊取又ハ藏匿セシト認メラレシ者、第二詐僞ヲ以テ分散ノ事ニ加ハリ自己ノ名義ヲ以テ又ハ他人ノ名義ヲ借リテ贋造ノ貸金證書ヲ眞實ナリト僞證セシト見認ラレシ者、第三他人ノ名義ヲ用非又ハ詭リタル名義ヲ用非テ商業ヲ爲シ第五百九十一條ニ記シタル者はナリ此最初ノ二箇ノ場合ニ於ケル所爲ヲ從犯外ニ罰スル所以ノモトハ分散人ト他人トノ間ニ於ケル不正ナル商議ヲ罰シ以テ公訴ヲ避クルニアリ分散ノ財産ノ竊取及ヒ贋造ノ貸金證書ノ僞證ハ主タル罪ヲ構造スルカ故ニ分散人ニ對シテ起シタル公訴ニ拘ハラ

ス之ニ對シテ公訴ヲ起スヲ得ヘシ千八百四十年三月然レモ此從犯人ヲ訴ヘンコハ其分散ノ爲メニ竊取又ハ僞證ヲ行ヒシコトヲ要ス何トナレハ分散人ノ爲メニ非スシテ他人ノ爲メニ之ヲ行ヒシモハ詐僞倒産ノ所爲ヲ構造セシテ通常ノ竊盜又ハ僞造ヲ構造ス可ケレハナリ千八百四十年六月三日千八百五十二年三月十八日第三ノ場合ニ於テ記シタル所爲ヲ別ニ有罪トスル所以ノモトハ均シク僞ノ名義ヲ用非シ者ヲ訴フルノ煩ヲ避ケンカ爲メナリ○第五百九十四條ハ分散人ノ動産ノ竊取又ハ藏匿ニ關シテ第五百九十三條ニ二箇ノ例外ヲ置キタリ即チ分散人ノ配耦者尊屬ノ親卑屬ノ親又ハ同等ノ姻族ノ親ノ此所爲ヲ犯セシモ及ヒ分散人ト該所爲ヲ共犯セサリシモハ其所爲ヲ尋常ノ竊盜トス然レモ此竊盜ハ分散人ニ對シテ行ヒシモノニ非スシテ債主ノ總員ニ對シテ行ヒシモノナルカ故ニ第三百八十條ハ此場合ニ適當セサ

通常倒産ノ罪及ヒ詐僞取産ノ罪

ルナリ 千八百五十八年四月二十九日及千

第七百九十三號 商法第五百九十六條及ヒ第五百九十七條ハ詐偽倒産ニ關スル二箇ノ罪ヲ記載ス其第一ハ分散管財人ノ其管理ニ付施シタル不正ノ所行ナリ第二ハ債主中ノ一人分散會議ノ時不正ノ投言ヲ爲シ格段ナル利益ヲ得ント約シ又ハ分散財産ニ對シテ自己ノ利益ヲ得シカ爲メ別段ノ約定ヲ爲セシノ所爲ナリ分散管財人ノ不正ノ所行ハ背信罪ニシテ其性質ハ第四百八條ニ之ヲ記載ス不正ノ約束ハ分散ノ後又ハ分散ニ對シテ爲セシキハ他人ニ有害ナル不正ノ所行ナリ此所爲ヲ罰スル所ノ第五百九十七條ハ分散人ト債主トノ間ニ定メシ契約ノ檢査ニ付テノ故障ヲ止メンカ爲メニ格段ナル利益ヲ約セシ債主千八百五十八年八月二十八日ノ判決 分散人ノ爲メニ有益ナル意見ヲ述ヘシ代リトシテ自己ノ貸高ニ付別段ナル保證ヲ爲サシメント望ミシ者 千八百四十四年三月

判決ニ適當ス

第七百九十四號

○證券買賣世話人及ヒ商業世話人○詐偽倒産ハ證券

買賣世話人ノ爲セシキニ於テハ其身分ノ故ニ依テ其刑ヲ加重ス法律ハ此世話人ノ自己ノ商業又ハ銀行營業ヲ爲スヲ禁ス及ヒ法第五百九十六條故ニ商業上分散ヲ爲セシキハ其事情ノ如何ニ關セズ其義務ヲ破リシモノトス若シ其事情ノ通常倒産又ハ詐偽倒産ノ性質ヲ有スルキハ其刑ヲ有期徒刑又ハ無期徒刑ニ迄加重ス 第四百

第四百五條

○第二項 詐偽取財ノ罪

第七百九十五號 民事及ヒ刑事ノ詭計○詐偽取財ノ罪ノ原素ヲ説クニ當リ先ツ民事ノ詭計及ヒ刑事ノ詭計ノ二種ヲ區別セカレテ得ス此第一ノモノハ概シテ他人ヲ害スルヨリ寧ロ私益ノ爲メニ日々行フ所ノ誹議スヘキ總テノ狡猾及ヒ姦策ナリ詐偽ノ確執、契約書ノ變粧、賣物

詐欺取財ノ罪

ノ價額又ハ品位ヲ高良ニ偽陳スルノ如キ是ナリ此種ノ詭計ハ刑法ニ於テ之ヲ罰セス何トナレハ各人ノ之ヲ防クハ容易ノ業ニシテ且ツ法律ニ於テ之ヲ制止スルハ却テ商業取引及ヒ契約上ニ害ヲ生スレハナリ刑事ノ詭計ハ偽言姦話ノミニテハ成立セス外面上ノ姦策ヲ用井人ヲ策中ニ陥落セシキ即チ他人ノ利益ヲ害セシキニ非サレハ成立セサルナリ刑法理論第二千九十一號參觀詐偽取財ヲ構造スルハ夫レ此詭計ノ性質ヲ有スル所爲ニ限ルナリ故ニ詭計ハ第四百五條ニ記載シタル場合ヲ以テ行フタルハ非サレハ之ヲ有罪トセサルナリ

第七百九十六號 詐偽取財罪ノ原素○詐偽取財ノ罪ハ第四百五條ニ從ヒ三所爲ノ具備ニ因テ構造ス、第一法律ニ定メタル詐偽ナル方法(偽名、身分ノ偽稱又ハ姦計)ヲ用井シ、第二此方法ニ因テ得タル證書又ハ價額ヲ交付セシメシ、第三此價額ヲ所有又ハ消費セシ、是ナリ但シ

此三條件ノ適施ニ付テハ數多ノ困難ヲ生セリ

第七百九十七號 偽名○偽名ノ使用ハ或ハ口頭ニテ或ハ書類ニ因テ之ヲ爲ヌヲ得書類ニ因テノ偽名ノ使用ニ付テハ偽造ヲ構造スヘキ場合ト訴偽取財ヲ構造ス可キ場合トナ區別セサルヲ得ス書類ニ因テノ偽名ノ使用ハ其書類ノ義務ヲ生スルカ他人ニ害ヲ醸スカ又ハ此名ノ證書ニ記載シタル事實ヲ證ス可キモノタルハ偽造ノ罪ヲ構造シ之ニ反シテ其書類ノ他人ニ害ヲ醸スヘキ義務、契約又ハ規則ヲ記載セサルハ又ハ此名ノ證書ニ記載シタル事實ヲ證スヘキノ性質ヲ有セサルハ之ヲ詐偽取財ノ一方法トスルナリ刑法理論第二千九十六號參觀故ニ他人ヲ欺キ偽ノ信用ヲ得ンカ爲メニ自ラ想像ノ證書ヲ作りタル者ハ詐偽取財ノ罪トシテ訴ヲ受クルノミ然レハ他人ノ偽證ヲ作り此他人ニ義務ヲ生セシメシハ此詭計ハ偽造ノ罪ヲ構造スルナリ詐偽取財ノ構造ニ

付テハ偽リノ企、無實ノ威權若クハ信用ヲ得ンカ爲メ又ハ無實ノ成功、
 無根ノ災害若クハ事件ヲ希望若クハ恐怖セシム可キ爲メニ偽名ヲ用
 非シテ必要トスル乎否ラス蓋シ此姦計ハ偽名ノ使用ト別物ナレハ此
 計ト偽名ノ使用ト重複スルヲ要セサルナリ是レ法文及ヒ法意ヨリ生
 スル所ナリ偽名ノ使用ハ他人ノ名ヲ借用セシキト變名ヲ用非シキト
 ナ論セス詐偽取財ノ原素ヲ構造スヘシ何トナレハ其効ハ此二箇ノ場
 合ニ於テ同一ナレハナリ千八百五十七年五月然レハ偽名ノ力ヲ借リテ
 月十三日ノ判決
 所爲ヲ成就セシキニ非サレハ罪ヲ構造セサルナリ千八百七十八年
 月六日ノ判決
 第七百九十八號 偽ノ身分○身分ノ偽稱ハ偽名ノ使用ト同一ノ効ヲ
 生シ且同一ノ規則ニ從フ書類ニ因テノ身分ノ偽稱ハ偽名ノ如ク其證
 書ノ或ハ權利ヲ生シ或ハ之ヲ證スルノ用ヲナシ或ハ權利施行ノ爲メ
 證書ヲ使用セシキニ非サレハ偽造ノ罪ヲ構造セサルナリ故ニ無實ノ

信用ヲ得ンカ爲メニ書類ヲ以テ官吏又ハ醫師ノ身分ヲ偽稱セシ者ハ
 姦計ヲ行ヒシニ過スト雖モ然レモ例ヘハ其階級ニ應シタル旅費ヲ領
 受センカ爲メニ旅行免狀ニ官吏ノ身分ヲ偽書セシ者ハ偽造ノ罪ヲ犯
 セシナリ又身分ノ偽稱ハ全ク他ニ事情ナキキト雖モ詐偽取財ノ一原
 素タルヲ得ヘシ即チ他人、商人又ハ仲買人ノ代理人ナリト偽稱シテ價
 額、商品又ハ其他ノ動産ヲ己レニ交付セシメタルノ所爲ノ如キ是ナリ
千八百五十六年五月一日千八百五十七年三月九日同年四月二十三日千
 八百五十九年三月十四日千八百六十八年三月九日千八百六十六年七
 月十八日千八百六十八年九月九日ノ判決 又身分ノ偽稱ノ被害者タル可キ
 者ニ如何ナル害ヲモ醸サ、ルヤ又此者ノ容易ニ其詐偽タル事ヲ檢視
 スルヲ得ヘキキハ偽造ヲ構造セスシテ詐偽取財ヲ構造スヘシ千八百
 六十七年三月二十日 婚姻シタル婦、幼者又ハ丁年者ノ身分ハ常ニ容易ニ檢視シ
 得可キモノニ非サルカ故ニ此身分ノ偽稱ニ陥リ契約ヲナシタル者ハ

詐偽取財ノ罪

告訴ヲ爲スヲ得ヘシ千八百六十七年然レモ如何ナル姦計モナク債主
タルノ身分ノ偽稱ニ陥リタル者ハ告訴ヲ爲スヲ得サル可シ何トナレ
ハ何人モ容易ニ其負債ヲ檢視スルヲ得ケレハナリ千八百六十九年
決若シ眞實ノ身分ヲ用シキハ此身分ノ無實ノ威權又ハ信用ヲ得ル
ノ姦計ニ用立シキニ非サレハ之ヲ有罪トセサルナリ千八百五十五年
八百五十七年五月三十日ノ判決

第七百九十九號 姦計即チ不正ノ策略○第四百五條ハ罰スヘキ失錯
ノ性質ノ義解ヲ掲ケ以テ公訴ニ制限ヲ置クヲ目的トシ一般ノ安寧ヲ
害スヘキ外面上ノ徵候ヲ以テ顯ハレタル所爲ニ非サレハ之ヲ有罪ト
セサルナリ該條ノ罪ヲ構造センニハ四條件ヲ要ス、第一所爲ノ策略ヲ
以テ行ヒシモノタルヲ、第二策略ノ不正ナルヲ、姦計第三偽ノ企、無實ノ
威權若クハ偽ノ信用ヲ得ンカ爲メ又ハ無實ノ成功無根ノ災害若クハ

事件ヲ希○若クハ恐○懼○スヘキ爲メニ此不正ノ策略即チ姦計ヲ用シシ
ヲ、第四此姦計ニ因テ價額ヲ交○付○セシメ又ハ交付セシメント試ミシコ
是ナリ

第八百號 第一策略ヲ説カン夫レ策略トハ他人ノ信用ヲ得ンカ爲メ
ニ用キタル方法ニシテ數所爲ノ集合、多少狡猾ヲ以テ準備シタル謀計
ナリ此策略ヲ構造センニハ外面上ノ所爲ナキ言詞、詐僞ノ確執又ハ口
約ノミヲ以テ充分トセス其基ツキ且信用ヲ生スヘキ他ノ所爲アルヲ
要スルナリ數多ノ判決ニ於テハ此區別ヲ採用シ、概シテ無實ノ威權ヲ
用非無實ノ財産ヲ偽證スル如キ尋常ノ詐僞ニ名又ハ身分ヲ偽稱セサ
ルニ於テハ之ヲ策略トスルヲ得ス千八百四十二年七月二十六日
千八百四十四年一月十八日及千八百四十七年五月二十八日ノ判決然
レモ詭計ノ言詞ニ添ヘ他人ノ干渉、書翰ノ製造等ノ如キ此言詞ヲ強ヨ

詐欺取財ノ罪

ム可キ外面上ノ所爲アルキハ其集合ニ因テ策畧ヲ生スルナリ
 年七月十三日同年八月二十日千八百五十五年十一月十一日同年二月十
 日千八百五十九年八月七日千八百六十四年十一月十三日千八百六十
 七年八月二十一日千八百六十八年四月三十日但シ總テ所爲ハ他人ヲ害
 ムヘキ言詞又ハ偽ノ約束ニ因テ生シトキト雖モ調査セシテ之ヲ
 策畧ナリト看做スヲ得ス又暴行ハ如何ナル場合ト雖モ策畧ノ性質ヲ
 有セス何トナレハ第四百五條ニ於テ罰スル所ノモノハ詭計ニシテ威
 力ノ使用ニ非サレハナリ又唯所爲ノ不正ナルノミニテハ策畧ヲ構造
 セス其人ヲ欺クヘキ豫備ノ成績タルヲ要スルナリ故ニ二三ノ判決ニ
 於テハ辨濟ヲ得タル後ニ義務ノ證書ヲ保持シ又ハ第二回ノ辨濟ヲ要
 求スルノ所爲辨濟ヲ爲スヘキ資力ナキ負債主ノ借金ヲ約スルノ所爲
 ハ策畧ニ非サルヲ決定セリ千八百八十五年五月二十六日千八百九十二年二
 月十七日及ヒ千八百二十一年三月二十
 二年ノ判決○刑法理論 策畧ハ常人精神ノ錯亂セサテ抑制シ且其信用
 第二千二百六號參照

ヲ得ヘキ性質ノモノタルヲ要スル手判決例ニ於テハ以前ハ法ノ條例
 ヲリ寧ロ法意ニ從テ策略ハ如此キ性質ノモノタルヲ要セリ千八百六
 三
 日千八百七十七年四月二十四日千八百八十五年五月
 二十八日及ヒ千八百十四年八月三日ノ判決然レ此判決例ハ永續
 セサリ何トナレハ破毀院ニ於テハ常ニ該事件ニ關スル數多ノ所爲
 ヲ檢査シ遂ニ犯人ノ巧熟ノ度ニ從テ其罪科ヲ定ムルノ危害ナルヲト
 漸クニシテ欺カル、者ト均シク容易ニ欺カル、ヲ得ヘキ文盲人ヲ保
 護スルノ要ナルヲ察知セシナレハナリ刑法理論第二千二
 百九號以下參照
 第八百一號 第二策略ノ不正ナルヲ要ス故ニ何程他人ニ有害ナル
 モ其善意ヲ以テナセシ策略ハ罪ノ原素トナラサルヲ以テ法律ハ大膽
 ナル企無分別ナル企ヲ罰セスシテ唯詭計ヲ罰スルノミニ二三ノ判決ニ
 於テハ詐僞取財ヲ構造セシハ詭計ノ所爲アルヲ要用トス可キヲテ
 決定セリ是レ犯人自ラ其詐僞タルヲ知リ且此犯人ト約セシ者カ其

詐僞取財ノ罪

敵手ノ己レヲ欺クヲ知ラサリシキノミ生スルモノナリ何トナレハ
 犯人其陳フル所ヲ自ラ眞實ナリト信スルニ於テハ詭計ノ所爲アラサ
 レハナリ共和十三年十二月十三日九月廿七日ノ判決
 第八百二號 第三策略ノ第四百五條ニ指示シタル目的ヲ有スルヲ要
 ス故ニ姦計ノ罪ヲ構造セシムハ用キタル方法ノ策略ナルコト此策略
 ノ不正タルコトノ二事ノミヲ以テ充分トセス其不正ノ策略ノ格段ニ
 所爲ヲ成就シシカ爲メ又ハ法律ニ記載シタル感覺ヲ生セシメンカ爲
 メ用キシモノタルコトヲ要用トス是レ數多ノ判決ニ於テ實施セシ所ナ
 リ八百十七年三月七日ノ判決 而シテ策略ハ法律ニ定メタル効ヲ生セ
 シキニ非サレハ有罪ニ非ス又此効ヲ生スル所爲ハ策略ノ性質ヲ有ス
 ルキニ非サレハ有罪ニ非サルナリ八百四十四年七月五日ノ判決
 第八百三號 策略ノ目的タル僞ノ企無實ノ威權僞ノ信用希望又ハ恐

怖トハ如何ナルモノヲ云フ乎僞ノ企トハ或ハ全ク想像ノモノ或ハ全
 ク想像ニ非スト雖モ僞ヲ以テ相違ヲ述ヘシモノヲ云フ此第一ノ場合
 ニ於テハ犯人ノ言詞ノ僞リナルコトヲ證スルヲ要シ第二ノ場合ニ於テ
 ハ其企ヲ犯人ノ述ヘタルモノト差等アルコトヲ證スルヲ要ス故ニ全ク
 想像ノ企ノミナラス眞實ノ企ニシテ其一部ノ僞ナルキト雖モ僞ノ企
 アリトス千八百六十一年十二月二日ノ判決 無實ノ威權又ハ信用ヲ得
 トハ犯人カ他人ヲシテ己レノ有セサル官位財産威權等ヲ有スル者ヲ
 リト信シシメントスル總テノ所爲ヲ云フナリ千八百二十二年三月 此威
 權又ハ信用ヲ生スルノ所爲ハ全ク無實ノモノタルヲ要セス犯人カ其
 約束ヲ守ルヲ得サルカ又ハ之ヲ守ルヲ得サル可シト自ラ信セシヲ以
 テ充分トス千八百十九年三月二十五日ノ判決 想像ノ事件ノ希望及ヒ
 恐怖ハ人ノ貪心情慾ニ乘シテ投シタル騙欺ヲ包含ス千八百二十四年

月十一日及千八百四十二年八月十三日ノ判決ニ法律ノ適施ニ付テハ此所爲ノ全ク想像ニ屬スルヤ又行ハル、ヲ得可キモノタルヤヲ區別スルノ要ナク唯事件ノ希望ヲ欺キタルノ所爲ノミヲ以テ充分トス此事件ハ被害者ノ爲メニハ常ニ想像ナリ何トナレハ被害者ハ善意ニテ之ヲ待チシモノナレハナリ二三ノ判決ニ於テハ事件ノ恐怖ト云フ語辭ヲ犯人カ人ニ其無實ノ罪ヲ訴フヘシト述ヘテ之ヲ恐怖セシメシノ所爲ニ適當セリ千八百九千八百四十九年十一月十一日ノ判決及然レモ其人眞ニ罪アルニ於テハ犯人カ全ク無實ノヲ述ヘテ恐怖ヲ起サシメシニ非サルヲ以テ犯人ハ詐僞取財ノ罪ヲ受ケスト雖モ第四百條ノ第二項ニ從テ脅迫ノ罪ヲ受クヘシ千八百五十四年八月六日ノ判決

第八百四號 價額ヲ交付セシメシメシ○詐僞取財ノ第二ノ原素ハ第一ノ原素ヲ構造スル所ノ不正ナル一方法ヲ以テ得タル價額ヲ已レニ交

付セシメシコナリ第四百五條ハ首メニ箇様々々ノ方法ヲ以テ何々ヲ已レニ交付セシメシ者ト記載セリ是レ交付ノ詐僞取財ノ罪ノ構造スルニ原因ヨリ且必要ナルコトヲ指示スルモノナリ又終リニ此方法中ノ一ニ因テ消費云々ト附記セリ故ニ價額ヲ交付セシメシコハ罪ノ一原素ニ過キササルナリ千八百二十三年八月六日千八百三十九年九月六日千八百四十二年三月四日千八百四十五年六月二十日及而メ交付ヲ得ンカ爲メニ用ヰタル方法ト此交付トノ間ニハ原因ト効果トノ關係アルカ故ニ交付ヲ得タルハ法律ニ指示シタル方法ヲ用ヰシニ原因スルコトヲ判定スルヲ要ス何トナレハ其他ノ方法ニ因テ得タル交付ハ罪ヲ構造セザレハナリ千八百二十年五月五日及千八百六十年九月九日ノ判決

第八百五號 第四百五條ニ金額動産又ハ義務規則手形約束領收又ハ義務釋放ノ書類ノ交付ヲ記載スト雖モ此數語ハ動産及ヒ義務書ノ二

詐取取財ノ罪

類ヲ指示スルニ過キサルナリ而シテ不動産ハ該條ニ記載セザリシ何ト
 ナレハ詐偽取財ハ竊盜ノ如ク不動産ニ適當セザレハナリ但シ不動産
 ナ記載スルノ證券ヲ交付セシメシ者ハ之ヲ罰スルナリ千八百三十三年三月二十八日
及ヒ同年十一月十六日ノ判決破毀院ニ於テハ不動産ノ賣主ノ偽ノ證券ニ因テ竊計
 ナ以テ重複ニ其價ヲ得シキハ之ヲ詐偽取財ノ犯人トシテ訴フルヲ得
 へキヲ判決シリ千八百六十四年十一月十四日○義務書、規則書、領収書
 及ヒ義務釋放書ノ語辭ハ總テ權利ヲ生スルヲ得へキ書類ニシテ由テ
 以テ他人ノ財産ニ害ヲ醸スヲ得可キモノヲ悉ク包含ス判決例ニ於テ
 ハ此規則ヲ下ノ場合ニ適當セリ即チ訴訟人中ノ一人ヨリ裁判所ニ出
 シタル陳述千八百三十八年十一月十九日ノ判決 保險證書ノ製造千八百五十七年三月
九月日想像ノ事件ニ當リ辨濟スへキ手形ノ製造千八百五十七年九月手
 署アル白紙ノ交付ヲ得シ千八百五十四年七月十四日ノ判決 工場長ノ工人ノ給料ニ

付キ施シタル詭計千八百六十六年三月三十一日ノ判決 價額ヲ過分ニ得ンカ爲メニ會社
 ニ於テ製造シタル物産ノ價ヲ不正ニ高メシ千八百六十五年七月十八日ノ判決 偽ノ保
 證ヲ以テ爲シタル債主權ノ販賣千八百六十五年七月十八日ノ判決 不正ノ證書
 ナ製シテ私和ヲ爲ス千八百六十六年六月二十日ノ判決 負債主ノ辨濟シタル金額ヲ其
 目的トシタル貸高ノ辨濟ニ充テシ千八百六十六年六月二十日ノ判決 身分ノ偽稱ニ因
 テ物ヲ得ル千八百六十七年八月十八日ノ判決 不動産ノ販賣ニ當リ之ヲ得ンカ爲メニ
 策畧ヲ用フル千八百七十四年十月十日ノ判決 是ナリ○法律ハ詐偽取財ノ犯人カ
 交付ヲ得且之ヲ益セシ千八百七十四年十月十日ノ判決 希望セズ故ニ被害者カ犯人ニ非サル者ニ
 證書又ハ價額ヲ交付シ且犯人ノ絶テ之ヲ益セザリシ千八百七十四年十月十日ノ判決 雖モ詐偽取
 財ノ罪ヲ構造スルナリ千八百五十七年三月二十七日ノ判決 及ヒ千
 第八百六號 詐偽取財ノ罪ヲ構造スへキ所爲ハ假令犯人ノ用非タル
 不正ノ方法ノ契約書ヲ製スルヲ目的トセシ千八百七十四年十月十日ノ判決 雖モ證人ヲ以テ之ヲ

詐偽取財ノ罪

證スルヲ得ヘシ民法第三百四十一條ハ證人ヲ以テ百五十五ノシツルノ
 金高ニ超ヘサル契約ヲ證スルヲ許サスト雖モ此規則ハ第三百四十
 八條ニ從ヘハ詐偽又ハ詭計ナル場合及ヒ債主ノ證據ノ書類ヲ得ル能
 ハサル場合ニ適當ニサルナリ又破産院ニ於テハ第一犯人カ公式ヲ履
 踐シタル契約書ヲ交付セシメタル場合ニ於テハ法律ニ定ムル所ノ諸
 種ノ證據ヲ以テ其策畧ヲ證スルヲ得且其契約書タルト私證書タルト
 ナ區別スルニ及ハサルヲ判決シ月千八百三十八年十一月第二賣買ヲ目
 的トシテ詐偽ノ所爲ヲ行ヒシ場合ニ於テハ刑法ノ規則ニ關シテ賣買
 ニ例外ナキコト契約ニ瑕疵ヲ來タシタル詭計ニ付テハ策畧ノ輕重ニ
 從テ民事ノ訴又ハ輕罪上ノ訴ヲ起スヲ得可キコト判決セリ千八百四
 二年四月千八百五十四年四月七月ノ判決
 及ヒ千八百五十四年四月七月ノ判決
 第八百七號 所有○詐偽取財ノ最尾ノ原素ハ所有ナリ第四百五條ハ

姦計及ヒ價額ノ交付ノ外犯人カ此方法ニ因テ他人ノ財産ノ全部又ハ
 一部ヲ所有シ又ハ所有シント試ニシコトヲ希望ス何トナレハ策畧ハ豫
 備ノ所爲交付ハ執行ノ所爲ニ過キヌシテ未ダ罪ノ成就アラサレハ十
 リ然レモ法律ハ策略ニ因テ得タル價額ノ亡失ヲ要セス唯犯人ノ之ヲ
 所有セシコトヲ要スルナリ又唯之ヲ使用シ或ハ亡失セシコトヲ要セス之
 ナ所有セシ如ク或ハ其還給ヲ拒ミテ之ヲ益スルノ意思ヲ顯ハセシヲ
 要スルナリ 刑法理論第二千二
 第八百八號 未遂犯○千八百六十三年五月十三日ノ法ハ此時ニ至ル
 迄價額ノ交付ヲ構造スルノミノ條件タリシ所ノ詐偽取財ノ未遂犯ヲ
 有罪トセンカ爲メニ第四百五條ニ附加サセリ 千八百二十八年三月
 九年一月二十三日及ヒ千八百三十九年九月六日千八百四十四年
 十二月三月四日及ヒ千八百四十五年六月八日ノ判決此改定ニ從ヘハ
 未遂犯ハ犯人カ法律ニ記載アル不正ノ方法ニ因テ金銀ヲ交付セシメ

詐偽取財ノ罪

ト試ニシキニ成立ス但シ此附加ハ一般ノ條件ニ變更ヲ醸サ、ルナ
 リ該條ハ詐僞取財ノ義解及ヒ不正ノ方法ヲ以テ金額ヲ交付セシメ或
 ハ交付セシメント試ミタル者ノ所爲ヲ掲ケタル後、此方法中ノ一ニ因
 テ他人ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ所有シ又ハ所有セント試ミシ云々ト
 附記セリ故ニ詐僞取財ノ未遂犯ハ同時ニ交附セシムルノ未遂犯及ヒ
 所有セントスルノ未遂犯ナルカ故ニ其交付及ヒ所有ヲ目的トシテ爲
 セシキニ非サレハ罰ス可キモノニ非ス即チ犯人ノ金額ヲ交付セシム
 ル爲メ不正ノ方法ヲ用非且之ヲ所有スルノ目的ヲ有セシト要スル
 ナリ但シ此未遂犯ハ第二條ニ記載シタル條件ヲ具備スルキニ非サレ
 ハ之ヲ有罪トスルヲ得サルナリ千八百五十年二月二十八日及千八百五十七
 年四月四日ノ判決ニ於テハ未遂犯ノ性質アリト判決セリ即チ規則ニ
 從テ記シタル不正ノ勘定書ヲ其支辨ヲ爲ス可キ官署ニ出スト千八百
 四十二

年十二月十日及千八百五十五年判決 辨濟ヲ得ンカ爲メニ僞ノ貸金書ヲ出ス
 十月八日判決 商議ヲ爲サンカ爲メニ眞正ノ手形ヲ記シタル人ニ
 其期限前ニ不正ノ手形ヲ出ス千八百六十年六月十一日及千八百六十八
 年二月二十日ノ判決 是ナリ然レヒ勞力ノ帳簿未タ勤メサル勞力ヲ記載セシ
 ノ所爲ハ其不正ノ賃銀ヲ得ント試ニシキニ非サレハ未遂犯ノ罪ヲ生
 セサルナリ千八百七十年四月
 第八百九號 詐僞取財罪ノ原素ヲ宣告書載スルト○輕罪裁判所ハ詐
 僞取財ノ宣告書中ニ其諸原素ヲ正確ニ記載スルヲ要ス敷多ノ判決例
 ニ於テハ之ヲ下ノ如ク畧記セリ「詐僞取財ノ罪ヲ構造スヘキ三原素ハ
 罪ヲ成就シタル方法犯人ノ企テタル目的及ヒ其結果タルヲ而シ其方
 法ハ姦計ヲ以テ行ヒシモノタルヲ其目的ハ姦計ニ因テ欺カントシタ
 ル僞ノ企、僞ノ希望タルヲ其結果ハ金銀又ハ證書ノ交付タルトシ千八
 百三

詐欺取財ノ罪

十八年三月二日此三原素ハ各格段ナル性質ヲ有スルカ故ニ之ヲ分離スルハ爲シ難キナリ詐僞取財ハ其所爲及ヒ法式ノ數多ナルヲ以テ種々ノ方法ニ因テ之ヲ判定シ而シテ其條文不明ナルカ故ニ刑事上ノ流計ヲ構造シサル所爲ニモ亦之ヲ適當スルヲ得ヘシ破毀院ニ於テハ裁判所ニ於テ詐僞取財ニ付有罪ト認メタル總テノ所爲ノ其性質ヲ有スルマ否ヤヲ検査スルノ權アリトスルハ夫レ之ニ由テナリ故ニ詐僞取財ノ名義ニ付破毀院ノ検査ヲ容易ナラシメンカ爲メ裁判所ノ宣告書ニハ詐僞取財ノ罪ヲ構造スルニ必要ナルモノト思考シタル事情ハ悉ク之ヲ記載ス可キナリ千八百九十三年九月十七日千八百九十四年八月五十七年八月十一日及ヒ千八百九十五年二月十四日千八百九十五年六月十一日及ヒ千八百九十五年八月二十日ノ判決以上ノ罪ノ原素ニ關スル格段ナル規則ハ正犯者ニノミナラズ從犯者コノミ對シテモ亦必要ナリ故ニ先ツ罪ノ性質ヲ定メンカ爲メ其原素ヲ記載シ然ル後第六十條ニ從テ從犯ヲ構

造スヘキノ所爲ヲ記載スルヲ要スルナリ千八百四十七年五月十四日千八百五十年六月四日千八百六十二年十二月十七日及ヒ千八百六十九年十二月廿四日ノ判決

第四百六條

○第三項 幼者ノ情慾ニ乘シテ之ヲ欺罔スル罪

第八百十號 民法第一千二百二十四條ニ於テハ幼者ハ契約ヲナスノ能力ナシト記シ又第一千三百五條ハ輕易ナル損害アリタル場合ニ於テハ後見ヲ免カレサル幼者ノ爲メニハ何種ノ間ハス總テ其契約ノ取消ヲ訴ラテ許シ又後見ヲ免カレタル幼者ノ爲メニハ其能力ノ區域ヲ超ヘテ結ヒタル總テノ契約ノ取消ヲ訴フヲ許ス可キコトヲ附記セリ然レモ此ニ則ハ幼者保護ノ爲メニ猶ホ不充分ナルカ故ニ刑法第四百六條ハ幼者ノ未熟及ヒ其情慾ニ乘シ豫メ之ニ金銀ヲ授與シテ至重ナル報酬ヲ得ルヲ約シ以テ之ヲ零落セシムル所ノ情慾人ノ姦策ニ對シテ幼者ヲ保護スルヲ目的トス此幼者ノ怯心ヲ欺クノ所爲ハ輕罪ヲ構造シ三條

幼者ノ情慾ニ乘シテ之ヲ欺罔スル罪

件ヲ要ス、第一犯人カ幼者ノ需要怯心又ハ情慾ニ乗シテ之ヲ欺ク、第二此欺キノ金銀動産又ハ商品ノ貸付ニ付義務書、領収書又ハ義務釋放書ヲ幼者ニ記載セシムルヲ目的トスルヲ第三此記載シクル義務書ノ幼者ニ損害ヲ醸ス可キモノタルコト是ナリ

第八百十一號 第一ノ原素ハ幼者ヲ欺クコトナリ已レノ慾心ノ爲メニ幼者ノ未熟ナル情慾ニ乗セシ此所爲ノ判定ハ裁判官ニ屬ス千八百六十六年二月二十二日判決而ノ此欺罔ハ幼者ニ對シテ行ヒシコトヲ要ス茲ニ幼者トハ總テ滿二十一歳ニ至ラサル者ヲ云ヒ而シ其後見ヲ免カレシト否ト又商業ヲ爲スノ允許ヲ得シト否トヲ區別スルニ及ハサルナリ民法第四百八十七條及四百八十八條如此ク法律ハ此場合ニ於テ如何ナル區別ヲモ爲サ、リシ所以ノモノハ幼者ノ年齢ニ乗シテ之ヲ謀リタルノ點ニ於テハ幼者カ後見ヲ免カレタルト否トニ付差等ナキカ故ナリ民法第四百六條ニ因テ

幼者ト同視スル所ノ治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ之ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

第八百十二號 第二ノ原素ハ金銀又ハ動産ノ貸借ニ付義務書ヲ記載セシメシコトナリ若シ此結果ヲ生シサリシキハ法律ニ因テ罰セサル未遂犯ニ過キサルナリ其義務書ハ金銀又ハ動産ノ貸借ヲ目的トシテ記サシメシコトヲ要ス而シテ假令此貸借ノ不動産賣買ノ法式ヲ履踐シテ其賣買ノ如ク變粧セシキト雖モ此變粧ハ貸借ヲ訴フルノ障礙トナルコトナシ何トナレハ法律ハ其法式ノ如何ヲ要セス總テ幼者トノ間ニ動産ノ貸借ヲ爲スヲ禁スレハナリ

第八百十三號 第三ノ原素ハ貸借ノ契約ニ因テ幼者ニ損害ヲ起スコトナリ此契約ハ幼者ヨリ報酬ヲ出クヌ可キモノ又ハ之ニ有害ナルモノタルヲ要ス故ニ其幼者ノ爲メニ有益ナルキハ其結約人ニ如何ナル罪

幼者ノ情慾ニ乗シテ之ヲ欺罔スル罪

ヲモ生スルヲナシ然レモ茲ニ論スル所ノモノハ損害ヲ生スルヲ得ヘキ場合ナリ而シテ概シテ契約ノ無効ハ刑事ノ訴ニ障礙ヲ生スト雖モ此場合ニ於ケル無効ハ其訴ニ障礙ヲ生セス從テ罪科ヲ消滅セサルナリ

第八百十四號 手署アル白紙ノ妄用第四百七條及ヒ背信第四百八條ノ二罪ニ均シク適當スル所ノ第四百六條ハ二月乃至二年ノ禁錮ノ外「被害者ニ歸スヘキ還給及ヒ賠償ノ四分之一以下二十五ラフン」以上ノ罰金ヲ宣告ス法律ハ民事原告人アル尋常ノ場合ニ於テ如此ク判決セリ若シ檢事カ職權ヲ以テ罪ノ訴ヲ爲セシキハ裁判官ハ欺罔ヨリ生シタル損害ヲ評定スルヲ得ヘシ是レ罰金ノ高ヲ定メシカ爲メナリ千八百六十二年二月二十八日及ヒ千八百六十六年一月十三日ノ判決若シ宣告書ニ損害ノ評價ノ記載ナキハ條例ニ定メタル最下極ノ高ニ於ケル罰金ヲ出ス可キモノトス千八百四十一年十一月十三日ノ判決故ニ如此キ場合ニ於テハ罰金ハ民事原告人ヨリ願フタル

還給ノ高ニ基カスシテ損害ノ高ニ基キテ之ヲ定メ且裁判官ハ罰金ノ高ヲ定メシカ爲メニ基礎トナル可キ損害ノ高ヲ評定スルノ義務アリ千八百四十九年八月三十日ノ判決若シ罰金ノ高法律ニ於テ許ス所ノ高ニ超過セシキハ破毀院ニ於テ其審判ヲ破毀ス而シテ若シ金高ヲ減シ更ニ之ヲ定ムルヲ要スルハ審判ノ一部ヲ取消サスシテ其全部ヲ取消スナリ千八百五十九年三月四日ノ判決

第四百八條

○第四項

手署アル白紙ヲ妄用スル罪

第八百十五號 手署アル白紙ノ妄用ハ他人ノ手署アル白紙ニ其手署人ニ有害ナル文書ヲ不正ニ記載スルニ依テ生スルナリ第四百七條ニ從ヘハ該條ニ記載スル所ノ妄用ノ罪ヲ構造センニハ左ノ三條件ヲ要ス、第一手署アル白紙ヲ其妄用者ニ委託シシコ、第二手署ノ前部ニ文書ヲ記セシコ、第三此文書ノ手署人ノ身體又ハ財産ヲ害スヘキ性質ノモ

手署アル白紙ヲ妄用スル罪

ノタルト是ナリ

第八百十六號 眞ノ偽造ヲ構造スル所ノ手署アル白紙ノ妄用ハ手署
 人ヨリ故ラニ其妄用者ニ之ヲ託セシキニ非サレハ尋常背信ノ性質ヲ
 有セサルナリ故ニ手署人ヨリ其手署アル白紙ヲ妄用者ニ託セシカ妄
 用者ノ詭計ヲ以テ之ヲ奪ヒ或ハ災變ニ因テ其占有者トナリシカテ區
 別セサルヲ得ス此第一ノ場合ニ於テハ手署人ニ不注意ノ過失アルヲ
 以テ其妄用ハ輕罪タルニ過キスト雖モ第二ノ場合ニ於テハ偽造ノ重
 罪ヲ構造スヘシ何トナレハ手署人ヨリ故ラニ委託セシニ非サレハ其
 妄用ノ容易ナリシトテ申立ツルヲ得サレハナリ手署ノアル白紙ノ名
 義ヲ以テ且代理ノ命ニ因テ他人ニ交付セシキニ非サレハ人ニ委託セ
 シモト看做サス而シテ獻言書及ヒ未送書翰ノ下ニ記シタル手署ノ妄
 用ハ手署アル白紙ノ妄用ニ非サルナリ千八百二十九年七月二十日及ヒ千

八百四十九年一月二十五日ノ判決 手署アル白紙ノ託ヲ受ケタル者ノ之ニ約外ノ文書
 ナ記セシト他人ノ之ヲ記セシトハ罪ノ構造ニ付差等ナシトス千八百
二月四日千八百三十年四月八日及ヒ千八百三十五年一月三十一日 又公ケノ官更
三月十一日ノ判決 ○刑法理論第二千二百五十九號參觀 又公ケノ官更
 ノ妄用ヲ行ヒシキト雖モ輕罪ノ性質ハ變更セサルナリ千八百四十年
七月三十一日 然レモ尋常ノ妄用ト偽造トヲ明白ニ分離スルヲ要ス即チ白紙ノ
 名義ヲ用ヰスシテ手署アル白紙ヲ託セシキ妄用者手署人ノ信用ニ因
 ラスシテ白紙ヲ得シキ及ヒ妄用ヲ爲セシ者ノ白紙ヲ領受セシ者ニ非
 サルキハ偽造ノ罪アリトス

第八百十七號 第二ノ原素ハ手署アル白紙ノ妄用ナリ例ヘハ委任ノ
 文書ヲ製センカ爲メニ領受シタル手署アル白紙ニ賣買ノ契約ヲ記シ
千八百九年一月 計算ノ規則ヲ定メンカ爲メニ領受シタル手署アル白
紙 手形ニ換用セシ千八百七十二年 如キ是ナリ而シテ手署ノ上ニ二

手署アル白紙ヲ妄用スル罪

三ノ語ノミ筆記又ハ印刷シアリタルキニ於テ犯人ノ不正ニ之ヲ補充セシキト雖モ上ト同一ナリトス何トナレハ白紙妄用ノ構造ニ付テハ紙上ニ記載スル所ノ此少數ノ語ヲ補充シテ手署人ニ有害ナル義務ヲ結ヒシヲ以テ充分トスレハナリ千八百八十二年三月十一日判決然レモ妄用ノ不正タルヲ要ス何トナレハ罪ハ實ニ偽ノ契約ヲ爲セシキノミナラス其後ニ行フ所ノ不正ノ使用ニ依テ成立スレハナリ千八百八十一年四月二十一日判決

第八百十八號 第三ノ原素ハ損害ヲ生スルヲ得可キヲ即チ手署ノ上ニ記シタル文書ノ手署人ノ身體又ハ財産ニ害ヲ醸スヲ得可キヲナリ故ニ此効ヲ生セサル文書ハ假令不正ノ意思ヲ以テ之ヲ爲セシキト雖モ罰スヘキノ妄用ニ非サルナリ千八百八十九年五月一日及千八百九十三年二月二十六日ノ判決又委任狀中白紙ノ儘殘シ置キタル場所ニ手署人ノ姓名又ハ其品行保證

等ノヲ記スルモ其有害ナル使用ヲ爲サ、リシキハ妄用ヲ構造セサルナリ然レモ印刷シ且前部ニ手署アル簿冊ニシテ選舉人及ヒ此身分ヲ有セサル者ノ姓名ヲ記載ス可キモノニ不正ニ書加ヘテ爲スノ所爲ハ之ヲ有害トス千八百二十六年五月十七日判決

第八百十九號 手署アル白紙ノ前部ニ記シタル義務ノ百五十「フラン」以上タルキハ證人ヲ以テ證スルヲ許サ、ルカ故ニ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ處斷スルノ權ナシ是レ判決例ニ於テ定ムル所ノ規則ナリ千八百八十九年五月五日判決手署アル白紙ノ交付ハ契約ニ非ス如何ナル義務ヲ生セサルノ所爲ニ過キサルカ故ニ假令百五十「フラン」ヲ超過ストモ證人ヲ以テ證スルヲ得ヘシト云テ上ノ判決例ヲ非難スルヲ得ヘシ但シ此所爲ハ妄用ノ所爲ト混淆ス可カラズ刑法論第二千二百六十六號參觀然レモ判決例ニ於テハ手署アル白紙ノ交付ノ所爲ハ民法ニ記載スル所ノ諸種ノ證據ニ

手署アル白紙ヲ妄用スル罪

因ルニ非サレハ證スルヲ得可カラサル代理ヲ包含ス可キヲ確執セ
 リ但シ此規則ニハ下ノ制限アリ、第一犯人カ手署アル白紙ノ成立アル
 ヲ認メ且證人カ妄用ノミヲ證セシキ此場合ニ於テハ民法ノ犯則ナ
 シトス何トナレハ此證據ハ契約ニ適當セスシテ輕罪ニノミ適當スレ
 ハナリ)千八百六十年十月十日ノ判決第二交付ノ證據ノ端緒タル書類又ハ分離ス可
 カラサル自認アリ又ハ犯人カ輕罪裁判所ニ於テ抵拒法ヲ行ハサリシ
 此場合ニ於テハ犯人民法ニ據リ不服ヲ唱フル能ハス)千八百四十九
 年十二月十五日ノ判決第三手署アル白紙ノ商業ヲ目的トスルキ又ハ詭計若クハ詭欺ヲ
 以テ之ヲ得シキ)千八百六十四年四月二十二日ノ判決 是ナリ

第四百八條及
 第四百九條

○第二節 背信ノ罪

第八百二十號 義解○第四百八條ハ該條ニ指示シタル契約ニ違背セ
 シノ所爲ヲ記載ス千八百三十二年四月二十八日及ヒ千八百六十三年

五月十三日ノ二法ハ其規則ヲ適當スヘキ契約ノ數ヲ増加セリ此背信
 ノ罪ノ性質ハ法律ニ之ヲ指示シ下ノ四條件ヲ要ス、第一犯人ノ其受託
 物ヲ竊取又ハ消費セシ、第二此竊取ノ所有主、占有主又ハ所持人ニ有
 害ナル、第三託ヲ受ケタル物件ノ動産、金銀、商品、手形、領収書又ハ其他
 義務若クハ義務釋放ヲ記載スル書類タル、第四此物件ノ後ニ之ヲ還
 付シ或ハ顯示シ又ハ定マリタル用法ヲ爲ス可キノ約束ヲ以テ貸借、附
 託、代理、抵當、使用ニ付テノ貸借ノ名義ニ於テ交付セラレシモノタル、
 是ナリ背信ノ罪ハ此四條件ノ具備スルキニ非サレハ其構造ナキナリ
 第八百二十一號 竊取○第一ノ條件ハ動産ノ竊取又ハ消費ナリ此竊
 取又ハ消費ハ受託物ヲ所有スルノ所爲ニ因テ生ス即チ或ハ貸主、附託
 者又ハ委任者ノ權ニ代リ或ハ所有主ノ爲スヘキ事ヲ爲シ或ハ定マリ
 タル用法ヲ爲サンカ爲メニ附託セラレタル物件ヲ私益シテ之ヲ所有

背信ノ罪

シ或ハ之ヲ使用スル如キ是ナリ千八百四十五年六月十三日ノ判決○
 犯人カ其竊取シタル物件ヲ自身ニ益セシト否トヲ判別スルハ必要ノ
 一ニ非ス何トナレハ法律ニ於テハ如此キ判定ヲ要用トセカレハナリ
千八百六十六年四月十二日及ヒ然レモ詭計ヲ以テ竊取ヲ爲セシヲ
 千八百六十七年五月十日ノ判決
 判定スルヲ必用トス何トナレハ犯人ニ害ヲ加フルノ意思ナキニ於テ
 ハ罪ヲ生セサレハナリ故ニ背信ノ件ニ關シテハ契約ノ不執行ト詭計
 トヲ區別スルヲ要ス不執行ハ民事ノ訴ヲ生スルニ過キスト雖モ詭計
 ハ刑事ノ訴ノ原因タルヲ得ヘシ故ニ懈怠又ハ不注意ニ非スシテ詭計
 及ヒ人ニ害ヲ加フルノ意思ヲ以テ竊取ヲ行ヒシノ事ハ判定セサルヲ
 得サルナリ共和第八年二月七日及ヒ千八百四十六年一月二十一日
 及ヒ千八百四十六年十二月二十六日
 第九年五月三十日ノ判決

第八百二十二號 不正ノ意思○詭計ノ判定アリシキニ非サレハ罪ナ

シト云フ此規則ノ適施ハ常ニ容易ニ非サルナリ詭計ハ外面上ノ徵候
 ニ因テ顯ハレタルキハ確實ナリト雖モ常ニ外面上ノ徵候ニ因テ顯ハ
 レザルカ故ニ然ルキハ不得止之ヲ確實ト看做シ種々ノ方法ヲ以テ判
 定スルヲ得ヘキ所爲ニ之ヲ附着ス不正ノ意思ヲ構造セシニハ金銀ノ
 附託ヲ受ケタル者之ヲ還付スルノ意思ヲ有スルカ又ハ之ヲ還付スル
 ヲ得ヘキキハ唯其使用ヲ爲セシノミヲ以テ充分トセス然レモ使用シ
 クル後ニ還付スル能ハサルキハ詭計ノ推測ヲ立ルヲ得但シ代理人即
 チ受託人負債ナキヲ確執セサルカ又ハ期限後ニ於テ催促ヲ受タル
 後ニ尙辨濟ヲ爲サ、ルヲナキキハ罪ヲ構造セサルナリ然レモ此遲滯
 後ニ於テハ代理人ノ其任ヲ盡ス能ハサルノ所爲千八百三十八年三月
 三十日ノ判決因テ罪ノ成就アリトス千八百五十四年十一月十四日及ヒ
 千八百五十四年三月十四日ノ判決

第八百二十三號 犯人カ不正ノ意思ヲ有セシ乎否ノ判定ハ概シテ陪
 背信ノ罪 八百五十五

審會ニ屬ス而シテ其意思ナキコトノ判定ハ動カス可カラサルナリ
 千八百八十六年五月三十日然レモ此事ニ關シテ判決例ニ於テ一例外アリ即チ既ニ陪
 審會ニ於テ詭計ナシトシテ判定ヲ終リタル所爲ニ付詭計ナカラサル
 ナ得サルモハ破毀院ニ於テ裁判所ノ宣告ヲ反對ナリトシテ取消スナ
 得ヘシ千八百八十五年十一月十四日及千八百八十四年三月十一日ノ判決
 ニ所爲ヨリ生スルヲ得可キノミヲ以テ充分トセス必ス明瞭且確實ニ
 陪審會ニ於テ之ヲ申陳セシヲ要スルナリ一判決ニ於テハ「竊取ノ語ハ
 暗ニ詭計ノ意ヲ包含ス可シトセリ千八百八十五年四月十五日ノ判決
 又一判決ニ於テハ第四百八條ハ明文ヲ以テ詭計アリト判定スルヲ希
 望セス其顯ハレタル所爲ヨリ生スルヲ以テ充分トス可キコトヲ陳ヘタ
 リ千八百七十三年五月四日ノ判決是レ判決文ニ因テ詭計ノ判定アリシト解釋スルニ
 外ナラサルナリ千八百八十三年二月十八日ノ判決

第八百二十四號 損害○第二ノ條件ハ所有主占有主又ハ所持人ニ對
 シテ竊取ヲ行ヒシコトナリ依テ左ノ二件ヲ生ス、第一損害ナキモ即チ要
 求ヲ受ケタル後直チニ還付ヲ爲セシモハ罪ナキコト、第二損害ハ定マリ
 タル物件ノ所有主占有主又ハ所持人ニ對シテ起シタルモハ非サレハ
 罪ノ原素トナラサルコト是ナリ故ニ上ノ身分ヲ有セサル人ニ對シテ爲
 シタル竊取ハ第四百八條ヲ以テ論ス可キノ限リニ非ス千八百二十年
 判決例ハハ金銀ノ當座預リヲナサシメタル銀行者ヨリ融通ノ爲メ他人
 ニ渡シタル其金銀ヲ竊取スル如キ是ナリ千八百五十三年四月
 八條ニ記載シタル損害トハ例ヘハ竊取物ノ所有主ノ債主ノ證スルヲ
 得ヘキ竊取ヨリ生シタル損害トヲ混淆ス可カラス此債主ハ其預權者
 即チ所ノ損害ヲ受ケタルコトノ判定アリシ後ニ非カレハ告訴ヲ爲スナ
 得サレハナリ千八百六十四年六月六日ノ判決

背信ノ罪

第八百二十五號 竊取シタル物件○第三ノ條件ハ竊取ノ動産、金銀、商
 品、手形、領収書又ハ其他義務若クハ義務釋放ヲ記載スル書類ヲ目的ト
 セシトナリ、金銀ノ竊取ハ管ニ己レノ所持スルモノヲ不正ニ所有セシ
 キノミナラス己レノ處分ス可カラサル金銀ヲ委任狀ニ因テ他人ノ手
 ニ移サシメシキニ生スルナリ千八百五十一年七月三十一日ノ判決茲ニ掲クル所ノ動産
 及ヒ商品トハ總テ商用ノ動産ヲ云フ例ヘハ麥、麥粉及ヒ其他職業上ノ
 物質千八百三十七年四月十一日ノ判決交付ヲ検査シ又ハ注文ヲ爲サンカ爲メノ織物
 ノ摸本千八百四十六年二月十七日ノ判決關稅規則ヲ循守セズシテ輸入シタル物品千八百五十七年七月九日ノ判決牧羊場外ニ於テ群羊ヨリ生シタル肥料千八百五十七年七月九日ノ判決是ナリ

第八百二十六號 書類○第四百八條ハ第四百七條ノ如トク、人ノ身體
 又ハ財産ニ害ヲ醸スヲ得ヘキ書類ト記載セスシテ唯、手形、領収書又ハ

其他義務若クハ義務釋放ヲ記載シタル書類ト記載シテ背信ハ手形又
 ハ領収書ノ如ク外面上ノ損害ヲ生スヘキ書類ニ非サレハ適當ニス故
 ニ道德上ノ損害ヲ起スヘキ書類ノ受託人ノ假令之ヲ他人ニ交付スル
 モ第四百八條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サ、ルナリ獨リ該條ヲ適施スヘ
 キ書類ハ義務又ハ義務釋放ヲ記載スルモノ即チ他人ノ所有權ニ害ヲ
 來クス可キモノニ限ルナリ判決例ニ於テハ此規則ヲ既ニ記シタル證
 書ノ取消ヲ記スル書類ノ竊取セシノ所爲千八百四十二年五月二日ノ判決ニ適施セ
 リ

第八百二十七號 一。部。ヲ。使。用。保。蓄。ス。ル。○第四百八條ハ物件ノ使用
 チ罰セス故ニ借家人、受託人、代理人、質貸人及ヒ借主ハ私益ノ爲メニ定
 マリタル用方外ニ物件ヲ使用スルモ民事上賠償ノ訴ノ外刑事ノ訴ヲ
 受クルコトナシ然レモ尋常ノ使用ト使用ニ因テ利益ヲ得シ場合トテ混

滯ス可カラス故ニ版本ノ預リ人ナル印刷師印刷物ヲ販賣セシカ爲メ
ニ部數ヲ摺立シキハ附託ニ關スル背信ノ罪ヲ犯セシナリ千八百三十
六年十二月十
二日之ニ反シテ尋常ノ使用ハ有罪ニ非スト雖モ委託セラレタル物
ノ一部ヲ保蓄シ一部ヲ保蓄セラルノ所爲ハ罪ヲ構造スルニ充分ナリ
トス但シ或ハ其正當ノ原因ヲ述ヘ或ハ其所爲ヲ掩蔽スルノ目的ヲ有
シ或ハ刑ヲ償ヒ或ハ其益シタル賃銀ヲ償フヲ得ヘキカ故ニ此場合ニ
於テハ爭ヲ生スト雖モ罪ヲ生セサルナリ

第八百二十八號 貸借○第四ノ條件ハ動産商品又ハ價額ノ第四百八
條ニ記載スル所ノ一名義ヲ以テ交付セラレシコナリ該條ハ第一貸借
ノ名義ヲ以テ交付シタル物件ノ竊取ヲ記載ス茲ニ論スル所ノ貸借ハ
動産ノ貸借又ハ用法ニ因テノ不動産ト雖モ其附着スル所ノ不動産ヨ
リ分離セシニ因リテ動産トナリタル物ノ貸借ナリ民法第七百八條
及第七百九條

此規則ハ貸借契約ニ因テ格段ナル用法ニ供スヘキ稜草ヲ竊取セシ小
作人千八百四十二年八月
月十七日ノ判決借受タル獸類ヲ貸主ノ承諾ナク販賣セシ借主
千八百三十六年七月二十三日ノ判決千
八百四十六年七月二十三日ノ判決之ヲ適施セリ然レモ此終リノ
決定ハ利益ヲ折半スルノ約束ヲ以テ獸類ヲ貸借シタル場合ニハ適當
セス何トナレハ此種ノ約束ノ貸主ト借主トノ間ニハ一ノ會社ヲ構造
シ而シテ結社ノ契約ノ違背ハ第四百八條ヲ以テ論ス可キモノニ非サレ
ハナリ

第八百二十九號 附託○第四百八條ニ記載シタル第二ノ場合ハ附託
ノ名義ニ於テ託シタル物件ノ竊取ナリ附託トハ民法第九百十五條
ニ於ル如ク該條ニ於テモ亦他人ノ物件ヲ看守シ且現品ヲ以テ之ヲ還
附スルノ義務ヲ以テ之ヲ領收スルノ所爲ナリ故ニ第一犯人カ他人ノ
物件ヲ領収セシコトヲ要ス此條件ハ破船ニ因テ若岸シタル製造物千八
百四

背信ノ罪
八百六十一

十八年四月二日判決又ハ商品ヲ稅官吏二名ノ預カリタル月一千八百五十四年三月十九日ノ判決又ハ債主ニ還附スヘキ手形ヲ負債主ノ所持スル月一千八百六十年六月決ハ成立セサルナリ然レモ度量ヲ以テ販賣スヘキ場合ニ於テ度量ヲナスノ前ニ所得者カ其物件ヲ所有セシキハ此條件成立スト看做スナリ月千八百三十二年六月第九百十五條ハ他人ノ物ノ移轉ハ手渡シヲ以テ爲セシヲ欲セス此物ノ他ノ名義ニ於テ既ニ犯人ノ手ニ有リシキハ附託ノ名義ニ於ケル新契約明約黙約ヲ論セス因テ其儘其手ニ止メ置クヲ以テ充分トシ四月八日及千八百五十九年六月二十五日ノ判決又直チニ當人ニ非ストモ其住居ニ物ヲ置キ其信用ニ任セシヲ以テ充分トス月千八百五十六年九月二十五日ノ判決○第二附託ヲ生センニハ當人他人ノ物ヲ看守スルノミナラス現品ヲ以テ之ヲ還附スルノ義務ヲ以テ之ヲ領収セシヲ要ス故ニ一時ノミ物ヲ保持シ而シテ其物ノ直チニ其保持人ニ歸ス可キキハ附託ノ所爲ナシトス月千八百六十六年四月現品ヲ以テ還附ヲ爲スニ及ハサルキモ亦然リトス及千八百六十年四月二十六日ノ判決

第八百三十號 代理○第四百八條ニ記載シタル竊取ノ第三ノ場合ハ代理ノ執行中ニ之レヲ行ヒシトナリ該條ハ代理ノ無賃タルト否ト又竊取シタル物件ヲ委任者ヨリ直チニ託セシト代理ノ名義ニ於テ他人ヨリ之ヲ託セシトニ關セス總テ此場合ニ適當スルナリ月千八百四十四年二月二十三日ノ判決然レモ既ニ前ニ述ヘシ如ク代理人ハ代理ノ任ヲ返濟フルヲ遲滯セシカ又ハ返濟ヲ爲ス能ハサルニ因リ或ハ既ニ返濟ヲ終リタル旨ヲ述ヘ之ヲ爲サ、リシキニ非サレハ刑事ノ訴ヲ受クルコトナシ此返濟ヲ爲ス能ハサルコト及ヒ返濟ヲ終リタル旨ヲ述フルコトハ竊取ノ推測ヲ構造スルナリ上ノ場合ニ判決例ヲ適施ス可キハ夫レ此

背信ノ罪

主義ニ因ルモノナリ一判決ニ於テハ代理ノ名義ニ於テ領收シタル金額ヲ自己ノ負債ノ辨償ニ充テシカ爲メ使用シ遂ニ之ヲ還付スル能ハサルキハ之ヲ背信ノ所爲トスルヲ得ヘシト決定セリ
 又一判決ニ於テハ貸金ヲ領收スルノ代理ヲ受ケ其領収シタル金額ヲ自己ノ用ニ供セシニ因リ數回ノ訴ヲ受ケシキハ殊ニ詭計アリト看做スヲ得可キヲ決定セリ
 此所爲ハ罪ノ原因ナリ
 第八百三十一號 上ノ規則ハ犯人カ公務ヲ行フノ身分ヲ有スルキハ嚴格ニ之ヲ適施ス公證人及ヒ使吏ニ關シテハ殊ニ然リ一判決ニ於テハ職務上一般ノ信用ヲ受クル所ノ公證人ノ竊取ヲ行ヒシキハ其至重ナルコトヲ述ヘ

又一他ノ判決ニ於テハ法律上即チ至當ナル用法ノ爲メニ領收シタル金銀ヲ不正ニ竊取保蓄スルノ所爲ハ有罪ナル竊取ヲ構造ス可キヲ述ヘリ
 此規則ハ私益ノ爲メニ會社ノ金銀ヲ使用セシ社員
 於テ幼者ノ財産ヲ管理スル所ノ後見人ノ幼者ニ對シテ之ヲ消費セシ
 第八百三十二號 質入及ヒ使用ニ付テノ貸借○千八百六十三年五月十三日ノ法ハ既ニ第四百八條ニ列記シタル契約中ニ質入及ヒ使用ニ付テノ貸借ノ契約ヲ加ヘリ判決例ニ於テハ初メ條例ニ從テ此二種ノ

契約ハ罪ヲ構造セサル旨ヲ述ヘシカ其後立法家ハ此欠典ノ補充ス可
 キヲ思惟セリ千八百六十四年質入ニ關シテハ此規則ヲ身元金トシテ
 使丁ヨリ領収シタル金額ヲ使用シシ企業者ニ適當ス可キヲ決定シ
千八百六十六年十一月二十六日判決及ヒ使用ニ付テノ貸借ニ關シテハ工
 作ノ株式ノ交付ヲ得現品ヲ以テ之ヲ返附ス可キノ義務ト質入ノ外之
 ナ使用ス可カラサルノ義務トヲ約シ而シテ此契約ヲ破リシノ所爲ニ上
 ノ規則ヲ適當ス可キヲ決定セリ千八百七十四年四月

第八百三十三號 人ノ用ヲ達スル爲メ交付ヲ受ケタル物件○第四百

八條ニ記載シタル竊取ノ末尾ノ場合ハ質銀ノ有無ヲ問ハス人ノ用ヲ
 達スル爲メ物件ノ交付ヲ得之ヲ示シ或ハ之ヲ定マリタル用法ニ供ス
 ルノ義務ヲ約スル場合ナリ是レ格段ニ商品又ハ尙ホ製造ヲ施ス可キ
 原質物ノ竊取ニ適當ス例ヘハ麪包製造人又ハ麥粉製造人ノ其初メ領

収シタル粉又麥ヨリ生シ麪包又粉ノ分量ヲ交付セシテ其一部ヲ
 竊取セシノ所爲ノ如キ是ナリ千八百七十四年四月然レモ此規則ニハ制限
 ナキカ故ニ當ニ用テ達センカ爲メニ交付ヲ得タル物件ニノミナラス
 諸種ノ事業物件ヲ交付且竊取セシキハニ適當スルナリ千八百七十七年七月三十一日

決ノ判

第八百三十四號 刑罰○背信罪ニ刑ヲ適施スルノ條件ハ前ニ述ヘ來
 リタル第四百八條ニ掲ケタル諸條件ノ具備及ヒ判定ナリ即チ第一不
 正ノ竊取第二所有主占有主又ハ所持人ニ對シテ行ヒシヲ第三其竊取
 ノ動産商品手形領収書又ハ義務若クハ義務釋放ヲ記シタル書類ニ拘
 ハルヲ第四此動産等ノ貸借附託代理質入使用ニ付テノ貸借ノ名義ヲ
 以テ又ハ質銀ノ有無ヲ論セス人ノ用テ達センカ爲メニ交付セラレシ
 モノタルヲ是ナリ此四條件ハ悉ク之ヲ宣告書ニ登記セサルヲ得ス何

トナレハ其登記ナキニ於テハ刑ノ基礎ナケレハナリ刑法ハ社會ノ交際ヲ破壊シ或ハ紊亂スル所ノ諸種ノ違背及ヒ詭計ヲ有罪トセス唯外面上ノ所爲ニ依テ顯ハレ且容易ニ判定スルヲ得ヘキ其中ノ至重ナルモノ、ミテ罰ス又百般ノ契約ヲ不正ニ即チ詭計ヲ以テ破リシヲ有罪トセス唯格段ニ法律第四百八條ニ記載シタル契約ノ違背ヲ罰スルノミ而シテ法律ニ記載ナキ契約ノ不正ノ不執行ハ第四百八條ヲ以テ之ヲ論ヒサルナリ千八百五十九年八月二十五日及千八百六十年六月二十八日ノ判決

第八百三十五號 證據○上ノ諸條件ノ具備シタルト雖モ契約ヲ證スルノ要用ナルトハ訴ヲ中止スルヲ得判決例ニ於テハ罪ノ契約又ハ其執行ニ原因スルキハ輕罪裁判所ニ於テ契約ノ成立アルコトヲ述ヘ且其條件ヲ判定スルノ權アリトス故ニ附託又ハ代理ノ契約ノ違背ニ基ク所ノ訴中ニ契約ノ成立ニ關スル爭ノ起リシトハ輕罪裁判所ニ於テ

訴ノ處斷前ニ此爭ヲ判決スヘシ共和第八年十一月七日及千八百六十六年五月二十五日ノ判決然レニ該裁判所ハ契約ノ證據ヲ許シ及ヒ搜索スルニ付テハ民法ニ記載シタル規則ヲ遵守セサルヲ得サルナリ此要則タルヤ民事ノ訴ニ關スル法式ハ何レノ裁判所ニ於テモ同一ナリト云フノ規則ニ從フヘシ何トナレハ此規則ハ契約ノ性質上ヨリ生セシモノニシテ唯民事裁判所ノ性質上ヨリ生セシモノニ非サレハナリ故ニ訴訟法ニ於テ許サ、ル證據アリ即チ百五十「フシ」以上ノ契約ニ付テハ證據ノ端緒タル書類アルト又ハ災變ニ因テ證書ノ滅失セシコトヲ確執スルキニ非サレハ證書ナク唯證人ノミヲ以テ證スルヲ許サ、ルナリ民法第千三百四十一條及千三百四十八條故ニ輕罪ノ百五十「フシ」以上ノ契約ニ原因スルトハ民事原告人檢事ヲ論セス皆證人ノミヲ以テ證スルヲ得サルナリ如此シ證據ハ證據ノ端緒タル可キ書類ナク且犯人カ曾テ契約ヲキ旨ヲ述フルト

ハ裁判官ハ現時告訴ヲ受理ス可カラサル旨ヲ宣告セサルヲ得サル可
シ年千八百二十三年十二月二十八日千八百二十五年一月十三日千八百六十八年
八月十三日
口ノ判決

第八百三十六號 但シ上ノ決定ニハ例外アリ第一證據ノ端緒タル書
類アリテ其規則上ノ判定アリ千八百七十年一月 且其所爲ヲ眞實ト看
倣スニ足ル可キハ又ハ代理人ノ自カラ代理契約アリシ旨ヲ認メシキ
ハ千八百五十八年七月十六日及千八百六十四年八月十三日ノ判決 此證據ノ端
緒タル書類ハ訴ヲ受ケタル者ヨリ出シタル諸種ノ書類及ヒ殊ニ審問
ヨリ生スルヲ得ヘシ千八百六十四年四月二十八日及ヒ然レハ契約ノ
證據トナル所ノ此自認ハ民法ノ規則ニ從ヒ且分派ス可カラサルモノ
ナリ千八百五十四年四月二十七日及千八百五十八年七月二十八日ノ判決 第二犯人カ始審裁
判所又ハ控訴院ニ於テ契約ノ成立ナキ旨ヲ爭ハサリシハ此場合ニ於

テ破毀院ニ上告ヲナスノ時ニ當リ其成立ナキコノ爭ヲ始ムルヲ得サ
レハナリ千八百五十四年四月二十八日ノ判決 第三犯人カ公證人、代言人、又ハ使吏ノ見習
ニシテ此公證人等ニ對シテ竊取ヲ行ヒシノ故ヲ以テ代理ノ證據ノ身
分ニ因テ生スルハ千八百五十八年十一月十八日及千八百六十六年一月十八日ノ判決 第四罪ノ附着ス
ル取引ノ商事ニ關スルハ是ナリ
第八百三十七號 刑ヲ加重ス可キ事情○背信ノ罪ハ犯人ノ身分ニ因
テ精密ニ義務ヲ盡ス可キハ於テ至重ノモノトナルナリ千八百三十
二年四月二十八日ノ法ハ僕婢、傭人、書生、使丁、職工、仲間又ハ受業生ノ其
主或ハ師ニ對シテ背信ノ罪ヲ犯セシキハ之ヲ重罪トシ禁錮ノ刑ヲ轉
シテ之ニ懲役ノ刑ヲ適施ス可キヲ決定メリ其後千八百六十三年五月
十三日ノ法ハ上ニ列記シタル身分ノ下ニ裁判所屬ハ公ケハ官吏ハ語
ヲ附記セリ是レ公證人、代書人又ハ使吏ヲ罰センカ爲メ定メシモノナ

背信ノ罪

リ此加重ニ付テハ罪ノ條件ニ如何ナル變更ヲモ生シサルカ故ニ第四百八條ノ二項ハ全ク同一ノ規則ニ從フナリ唯其異ナル所ノモノハ僕婢等ノ背信ノ罪ハ其主又ハ師ニ對シテ犯シ裁判所屬ノ公ケノ官吏ノ背信ノ罪ハ其依頼人ニ對シテ犯ス等是ナリ

第八百三十八號 證據ノ書類ノ竊取○第四百九條ハ眞實ニ裁判所ニ於ケル爭ヲ維持スルヲ目的トス總テ證據トシテ裁判所ニ出シタル書類ハ訴訟人雙方ノ共有物トナルカ故ニ其竊取ハ之ヲ詭計ノ一種トス但シ罪ハ訴訟ニ付書類ヲ裁判所ニ出シシキ及ヒ竊取ノ證書書類又ハ覺書ヲ目的トスルキニ非サレハ成立セズ即チ第四百九條ハ一旦書類ヲ出シタル後之ヲ竊取セシ者ニ非サレハ有罪トセサルナリ此所爲ハ附託ヨリ生シモノニ非サルカ故ニ背信ノ罪ニ非スシテ格段ナル竊取ノ一種ナリ然レハ他人ノ之ヲ竊取シシキハ其受託人タルキハ背信

ノ罪ヲ生シ其受託人ニ非サルキハ竊取ヲ構造スルナリ

第四百十條及
第四百十一條

○第三節 賭博場富場質貸場ノ規則ニ背ク罪

第八百三十九號 賭博場○第四百十條ハ明文ヲ以テ賭博場ノ維持ヲ允許シシカ千八百六十六年六月二十四日ノ布令千八百八十八年八月五日ノ布令及ヒ千八百九十二年七月十八日ノ法第五條其後千八百三十六年七月十四日ノ法ノ第十條ニ依テ千八百十八年一月一日以後ハ公ケノ賭博場ヲ禁止スヘキ旨ヲ布告セリ故ニ第四百十條ハ汎ク其條例ヲ適施スヘシ而シテ其罰スル所ノモノハ賭博場ヲ維持セシノ所爲ニシテ賭博ノ所爲及ヒ賭博ヲ施セシ者ニ非サルナリ賭博場ノ維持トハ如何ナルモノヲ指ス乎第四百十條ノ目的トスル所ノモノハ賭博ニ必要ナル器械及ヒ動産ノ具備シタル公衆ノ爲メニ開キタル格段ナル建造物ニシテ之ニ賭博ヲ掌トル者其支配人及ヒ使丁アルモノナリ而シテ公衆ノ來集ヲ許スコトハ此罪ノ必要ナル條件ナリ何トナレハ

賭博場富場質貸場ノ規則ニ背ク罪

人民ハ其親族及ヒ朋友間ニ於テ賭博ヲ爲スノ自由アレハナリ故ニ法律ノ禁スル所ノモノハ密ニ公ケノ家屋ノ性質ヲ有スル家屋ノ設立ナ

第八百四十號 故ニ第一ノ條件ハ賭博場ノ設立ナリ此條件ハ第四百十條ト道路公ケノ場所ニ於テ富又ハ其他ノ賭博ヲ行ヒシ者ニ五ツツノ乃至十ツツラフシノ罰金ヲ適施スル所ノ第四百七十五條ノ第五項トシテ附會シテ始メテ充分トス可シ此種ノ賭博ハ常ニ格段ニ設ケ置ク所ノ建物内ニ於ケル賭博ニ比スレハ其危害稍少シトス公ケノ場所トハ加琲舗及ヒ酒舗ヲ云フ然レモ其賭博場ノ外見ヲ掩ハンカ爲メニ設クルモノタルモハ第四百十條ノ罪ヲ消散スルヲ得サルナリ千八百四十四年八月八日及千八百五十四年七月三日ノ判決故ニ第四百十條ハ家屋ノ公衆ノ爲メニ開ギタルモノタルト否トシテ論セス密ニ警察官ノ監察ヲ遁レテ賭博

ヲ行フ場所ノ設立ニ適當ス而シテ其必スシモ賭博ヲ掌トル者及ヒ賭博場ノ支配人アルヲ要セス何トナレハ是レ皆附屬ノ事情ニ過キヌシテ罪ノ成立ニ必要ナル事情ニ非サレハナリ千八百四十四年五月三日及千八百四十六年二月十九日ノ判決

第八百四十一號 第二ノ條件ハ賭戲ノ性質ナリ即チ賭戲ノ賭博タルヲ要スルナリ此全ク偶成ナル賭博ト身體ノ運動等ニ係ハル巧藝ノ賭戲及ヒ精神ノ思考ヲ要シ且賭ケタル財産ノ全部ヲ滅失セサル商業上ノ賭戲トシテ混淆ス可カラス何トナレハ第四百十條ハ偶成ナル賭戲ニ非サレハ適當セサレハナリ故ニ該條ハ諸種ノ骨牌遊ヒ千八百四十二年八月八日ノ判決千八百五十二年五月十三日ノ判決 玉突遊ヒ及ヒ針打遊ヒ千八百五十五年五月十日ノ判決如ク巧拙ヲ争フ賭戲ニハ適當セサルナリ

第八百四十二號 意思○第四百十條及ヒ第四百十一條ハ内心上ノ意

賭博場官場質賣場ノ規則ニ背ク罪

思ニ拘ハラス賭博場富場又ハ官許ナキ質貸場ヲ設立セシノ所爲ノミ
ヲ罰ス此所爲ハ輕罪ニ非スシテ違警罪ナリ而シテ法律ハ絶テ詭計ナキ
キト雖モ之ヲ罰ス故ニ救恤ノ爲メニ上ノ場所ヲ設立セシキハ千八百
年十一月六日假令其高些少ニシテ且如何ナル損失ナキキト雖モ千八百
年十一月十五日千八百五十五年八月八日及ヒ同月二十日ノ判決訴テ爲
スヲ得ヘシ

第八百四十三號 第四百十條ハ第一賭博場ヲ維持セシ者ヲ罰ス然レ
モ唯之ヲ設立セシノミヲ以テ充分トセス必ス賭博ノ實施アリシヲ要
スルナリ法律ハ賭博ヲ掌トル者千八百三十八年一月二日及ヒ千八百
賭博場ノ支配人及ヒ其使丁ヲ賭博場ヲ維持セシ者ト同視ス何トナレハ
賭博ヲ掌トル者賭博所ノ支配人及ヒ其使丁ノ語辭ハ膏ニ富ニノミナ
シス賭博ニモ亦適當スレハナリ千八百三十五年八月八日ノ判決
第八百四十四號 第四百十條ハ禁錮罰金及ヒ民權ノ自由禁止ヲ宣告

ス可キ旨ヲ記載シタル後附記シテ曰ク「總テノ場合ニ於テ賭博及ヒ富
ニ用非タル金銀、證券、賭博及ヒ富用ノ動産、器械及ヒ其場所ニ具備排列
シタル家具、動産ハ皆之ヲ官ニ沒收ス」ト茲ニ述フル所ノ金銀、證券トハ
富ニ用非タルモノ、ミナラス其ヲ掌トル者及ヒ場所ノ支配人ノ收受
シタル金銀ニモ適當スルナリ千八百三十八年五月二十五日ノ判決
動産ハ賭博ヲ維持スル者ニ屬スルト他人ニ屬スルトハ區別セズ唯場
所ノ具備排列ニ用立チシノミヲ以テ充分トス
第八百四十五號 官許ナキ富○千八百三十二年四月二十一日ノ法ノ
第四十八條及ヒ千八百三十六年五月二十一日ノ法ハ此時迄官許アリ
タル富ヲ禁止セリ此終リノ法ノ第一條ニ曰ク「諸種ノ富ハ之ヲ禁止ス」
ト故ニ第四百十條ハ此時迄ハ秘密ノ富ニ非サレハ罰セサリシカ當今
ハ諸種ノ富ヲ罰ス第二條ハ富ノ義解ヲ掲ケテ曰ク「數人コリ金銀ヲ集

賭博場富場質貸場ノ規則ニ付ク事

メ抽籤ヲ以テ施ス所ノ動産、不動産、商品ノ偶成ノ賣買及ヒ概シテ抽籤
 ナ以テ利益ヲ得ンカ爲メ公衆ニ供シタル諸方法ハ之ヲ富ト看做シ之
 ナ禁止ス^下玆ニ法律ノ禁止セント欲スル所ノモノハ抽籤ヲ以テ物ヲ
 移轉スルノ方法ニシテ唯損失ヲ生スヘキ未定ノ災ノミヲ罰スルヲ欲
 セサルナリ

第八百四十六號 千八百三十六年五月二十一日ノ法ハ抽籤ヲ目的ト
 シタル總テノ方法ニ適當ス故ニ該法ハ數部ニ分派シタル義務ノ一派
 ノ證書ヲ交付スルノ所爲ニ適當シ^{千八百六十六年二月十日ノ判決}又抽籤ヲ
 以テ施ス不動産ノ賣買ニ適當ス同法ノ第三條ハ第四百十條ニ記載シ
 タル刑ニ下ノ規則ヲ附加シテ曰ク「不動産ノ富ニ付テハ其所有者ニ對
 シ沒収ヲ行ハスシテ罰金ヲ以テ之ニ代ヘ其高ハ不動産ノ價額ニ迄登
 ルヲ得ヘシ再犯ノ場合ニ於テハ第四百十條ニ記シタル罰金及ヒ禁錮

ヲ其最上極ノ二倍ニ高ムルヲ得ヘシ總テノ場合ニ於テ第四百六十三
 條ノ適施ヲ許與ス^下此罰金ノ適施ニ付テハ裁判所ハ恰モ全權ヲ有ス
 ヘシ同法ノ第四條ハ二箇ノ新規則ヲ記載ス即チ第四百十條ハ富ノ施
 業者、其支配人及ヒ使丁ニ非サレハ之ヲ罰セスト雖モ此千八百三十六
 年ノ法ハ其企テ發言セシ者(其自ラ之ヲ施サ、リシト雖モ)ニ遡リ之
 ヲ罰ス而シテ此規則ハ總テ佛國及ヒ外國ノ富ニ適當ス第四條ノ第二項
 ハ富ノ手形又ハ廣告書ノ販賣分配ヲ罰ス此規則ハ多少外國ノ富ノ假
 粧ヲ以テ新聞紙上ニ掲ケタルノ所爲及ヒ郵便ヲ以テ手形ヲ送附スル
 ノ所爲ニ適當スルナリ

第八百四十七號 同法ノ第五條ハ救恤又ハ術ノ獎勵ノ爲メ格段ニ設
 ケ且官許ヲ得タル動産ノ富ヲ上ノ規則ノ例外トシリ故ニ動産ノ富ハ
 此二箇ノ場合ニ於テ之ヲ行フヲ得ヘシ其第一ノ場合ニ於テハ富ヨリ

賭博場富賣場ノ規則ニ付リ罪

生シタルモノ、格段ニ救恤ニ供ス可キヲ要シ而シテ法律ハ其一部ノ富
主ニ屬スルヲ欲ヒサルナリ、第二ノ場合ニ於テハ富ヨリ生シタル利益
ヲ術ノ施行者ニ給シ以テ術ヲ保助スルヲ要ス此二種ノ富手形ノ販賣
ハ格段ニ之ヲ適法ノモノトシ尋常ノ物品販賣ト同視ス千八百五十六
年八月九日ノ
判千八百四十四年五月二十九日ノ行政規則ハ此二種ノ富ニ許可ヲ與
ナルノ法式ヲ設ケタリ

第八百四十八號 質貸場質貸場○第四百十一條ハ二箇ノ犯罪ヲ記載ス第一
官許ナク質貸場ヲ設立スルコト第二官許アル場所ニ於テ貸附ノ適法ナ
ルコトヲ證スヘキ法律上ノ法式ヲ遵守セサルカ又ハ之ヲ遺忘ヒシコト是
ナリ此二箇ノ場合ニ於テ法律ハ詭計アルコトヲ欲セス唯官許ヲ得サル
外面上ノ所爲又ハ貸借ノ判定ニ用立ツヘキ法式ノ遺忘ノ外面上ノ所
爲ヲ罰スルノミ、此第一ノ犯罪ハ下ノ三條件ノ具備ニ因テ構造ス、第一

常ニ貸付ヲ爲スヘキ場所ノ設立千八百七十八年八月四日ノ判決 第二此場所ノ質貸
目的トスルコト何トナレハ法律ニ禁スル所ノモノハ此種ノ貸付ニ非サ
レハ適當ニサレハナリ千八百九十一年三月九日及千八百九十一年六月十九日ノ判決 第三規則上如
何ナル許可ヲモ得サルコト是ナリ但シ此許可ハ數所ノ町ニ設立スル所
ノ「モンドピエーテ」ト稱スル質貸會社ニ限り之ヲ付與ス常ニ貸付ヲ
ナス場所ノ設立ヨリ生シタル第四百十一條ノ罪ハ假令數箇ノ貸付ヲ
ナセシキト雖モ重複ノ罪ニ非ス何トナレハ罪ハ一時ニ數箇ノ貸付ノ
總体ニ適シ別々ニ各貸付ニ適セサレハナリ故ニ此場合ニ於テ別々ニ
記シタル民事ノ訴ハ受理ス可カラサルナリ千八百五十五年三月十七
日ノ判決○刑法理論第三
千三百四十
六號參觀

第四百十二條

○第四節

競賣ノ自由ヲ妨クル罪

第八百四十九號 競賣ノ自由ヲ保證スルヲ目的トスル所ノ第四百十

競賣ノ自由ヲ妨クル罪

二條ハ販賣スヘキ物件ノ性質ノ如何ニ關セズ諸種ノ競賣ニ適當ス故
 ニ該條ハ公有地及ヒ不動産ノ競賣ニノミナラス私有財産、動産、作業、供
 給物及ヒ其他種々ノ川達ノ競賣ニ適當ス若シ競賣ノ自由ヲ妨ケラレ
 シキハ罪ノ構造ニ付三條件ヲ要ス、第一競賣人又ハ競買人ノ自由ノ妨
 ケラレシヨ是レ此罪ノ外面上ノ所爲ナリ、第二暴行又ハ脅迫ニ因テ此
 妨ケヲ受ケシヨ何トナレハ競賣ノ自由ニ害ヲ生スルヲ要スレハナリ
 而シテ言詞、助言ハ何程威力アルキト雖モ罪ヲ成立セサルナリ、第三妨
 ケノ競賣ノ前又ハ競賣中ニ行ハレシヨ是ナリ競賣ノ前ニ行フタル所
 爲トハ競賣ノ自由ヲ全ク妨クルノ効ヲ生スルヲ得可キモノヲ云フ茲
 ニハ外面上ノ所爲ノミハ之ヲ論セサルカ故ニ必スシモ不正ノ意思ヲ
 以テ所爲ヲ施セシヲ要シ而シテ其判定ハ陪審會ニノミ屬スルモノナリ
 千八百五十四年十一月七日

第八百五十號 第四百十二條ハ第一項ニ於テ競賣ヲ妨クル罪ヲ記載
 シタル後第二項ニ於テ贈遺又ハ約束ニ依テ競買人ノ競賣ノ場所ニ至
 ルヲ止メシメシ者ニ此罪ヲ適施ス此二項ノ場合ニ於テ刑ハ同一ナリ
 何トナレハ同一ノ目的ヲ以テ施シタル同一ノ事情ニ依テ生スレハナ
 リ然レモ此罪ヲ構造スル所ノ原素ニハ差等アリ法律ハ競賣ノ自由ノ
 必スシモ現ニ手ヲ以テ妨ケラレシヨテ欲セス競買人ノ競賣ノ場所ニ
 來ルヲ妨ケシヲ以テ充分トス然レモ是ニハ贈遺又ハ約束ヲ以テ其妨
 害ヲ爲セシヲ要ス故ニ暴行又ハ障礙ヲ以テ競賣ノ自由ヲ妨ケシキハ必
 ス罪ヲ生スルナリ即チ數人中ノ一人ノミ競賣ニ出會シ而シテ其利益ヲ
 此數人間ニ分配スルノ約束ヲ爲セシキハ此一事ヲ以テ罪ヲ生ス何ト
 ナレハ相競ヲ買入ヲナス可キ者ノ偶然ノ利益ヲ分配スヘキ相互ノ
 約束ヲ以テ其競爭ヲ止ムルハ不合法ノ約束ナレハナリ
 千八百四十九年十一月十九日

競賣ノ自由ヲ妨クル罪

日及ヒ千八百五十七年五月十五日ノ判決但シ公賣物ヲ得ンカ爲メニ法律ニ從テ施行スル所ノ組合ハ禁止ナキカ故ニ會社ノ數勢力及ヒ詭計ヲ以テ競買人ノ競賣ノ場所ニ來ルヲ妨ケシモノ、外ハ之レヲ不正ト看做サ、ルナリ
 百三十四年四月而ノ罪ハ單ニ一競買人ノ妨ケラレシキ及ヒ之ヲ妨ケタル約束ノ絶テ執行ナキト雖モ成立スルナリ
 千八百四十八年五月二十八日ノ判決而ノ罪ハ單ニ一競買人ノ妨ケラレシキ及ヒ之ヲ妨ケタル約束ノ絶テ執行ナキト雖モ成立スルナリ
 千八百四十八年五月二十八日ノ判決而ノ罪ハ單ニ一競買人ノ妨ケラレシキ及ヒ之ヲ妨ケタル約束ノ絶テ執行ナキト雖モ成立スルナリ
 第八百五十一號 第四百十二條ハ尋常ノ競賣ノ如ク再競賣ニ適當ス可キ乎又差押ヘテ受ケタル不動産ノ賣主贈遺又ハ約束ヲ以テ再競買人ノ其再競買ヲ爲ス可カラサルヲ約シシキハ同條ノ適施ヲ受可クキ乎然リ他ナシ差押ヘテ受ケタル不動産ノ再競賣ハ初メノ競賣ノ繼續ニ過キス而ノ第四百十二條ノ目的ハ差押ヲ受ケタル負債主及ヒ債主ノ權利ヲ保護スルニ在ルヲ以テ尋常ノ競賣及ヒ自由ヲ以テ爲シタル再競賣ニ因ルニ非サレハ均シク違ヒシモノニ非サレハナリ
 千八百五十五年三月十二日ノ判決 代書人依頼人ノ名ヲ以テ再競賣ニ付競買ノ投票ヲ爲シタル後一競争人ト賣買ヲ約セシニ因リ此再競賣ヲ止メシキハ之ヲ有罪トス
 千八百四十四年十月十六日ノ判決 又賣主債主ノ一人ノ望ミタル再競賣ヲ止メシカ爲メニ之ニ金額ヲ交付セシトキモ亦同一ナリトス
 千八百四十八年三月十八日ノ判決 ○贈遺又ハ約束ヲ諾セシ者ハ之レヲ從犯者ト看做ス可キ乎數競買人贈遺又ハ約束ナク全ク無心ニテ競賣ヲ止ムルトキハ無罪ナリト雖モ其不正ノ契約ニ出テシトキハ之レヲ有罪トス何トナレハ此退止ハ數人ノ共施ニ因テ從犯ノ所爲ヲ構造スレハナリ
 千八百六十三年一月十八日及ヒ同年四月十日ノ判決

第四百十三條

第五節

商品ノ輸出ニ關スル規則ニ背ク罪

第八百五十二號 法律ハ管ニ私益ノミナラス一般ノ商業ヲ害スル詭計ヲ記載セリ是レ第四百十三條ニ記載スル所ノ外國市場ニ於テ佛國

商品ノ輸出ニ關スル規則ニ背ク罪

輸出商品ノ聲價ヲ落サントスルノ所爲ナリ此條例ノ適施ニ付テハ左ノ主タル二條件ヲ要ス、第一外國ニ輸出スヘキ製造物ニ關スル行政規則ヲ犯シシコト、第二此犯則ノ製造物ノ品位、性質及ヒ堆積ニ關スルコト是ナリ而シテ該條ハ既ニ外國ニ送致シタル製造物ニハ適當セサルナリ

○第六節 徒黨ノ罪

○第一項 雇主間又ハ工丁間ノ徒黨

第八百五十三號 刑法ハ二種ノ徒黨ヲ記載ス工丁ノ雇賃ヲ下低センカ爲メ雇主ノ間又ハ工作ヲ停止シ若クハ雇賃ヲ高騰センカ爲メ工丁ノ間ニ爲ス徒黨及ヒ自由競争ニ依テ定マリタル相場外ニ商品ノ價ヲ高低センカ爲メ商人間ニ爲ス徒黨是レナリ此第一種ノ徒黨ハ順次廢止ニ屬シタル敷法ニ記載セシモノニシテ其中千八百六十四年五月二十五日ノ法ハ當今行ハル、所ノ最終ノ法ナリ該法ハ第四百十四條ヨ

從第四百十四條至第四百四十六條及ヒ第四百四十九條第四百五十條

リ第四百十六條ニ迄ルノ條例ヲ釐正シ詭計又ハ暴行ナキ徒黨ヲ自由ノモノトセリ故ニ當今徒黨ヲ構造スル所ノ原素ハ、第一暴行、脅迫又ハ詭計アリシコト、第二此暴行等ノ製造工作ヲ休ミ以テ雇主又ハ工丁ノ自由ヲ害スルヲ目的スルコトナリ

第八百五十四號 此第一ノ原素ニ付テハ如何ナル解釋ヲモ要セス何トナレハ新法ニ用フル所ノ暴行等ノ語ハ既ニ舊條例ニ記載スル所ノモノト同一ノ意味ヲ以テ用ヰシモノナレハナリ、第二ノ原素ハ製造ノ自由及ヒ工作ノ自由施行ヲ妨害スルコトナリ此妨害ハ雇主ニ付テハ雇賃ヲ不正ニ下低セントシ工丁ニ付テハ復不正ニ之ヲ高騰セントスルニ在リ其他此暴害ハ或ハ勞動時間ニ付或ハ新器械ノ誘入、受業生ノ入場等ニ付キ施スヲ得ヘシ第四百十四條ニ從ヘハ暴行又ハ脅迫ノ施行アルキニ非レハ罪ヲ構造セスト雖モ之ニ反シテ製造ニ妨害ヲ加フル

雇主間又ハ工丁間ノ徒黨

「ニ關シテハ此妨害ノ第二條ニ記載シタル條件ヲ具備スルニ於テハ之ヲ試ミシノミヲ以テ充分トス茲ニ一注目ス可キハ法律ニ於テ此罪ニ付罰金禁錮ノ二刑ヲ置キシカ禁錮ノ適施ハ裁判官ノ自由ニ任ズヲ欲セシ是ナリ

第八百五十五號 第四百十五條ノ目的タル刑ヲ加重ス可キノ事情ハ協○議○ニ○因○テ○第○四○百○十○五○條○ノ○罪○ヲ○犯○セ○シ○ニ○依○リ○生○ス○ル○ナ○リ○所○爲○ノ○輕○重○ハ○其○他○ニ○數○人○間○ニ○豫○謀○シ○タル○協○議○ア○リ○シ○キ○ト○雖○モ○同○一○ナ○リ○然○レ○モ○該○條○ノ○罪○ヲ○構○セ○ン○ニ○ハ○製○造○方○法○ヲ○議○ス○ル○カ○又○ハ○工○作○場○ノ○退○出○ヲ○議○ス○ル○ヲ○以○テ○充○分○ト○セ○ス○何○ト○ナ○レ○ハ○是○レ○適○法○ノ○所○爲○ナ○レ○ハ○ナ○リ○故○ニ○必○ス○シ○モ○強○テ○協○議○ヲ○執○行○セ○シ○メ○ン○カ○爲○メ○ニ○數○多○ノ○暴○行○又○ハ○詭○計○ヲ○用○非○シ○テ○要○ス○ル○ナ○リ○該○條○ノ○場○合○ニ○於○ケ○ル○加○重○ハ○犯○人○ヲ○二○年○乃○至○五○年○間○自○由○監○視○ニ○附○ス○ル○コ○ト○ニ○止○マ○リ○徒○黨○ノ○首○長○ニ○別○段○加○重○ヲ○施○ス○コ○ト○ナ○シ

第八百五十六號 第四百十六條ハ舊第四百十五條ヲ採リ且改正シテ「豫メ協議シタル計畫ニ因リ罰金、追放又ハ禁制ヲ言渡シテ製造工作ノ自由施行ヲ妨害セシ工丁、雇主及ヒ从业者」ヲ罰ス此罪ノ諸條件ハ之ヲ此條例中ニ明記ス、即チ第一人ニ臆神ヲ生スルノ所爲ヲ施セシ「第二工作ノ自由ヲ害シシ」即チ臆神ヲ生セシノミニ止マラスシテ其効ヲ生シシ「第三此所爲ノ數人間ニ協議シタル計畫ノ執行タル」是ナリ若シ脅迫ニ因テ臆神ヲ生シシメシ時ニ於テ罪ヲ構造シ「ハ此脅迫ノ第三百五條以下ニ記載シタル性質ヲ有スル」ヲ要スヘキ乎否ヲ脅迫ハ言詞若クハ書類ヲ以テ又ハ命令約束ノ有無又ハ爲スヘキノ命令若クハ爲ス可シサルノ命令ノ有無ニ關シス之ヲ施スヲ得ヘシ故ニ其何種タルヲ問ハス總テ脅迫ノ性質ヲ有スルモノハ此罪ノ原素タルヲ得ヘシ
千八百六十七年
四月六日ノ判決

第八百五十七號 工丁ノ結合ト徒黨トハ之ヲ混淆ス可カラズ徒黨ハ
フランシシシヨシヨシヨシ
 結合權ノ体容ナリト雖モ然レモ全ク同一ノモノニ非サルカ故ニ徒黨
 ナリト所ノ法律ハ結合權ニ適當スル所ノ規則ヲ犯シシモノニ非サル
 ナリ此區別ニ從ツテ徒黨人ノ間ニハ共同ノ利益ヲ有スルヲ要用トシ
 ス是レ結合人ノ間ニハ必ス有セサルヲ得サルモ之千八百六十五年又
七月二日ノ判決
 破毀院ニ於テハ千八百六十四年五月二十五日ノ法ニハ第二百九十一
 條以下ノ規則ニ例外ヲ設ケシニ非ス且其適施ニ付徒黨ニ關スル結合
 ナリト所ノ法律ハ結合權ニ適當スル所ノ規則ヲ犯シシモノニ非サル
 蓋シ徒黨人間ノ協議ハ徒黨ノ手始メナリト雖モ結合人間ノ協議ハ其
 手始メニ非ス又徒黨ハ一時ノ所爲ナリト雖モ結合ハ永久ノ構造ヲナ
 スモノナリ故ニ結合ハ徒黨ニ力ヲ副ヒ其効ヲ擴充スルヲ得可シト雖
 モ其必要ナル一原素ニ非サルナリ法律ハ工丁ノ其雇主ニ對シテ爭テ

維持セシカ爲メニ永久ニ徒黨ヲ構造スルヲ禁止ス結合ノ徒黨ト始終
 ナリト所ノ法律ハ結合權ニ適當スル所ノ規則ヲ犯シシモノニ非サル
 雖モ結合ノ徒黨解散ノ後ニ尙成立シ其一時ノ所爲ヲ離レ後來ヲ處理
 ス可キトハ結合ニ關スル規則ニ從フナリ刑法理論第二十三
百八十二號參照
 第八百五十八號 千八百六十四年五月二十五日ノ法ノ第二條刑法中
 ニ記載ナキモノニ曰ク「第四百十四條第四百十五條及ヒ第四百十六條
 ハ巧丁、僕婢及ヒ田舎ノ工丁ノ如ク所有主及ヒ小作人ニ適當ス千七百
 九十一年九月二十八日同年十月六日ノ法ノ第二卷ノ第十九條及ヒ第
 二十條ハ之ヲ廢止ス」ト此條例ハ耕人ノ徒黨ノ制止ニ付之ヲ採用セリ
 故ニ新法ハ製造ニ從事スルノ工丁ノ如ク耕作ノ雇人ニ之ヲ適施スル
 ナリ

第四百十九條
 及ヒ第四百二
 十條

○第二項 商品ノ主タル所持人間ノ徒黨
商品ノ主タル所持人間ノ徒黨
 八百九十一

第八百五十九號 第四百十九條及ヒ第四百二十條ニ於テハ三箇ノ規則ヲ區別セサルヲ得ス、第一商業ノ自由競争ニ因テ自然ニ定マリタル相場外ニ商品、日用物及ヒ公債證書ノ價ヲ高低スルノ所爲、第二由テ以テ高低ヲ爲シシノ詭計、第三此詭計ノ商品、日用物及ヒ公債證書ニ適當スルコト是ナリ

第八百六十號 第一ノ條件ハ商業ノ自然ノ競争ニ因テ定マリタル相場外ニ商品、日用物及ヒ公債證書ノ價ヲ高低スルコトナリ法律ノ適施ニ付テハ此高低ヲ施スノ意思ノミヲ以テ充分トセス必ス之ヲ實施セシテ要ス何トナレハ高低ヲ行ハンカ爲メニ用ヰタル詭計ハ其結果ニ因テノミ至重ノモノトナルヲ以テ第四百十九條ハ此結果ノミヲ罰シ而シ其未遂犯ハ之ヲ有罪トセサレハナリ 千八百八十二年十二月二十四日 千八百八十八年一月十七日 千八百九十四年五月二十九日 及ヒ千八百八十八年 判決然レハ價ノ高低ノ一取引所ニ對シテ行

ハレシテ以テ充分トセサルナリ 千八百三十七年一月十六日ノ判決

第八百六十一號 第二ノ條件ハ價ノ高低ヲ得ンカ爲メニ用ヰタル方法ナリ第四百十九條ハ其主タル三方法ヲ指示ス、第一公衆ニ流布シタル僞ノ所爲、第二賣主ノ需求セシ所ノ價ヨリ更ニ高價ヲ供給スルコト、第三商品ヲ販賣セサルカ又ハ特ニ定メタル價ニ非サレハ販賣セサルコトヲ定メタル其數所持人ノ集合徒黨是ナリ然レハ百般ノ詭計及ヒ過懲ノ所爲ヲ該條ニ詳悉スル能ハサルカ故ニ此三方法ハ唯例示セシニ過キサルナリ故ニ該條ハ、又ハ詭計ノ諸方法ニ因テト附記セリ是レ此三方法ニ漏脱シタル諸般ノ詭計ヲ罰シンカ爲メ記載セシモノナリ

第八百六十二號 罪ノ成就ノ第一ノ方法ハ犯罪ノ企ニ附スルニ僞ノ事ヲ公衆ニ流布セシコトナリ故ニ風説ヲ公衆ニ流布シシノミヲ以テ充分トセス必ス僞ノ事ヲ流布シシヲ要シ又其他商品ノ價ヲ高低スルノ

商品ノ主タル所持人間ノ徒黨

企ニ於テ偽ノ事ヲ流布セシヲ要ス是レ企ト結果トノ關係ナリ、第二ノ方法ハ賣主ノ需求セシ所ノ價ヨリ更ニ高價ヲ供給スルコナリ是レ商品ノ價ヲ高メンカ爲メニ非サレハ用フ可カラサル方法ナリ故ニ此供給ハ價ヲ高ムルノ意思ヲ以テ爲セシヲ要スルナリ、第三ノ方法ハ商品ノ價ヲ高低センカ爲メニ其主タル數所持人ノ集合徒黨ナリ此集合徒黨ニ付テハ法律ハ其性質ヲ記載セサリシカ徒黨アリトセンニハ數人ノ商品ヲ販賣セサル爲メ又ハ特ニ定メタル價ニ非サレハ販賣セサルコトヲ協議シ且之ヲ實施セシヲ以テ充分トス其他之ト同一ノ結果ヲ生セシ數人ノ一致ハ總テ之ヲ徒黨トス故ニ罪ヲ構造センニハ必スシモ徒黨ノ所爲アルヲ要用トセス同質ノ商品ノ數所持人ノ集合シ同一ノ目的ヲ以テ相共ニ動作セシヲ以テ充分トス、千八百四十五年五月十九條ハ單ニ主タル數所持人ノ集合トノミ記載セシカ該條ハ實ニ主タル

ル所持人ノ集合ニノミナラス總テノ所持人又ハ製造人ノ集合ニモ亦適當スヘシ、千八百三十一年八月十八日ノ判決

第八百六十三號 第三ノ條件ハ商品、日用物又ハ公債證書ニ付キ高低ヲ施セシコナリ日用物トハ人又ハ獸類ノ食料及ヒ維持ニ特用ノ製造シタル或ハ摘採シタル物品ニシテ一次ノ使用ニ因テ消散シ或ハ全ク變性ス可キモノヲ云フ、千八百三十二年四月一日、千八百四十年五月三十日及ヒ千八百四十年五月二十九日ノ判決、商品トハ一次ノ使用ニ因テ消散セズ漸次ニ消散スヘキ動産及ヒ融通又ハ賣買ノ目的タルヲ得可キモノヲ云フ此商品ノ語ハ概シテ日用物及ヒ公債證書ヲ包含スト雖モ法律ニ於テハ之ヲ日用物及ヒ公債證書ト區別セリ何トナレハ習慣ニ於テ日用物及ヒ公債證書ニ商品ノ名義ヲ適當スル能ハサレハナリ、千八百九十三年三月三十一日ノ判決

商品ノ主タル所持人間ノ徒黨

第八百六十四號 判決例ニ就テハ第四百十九條ヲ人ノ占ム可キ場所
 及ヒ商品ノ運送ノ價ヲ客人ト協議スル所ノ陸運及ヒ海運ノ業ニ適施
 シ千八百三十六年八月九日ノ判決又法律ニ定メタル方法ニ因テ保險
 ノ價ヲ高低スル所ノ保險會社ト千八百四十五年一價ヲ高メンカ爲メ
 ニ眞價ヨリ高價ニ穀物ヲ販賣シタル者ヲ公然申述シタル融通者千八
 百年一月十受託官吏ノ仲介ヲ以テ且定價ヲ以テスルニ非サレハ販賣
 七日ノ判決
 八、可カラサル曹達ノ製造人千八百三十一日ノ判決
 九、付麪包何程ト分量ヲ定メテ交付ス可キコト互約スル麪包製造人千
 百九十年五月二屠獸場ニ於テ食用ノ獸肉ニ豫備セサル旨ヲ約セシ屠
 獸人千八百四十年十一月三十一日ノ判決ニ適當スルナリ
 第八百六十五號 禁錮一月乃至一年罰金五百フラン乃至一萬フランニ
 及ヒ自由監視ノ刑ハ穀物、鳥獸ノ食物、粉、粉トナス可キ物質、葡萄酒又ハ

其他ノ飲料ニ付訖計ヲ施シシ場合ニ於テ之ヲ加重ス最要ナル食用物
 ノ商賣ニハ數多ノ格段ナル規則アリ然レモ刑法ハ此規則ニ關シテハ
 唯第七十六條及ヒ第四百二十條ニ記シタル所爲ヲ罰スルノミ第四
 百二十條ハ第四百十九條ノ結果ヲ記載セシニ過キスシテ該條ト同一
 ノ場合ニ於テ同一ノ條件ニ從テ之ヲ適施ス唯此二條間ノ差異ハ商品
 ノ品格ト適施ス可キ刑ノ輕重ノミ故ニ罪ノ成立ニ付テハ訖計ト此所
 爲ノ日用物ノ價ヲ高低スルヲ目的トセシト此高低ノ實施アリシコ
 トヲ要スルナリ

第四百十七條
 及ヒ第四百十
 八條

○第七節 工丁ヲ外國ニ出行セシムル罪及ヒ製造ノ與
 秘ヲ漏洩スル罪

第八百六十六號 第四百十七條及ヒ第四百十八條ハ概シテ製造及ヒ
 特設ノ製造場ヲ妨害スヘキ性質ノ二所爲ヲ記載ス工丁ヲ外國ニ出行

工丁ヲ外國ニ出行セシムル罪及ヒ製造ノ與秘ヲ漏洩スル罪

セシムルヲ及ヒ製造場ニ於テ使役ヲ受クル者ノ製造ノ奧秘ヲ漏洩スルヲ是ナリ

第八百六十七號 工丁ノ○出行○第四百十七條ハ工丁ヲ外國ニ出行セシメシ者ニ非サレハ之ヲ罰セス該條ノ罪ヲ生シシニハ唯其教唆及ヒ執行ノ端緒ノミニテハ充分ニス必ス其契約ヲ執行セシテ要ス此出行ハ佛蘭西ノ製造ニ妨害ヲ生スルノ効ヲ有スルキ即チ詭計ナルキニ非サレハ罪ヲ構造ニサルナリ然レモ若シ詭計ナキキ又ハ工丁ヲ外國ニ出行セシメシコノ競争ヲ生シ又ハ製造ニ妨害ヲ生スル爲メニ非サルキハ其罪消散スルナリ而シテ一般ノ製造ヲ妨害スルノ意思ト格段ノ製造ヲ害スルノ意思トハ之ヲ區別スルニ及ハス又出行ヲ爲シタル指揮者、雇人又ハ工丁ハ此場合ニ於テ如何ナル罪ヲモ受クルコトナシ

第八百六十八號 製造ノ漏洩○第四百十八條ハ製造場ノ雇人及ヒ工丁ノ製造ノ奧秘ヲ漏洩スルノ所爲ヲ記載ス而シテ外國ノ爲メニ此漏洩ヲ爲セシキハ其罪尙重シトス此罪ノ構造ニ付テハ三原素ヲ要ス、第一製造ノ奧秘ノ漏洩、第二此漏洩ノ不正ナルコト、第三製造場ノ指揮者、雇人又ハ工丁ノ之ヲ爲セシコト是ナリ、而シテ罪ハ漏洩シタル製造法ノ秘密ナルキ即チ其發明シタルト他人ヨリ傳受シタルトヲ論セス格段ニ一製造場ノ所有物タルキニ非サレハ生セス何トナレハ製造法ノ一般ニ世上ニ知レタルモノタルキ又ハ格段ニ一製造場ニ屬セサルキハ絶テ妨害ナケレハナリ不正ノ漏洩ノ從犯者ハ第六十條ニ記載シタル挑唆又ハ幫助ノ所爲ヲ施セシキハ正犯者ト同一ノ刑ヲ受クヘシ但シ從犯ノ所爲アリトセシニハ唯雇人又ハ工丁ヨリ其屬スル製造場ノ製造ノ奧秘ヲ傳受シシノミヲ以テ充分トセス又ハ後ニ漏洩ノ一部ヲ得ント盡力セシノミヲ以テ充分トセス從犯ヲ構造スヘキ所爲ノ必スシセ此漏

工丁ヲ外國ニ遣送セシムル罪及ヒ製造ノ奧秘ヲ漏洩スル罪

洩ニ先クツカ又ハ同時ニ之ヲ誘導シシテ要スルナリ千八百四十二年五月十四日ノ判

決

第四百二十一條及ヒ第四百二十二條

○第八節 公債證書ノ價ノ高低ニ關スル賭博

第八百六十九號 第四百二十一條及ヒ第四百二十二條ハ株式ノ取引ニ付賭博ヲ行フ無資力ノ流通者ヲ制止シ且想像ノ價ニ因テ取引ヲ爲シ以テ公債證書ノ通用ニ妨ケテ生ゼント試ムルキニ於テハ豫メ此賭博ヲ禁止スルヲ目的トス此證書ニ付テハ二種ノ主タル取引法アリ現金取引定期取引是ナリ此第一ノ取引ニ付テハ絶テ難雜ナシト雖モ定期取引即チ期限内ニ賣主ヨリ證書ヲ交付スヘキ約束ノ取引ハ復之ヲ嚴格ナル取引手附金ヲ以テノ取引ノ二種ニ分ツ嚴格ナル取引トハ證書ノ價ノ如何ニ拘ハラズ期限ニ於テ必ス取引ス可キモノヲ云ヒ手附金ヲ以テノ取引トハ價ノ一部即チ手附金トシテ既ニ支給シタル金額

ヲ拋棄シ以テ解約スルヲ得可キモノヲ云フ民法ニ於テ往時ヨリ無効トナシ且尙無効トナス可キ此取引千七百八十三年八月七日參議院決議共

和第四年十一月二十八日同年十二月十三日法律第八百二十三年八月十四日ノ判決

百二十一條及ヒ第四百二十二條ヲ以テ論ス可キキニ非サレハ之ヲ有罪輕トセサルナリ

第八百七十號 第四百二十一條ハ公債證書ノ價ノ高低ニ關シテ爲シ

タル賭博ヲ罰ス而シテ次ノ第四百二十二條ハ上ノ賭博ト同視スヘキ格

段ナル場合ヲ指示スルヲ目的トセシノミニシテ第四百二十一條ノ一

般ノ規則ニハ如何ナル制限ヲモ置カサリシカ故ニ第四百二十一條ハ

賭博ノ語中ニ公債證書ニ關スル諸種ノ賭博ヲ包含シ賣主及ヒ買主ニ

區別ナク適當ス此公債證書ノ取引上ノ賭博ニ關スル訴ニ付其所爲ヲ

判定シ且外面上ノ法式ニ從テ其實ノ取引ナル乎否ヲ搜索スルハ

公債證書ノ價ノ高低ニ關スル賭博

裁判官ノ權内トス千八百五十七年五月九日ノ判決而ノ相場ノ變化ニ依リ善惡ノ結果ヲ生ス可キ取引ハ總テ之ヲ賭博トシ法律ニ因テ之ヲ罰スルナリ

第八百七十一號 販賣シタル公債證書ノ契約ノ時ニ於テ己レノ適意ニ處分ス可キモノタルヲ又ハ少クトモ交付ヲ爲スヘキ時ニ於テ己レノ所有トナル可キヲ證據スレハ犯人即チ被疑者ノ任トス若シ賣主ノ其證ヲ出ス能ハスシテ罪ノ宣告ヲ受ケシキハ買主ハ從犯ノ罪人タルヲ得ヘキ乎否シス何トナレハ法律ハ己レノ手ニ有セサル公債證書ヲ販賣スルノ所爲ニ非サレハ之ヲ罰セサレハナリ故ニ此所爲ニ因テ損害ヲ受クルヲ得ヘキ買主ハ全ク從犯ノ罪ヲ受クルヲナシ刑法論第四百十

參一
觀號

○第九節

販賣シタル物品ノ性質ヲ偽ル罪及ヒ偽ノ度量衡ヲ以テ販賣ヲナス罪

第四百二十三條及ヒ第四百二十四條

第八百七十二號 商品ノ性質ヲ偽ル○第四百二十三條ノ主タル規則ハ販賣シタル諸種ノ商品ノ性質ヲ偽ルコナリ此規則ノ適施ニ付テハ賣主カ其販賣シタル物品ノ眞ノ形狀ヲ知リシノミヲ以テ充分トセス買主ヲ欺カント試ミシヲ要シ此欺キノ物品ノ瑕瑾ヲ掩蔽スルヲ目的トセシノミヲ以テ充分トセス其性質ヲ偽リシコトヲ要ス故ニ性質ヲ偽リタルキニ非レハ罪ヲ構造セサルナリ刑法論第四百十四號參照此詭計ハ狡猾及ヒ策略ナリトシ詭欺及ヒ詐僞ヨリモ尙重シトス然レモ此策略ハ詐僞取財ヲ構造スヘキ姦計詐僞ノ助ケトシテ用サタルモノト混淆ス可カラス千八百二十五年八月二十日ノ判決

第八百七十三號 欺キハ物品ノ性質上ニ付之ヲ行ヒシヲ要ス若シ其品位又ハ價額ニ付テノミ之ヲ行ヒシハ罪ヲ構造セス何トナレハ賣主ハ品位ヲ檢査シ且價額ヲ評スルヲ得可ケレハナリ欺キハ左ノ場合

販賣シタル物品ノ性質ヲ偽ル罪及ヒ偽ノ度量衡ヲ以テ販賣ヲナス罪

ニ於テ之アリトス、第一賣却シタル商品中ニ外國物品ヲ加ヘ低價ヲ以テ販賣セシキ日及ヒ同年七月四日ノ判決第二該商品中ニハ箇様ナル物質ヲ包含スト述ヘタルニ其分量ノ恰モ無キカ如ク實ニ微少ナルハ千八百六十三年一月二日及ヒ千八百六十六年二月十五日ノ判決然レモ概シテ商品ノ性質上ニ欺キアリトセンニハ此商品ノ絶テ其性質ナキカ又最初ノ性質ノ恰モ消散セシ如ク變易セシカ又或ハ定マリタル用方ニ適セサルヲ要シ千八百六十八年四月八日判決性質ノ變易ナクシテ品位ノ下等ナルノミニテ充分セサルナリ但シ物品ノ品位ノ欺キト雖モ此物ノ本質ヲ變性且ツ變更ス可キハ性質上ノ欺トナルヲ得ヘシ例ヘハ尋常ノ粉ヲ以テ製シタル溶解物ヲ糲ナリトシテ販賣シ月千八百五十八年八月或ハ肥料トナル可キ分量ノ十分一ノミヲ包含スル物質ヲ肥料ナリトシテ販賣セシ千八百五十九年二月十日及ヒ千八百六十二年二月是ナリ之ニ反シテ例ヘハ麥苞ノ賣主其中心ニ下等

ノ麥ヲ加ヘシキハ品位ノ欺キアルノニ然レモ此場合ハ食料ノ物質ニ關スルニ依リ千八百五十一年三月二十七日ノ法ノ第一條ノ第二項ヲ以テ之ヲ論ス月千八百五十八年三月三

第八百七十四號 第四百二十三條ハ欺キノ商品ノ性質ニ適スルハニ非カレハ之ヲ有罪トシスト云フ規則ニ二箇ノ例外ヲ設ク第一ハ金銀ニ關シ第二ハ寶石ニ關ス第一ノ場合ニ於テハ買主ニ對シテ金銀ノ名稱ヲ欺キシヲ要シ第二ノ場合ニ於テハ寶石ノ品位ヲ欺キ偽物ヲ真物ナリトシテ販賣セシヲ要ス金銀細工ノ法律上ノ名稱ハ共和第六年二月十九日ノ法ノ第四條ニ之ヲ定ム而シテ此法ハ同時ニ金銀物ノ商業ニ付キ施クル諸種ノ詭計ニ對シテ金錢上ノ刑ヲ記載ス寶石ニ關シテハ真物ナリトシテ販賣シタル石ノ偽物タルハ其品位上ノ欺キニ非スシテ性質上ノ欺キトス但シ若シ其石ノ偽物ニ非スト雖モ約シタル品

販賣シタル物品ノ性質ヲ偽ル罪及ヒ偽ノ度量衡ヲ以テ販賣シナス罪

位ヲ有セサルキハ第四百二十三條ヲ適施スルノ限リニ非サルナリ
 第八百七十五號 千八百五十一年三月二十七日ノ法○千八百五十一年三月二十七日ノ法ハ第四百二十三條ヲ擴充シ之ニ欺キノ新所爲ヲ加ヘ又千八百五十五年五月五日ノ法ハ千八百五十一年三月二十七日ノ法ノ規則ヲ飲料ノ賣買ニ適當シ以テ均シク第四百二十三條ヲ擴充セリ此二法ハ第四百二十三條ヲ補充シ恰モ之レト附會スルモノナルカ故ニ先ツ其適施ニ關スル規則ヲ設ケサルヲ得ス其第一ノ規則ハ千八百五十一年三月二十七日ノ法ハ第四百二十三條ノ如ク商品ノ性質上ノ欺キニノミ適當シ其品位上ノ欺キニ適當セサルヲナリ
 千八百五十二年三月三日ノ判決 第二ノ規則ハ同法ハ第四百二十三條ト均シク管ニ日用物ノ零賣ニノミナラス其卸賣及ヒ販賣ヲ目的トシテ施ス製造ニ適當スルヲナリ
 千八百五十四年四月三日ノ判決 第三ノ規則ハ同一ノ規則ノ賣買ニノミナラ

ス其一方方法タル交換及ヒ社員ノ一人ヨリ會社ニ變造シタル日用物ヲ持出スノ所爲ニ適當スルヲナリ
 千八百五十八年五月十四日及ヒ同年十二月十四日ノ判決 ○刑法理論第二千四百二十號 但シ上ノ規則ノ適施ハ賣買又ハ有報ノ讓受ヲ包含スル所ノ契約ニ付テハ制限ヲ置クヲ要ス例ヘハ勞力ノ賃銀ヲ記載スル表ヲ過度ニ製スルノ所爲ニ此規則ヲ適施スルヲ得サル如キ是ナリ
 千八百九十二年二月五日ノ判決

第八百七十六號 食料ノ變造○千八百五十一年三月二十七日ノ法ノ

第一條ノ第一項ニ記載シタル第一ノ罪ハ食料ノ變造ナリ茲ニ云フ所ノ食料トハ總テ食用ノモノヲ云フ判決例ニ於テハ牛乳及ヒ酪ヲモ此中ニ加ヘリ
 千八百五十二年三月二日及ヒ變造トハ食料ノ用方ヲ失ヒシト否トニ拘ハラス總テ其ヲ惡質トナス所ノ總テノ不正ノ混和ヲ云フナリ
 千八百五十四年四月二日ノ判決 故ニ食料ニ關シテハ物質ノ性質上ニ變造ヲナ

販賣シタル物品ノ性質ヲ偽ル罪及ヒ度量衡以テ販賣ナラス罪

セシト其品位上ニ變造ヲナセシトテ區別スルニ及ハス依テ性質上ノ欺キヲ構造シタル所爲ト雖モ品位上ノ變造ヲ構造スルヲ得ヘシ百千五十九年三月十日ノ判決但シ變造シタル日用物ノ假令食料ニ用フルヲ得可キモノト雖モ其格段ニ食料ニ定メタルモノタルヤ又ハ製造用ニ供スルヲ要セシモノタルヤヲ檢査スルヲ要用トス何トナレハ此終リノ場合ニ於テハ品位上ニ施シタル欺キハ罰ス可カラサレハナリ但シ性質上ニ施シタル欺キハ此限リニ非ス月千八百五十七年五月第八百七十七號 日用ノ藥料〇千八百五十一年三月二十七日ノ法ノ第一條ハ食料ノ變造ノ次ニ賣買スルヲ得ヘキ日用ノ藥料ノ變造ヲ記載ス此規則ハ均シク流動体及ヒ固形体月千八百五十五年四月藥用品ト同視シタル水中ノ虫月千八百五十六年六月九日ノ判決及ヒ賣買ノ時ニ於テ未タ變造セスト雖モ共和第十一年七月二十一日ノ法ノ第三十六條及ヒ共和第十三

年五月二十九日ノ法ノ第一條ニ依テ賣買ヲ禁止シタル藥品ヲ密ニ所持スルノ所爲月千八百五十五年六月八日及ニ適當スルナリ月千八百七十八號 食料ノ賣買〇千八百五十一年ノ法ノ第一條ノ第二項ハ變造ノ有罪タルヲ記載シタル後賣主ノ變造シ又ハ惡質ニ變性セシ食用又ハ藥用物質又ハ日用物ノ販賣若シハ販賣ニ備フルヲ記載ス故ニ罪ヲ構造セシハ物質ヲ變造シ又ハ惡質ニ變性セシト此物質ノ販賣ヲナシ又ハ之ヲ販賣ニ備ヘシ者ノ其變造又ハ變性物タルヲ知リシトテ要スルナリ月千八百五十八年二月五日ノ判決此二所爲ヲ判定スルノ權ハ輕罪裁判所ノ裁判官ニ屬シ其申陳ハ他ヨリ動カス可カラサルモノナリ月千八百五十四年十一月九日千八百五十六年七月九日及ヒ千八百五十九年二月三日ノ判決 此罪ノ構造ニ付テハ變造又ハ變性シタル物質ノ健康ニ有害ナルヲ必要トセサルカ故ニ此事ハ罪ノ一原素ヲサスト雖モ刑ノ加重ノ一條件トナルナリ月千八百五

販賣シタル物品ノ性質ニ偽レ罪及ヒ偽ノ度量衡ヲ以テ販賣ヲナス罪

十七年八月二
十九日判決

第八百七十九號 販賣シタル物品ノ分量ノ欺キ○第四百二十三條ノ

第二項ハ偽造シタル度量衡ヲ用キテ販賣シタル物品ノ分量ヲ欺キシ者ヲ罰ス千八百五十一年三月二十七日ノ法ノ第一條ノ第三項ハ此罰則ヲ偽造シタル度量衡又ハ度量衡ノ用ニ立ツヘキ不正ノ器械ヲ用ヒ又ハ度量衡ノ使用ヲ偽リ若クハ此使用前ト雖モ商品ノ度量ヲ増サントスルノ姦計ニ因テ又ハ舊時ノ正シキ度量衡ト信セシム可キ不正ノ定メ方ニ因テ物品ノ分量ヲ偽リ其取引ヲ爲シタル者ヲ欺キ或ハ欺カント試ミシ者ニ延及ス此二條例ニ記載スル所ノ罪ハ三原素ノ具備スルキニ非サレハ成立セズ是レ其條例ヨリ生スル所ノモノナリ第一犯人カ人ヲ欺クノ意思ヲ有セシテ要ス故ニ法律ハ故意アリテ人ヲ欺キシ者ニ非サレハ之ヲ罰セス而シテ第四百二十四條ニ於テハ第四百二十

三條ハ詭計アルキニ非サレハ適當セサル旨ヲ記載セリ
千八百五十八年二月五日及
月二十日ノ判決
第二ノ原素ハ欺キノ販賣シタル物ノ分量上ニ施セシモノタルコナリ是レ即チ外面上ノ損害ナリ
第三ノ原素ハ此所爲ヲ成就センカ爲メニ用キタル方法ノ偽造シタル度量衡ノ使用タルカ又ハ舊時ノ正シキ度量衡ト信セシム可キ不正ノ定メ方ヲナスコナリ茲ニ注目スヘキ一事ノ不正ノ三方法ヲ記載スル所ノ千八百五十一年三月二十七日ノ法ノ第一條ノ第三項ハ買主ノ此方法ヲ用キシモハ賣主ノ如ク之ニ適當スルコト是ナリ
千八百六十四年四月三日ノ判決
尙ホ下ニ此諸方法ヲ詳悉セン

第八百八十號 偽造シタル度量衡ヲ使用スルコト○法律ニ記載シタル方法中ノ第一ハ偽造シタル度量衡ヲ使用スルコトナリ偽造シタル度量衡ト法律ニ定ムルモノト異リタル度量衡トハ之ヲ區別ス第一ノモノ

販賣シタル物品ノ性質ヲ偽ル罪及ヒ偽ノ度量衡ヲ以テ販賣シナス罪

ハ法律ニ定ムル形体又ハ錘ナキモノヲ指シ、第二ノモノハ舊時ノ度量衡又ハ政府及ヒ検査官ノ印章ヲ記サ、ルモノヲ指スナリ、一千八百四十年四月十四日、同年十月二十六日及ヒ千八百八十八年五月十一日ノ判決例ニ於テ數十年間ハ舊時ノ度量衡及ヒ政府又ハ検査官ノ印章ナキ度量衡ノ商店及ヒ商業ノ場所ニアルキハ之ヲ偽造物ト看做セリ、共和第六年五月二十七日、共和第七年十一月十一日ノ決議、千八百三十七年七月四日ノ法第四條、千八百二十四年五月三十一日、千八百五十五年八月十九日、同年五月二十日、千八百二十四年三月十一日、千八百五十六年六月十二日、然レモ偽造シタル度量衡ノ所持ヲ輕罪ト定メタル千八百五十一年三月二十七日ノ法ハ不正ノ度量衡ノ使用ノミヲ罰シ不規則ナル度量衡ノ使用ヲ罰セスシテ以テ上ノ不理ナル混雜ヲ解キタリ但シ欺キアリトセンニハ不正又ハ不規則ナル度量衡ニ因テ之ヲ施セシト否トテ區別スルニ及ハス何トナレハ正當ナル度量衡ヲ用フシキト雖モ詭計ノ行ハル、以上ハ罪ヲ構造スレハナリ蓋シ度量衡ハ其不正

タルカ又ハ人ヲ欺カンカ爲メニ用フルノ一事ヲ以テ之ヲ偽造物ト看做シハナリ、千八百五十七年七月四日ノ判決、不適法即チ不規則ノ度量衡ヲ商店ニ備フルコト千八百三十七年七月四日ノ法ノ第四條ハ之ヲ其使用ト同視スルハ第四百七十九條ノ第六項ヲ以テ之ヲ論ス蓋シ該條ハ千八百五十年三月二十七日ノ法ノ第九條ニ依テ廢止シタル事柄中ニ入ラサルヲ以テナリ、千八百五十二年十一月二十三日ノ判決、第八百八十一號、茲計及ヒ不正ノ定メ方、○又欺キハ度量衡ノ使用ヲ偽ハラントスルノ茲計ヲ以テ又ハ舊時ノ度量衡ト信セシム可キ不正ノ定メ方ヲ以テ之ヲ行ナリ此茲計ノ義解ヲ明確ニ舉示スルハ難事ナリ、○欺キノ罪ヲ構造シニハ三條件ヲ要ス施シタル茲計、度量衡ノ使用ヲ偽ハルノ目的、販賣シタル物ノ分量上ニ欺キヲ生セシノ結果是ナリ、千八百五十一年三月二十二日、千八百五十二年五月十九日、千八百五十七年二月二十二日、及ヒ同年八月八日ノ判決、不正ノ定メ

販賣シタル物品ノ性質ヲ偽シ罪及ヒ偽ノ度量衡ヲ以テ販賣ナス罪

方ノ判定ハ屢困難ナルコトアリ然レモ例ヘハ四百五十グラムノ斤量
 アル蠟燭匣ヲ五百グラムニ量リタル商人形体ニ因テ曾テ定マリテ
 ル斥量ヲ包有セサル麪包ヲ販賣シタル麪包販賣人及ヒ一リトルノ入
 定マリタル升ニ滿タサル牛乳ヲ一リトルナリトシテ販賣シタル牛
 乳賣捌人ニ付テハ其不正ノ定メ方ニ因テ分量ヲ欺キシハ明瞭ナリ
 年七月二十四日及ヒ千八百五十七年四月二十四日ノ判決然レモ定
 メ方ハ如此ク常ニ明瞭ナラサルナリ且テ以テ不正ニ分量ヲ述ヘシ
 キハ其偽言タルハ素ヨリ疑ナシト雖モ罪ノ構造ニハ不充分ナリトス
 千八百五十八年四月二十七日ノ判決但シ肉商人肉ノ分量ヲ其買人ノ庖
 厨ノ帳簿ニ偽ハリ記セシキハ第四百二十四條ヲ以テ論ス可キナリ
 千八百五十八年十一月十九日ノ判決此決定ハ度量衡ニ付不正ノ定メ方ヲ爲シタル供給
 人ニ適當スルナリ

第八百八十二號 未遂犯○第四百二十三條ニ記載スル所ノモノハ販
 賣ヲ爲シタル場合ニノミ限ルカ故ニ尋常ノ未遂犯ハ之ヲ罰セサルナ
 リ千八百六十三年之ニ反シテ千八百五十一年三月二十七日ノ法ハ欺
 キノ罪ノ未遂犯ヲ罰ス故ニ商品ノ性質上ノ欺キハ之ヲ施セシキニ非
 サレハ罰ス可カラスト雖モ食料及ヒ藥料ノ品位上及ヒ人ニ交付シタ
 ル物ノ分量上ノ欺キハ其未遂犯ト雖モ罰ス可キナリ千八百五十八年
 一判決ニ於テハ千八百五十一年ノ法ノ第一條ノ第三項ハ欺キノ罪ノ
 未遂犯ニ付テハ刑法第二條ニ記載シタル條件ノ具備ヲ要セスト定メ
 リ故ニ販賣センカ爲メ商店ニ展示セシキト雖モ罰ス可キノ未遂犯ヲ
 構造ス千八百五十四年二月十日同六月三十日千八百五十年然レモ此
 場合ニ於テハ展示又ハ度量ノ外面上ノ所爲ヲ實施セシキ要シ唯賣物
 ナリト述ヘシノ一事ヲ以テ充分トセサルナリ千八百六十八年十二月
 三十一日ノ判決

販賣シタル物品ノ品質ヲ偽ル及ヒ偽ノ度量衡ヲ以テ販賣カナス事

第八百八十三號 刑罰○第四百二十三條ハ三月乃至一年ノ禁錮ト賠償及ヒ還給ノ四分一ヨリ多カラス五十フランヨリ少カラサル罰金ノ刑ヲ宣告ス千八百五十一年三月二十七日ノ法ハ該條ニ記載スル場合ニ此刑ヲ適施ス然レモ同法ノ第二條ハ附記シテ曰ク健康ニ有害ナル物質ヲ包含スル商品ニ付テハ其還給及ヒ賠償ノ四分一ノ高ノ五百フランニ至ラサルモハ五十フラン乃至五百フランノ罰金ト三月乃至二年ノ禁錮トヲ適施シ又變造シタル食料及ヒ藥料ノ所持ハ十五フランノ罰金ト十五日ノ禁錮トニ處スト變造又ハ腐敗シタル有害物ヲ販賣シ又ハ販賣センカ爲メニ展示スルコトハ假令買主ノ其有害物タルコトヲ知リシモト雖モ加重ノ原因トナル可シ何トナレハ法律ハ有害ナル物計ニ對シテ其他ノ人ヲ保護セムト欲スレハナリ千八百五十七年八月二十九日ノ判決罰金ノ五十フランヲ超過スルモハ賠償及ヒ還給ノ高ノ比較ニ從フカ故

ニ別段ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ定限アルナシ第八百十四號 故ニ適施シタル罰金ノ高ノ四倍ノ損害アルモ非サレハ五十フラン以上ノ罰金ヲ適施スル能ハサルナリ千八百五十五年四月十四日千八百六十五年十一月四日ノ判決千八百五十一年ノ法ニ記載シタル罰ノ再犯ニ付テハ其第二回ノ訴ノ前五年内ニ行ハレシモ其刑ヲ長期ノ二倍ニ登シ且賠償ノ高ノ半額ノ千フランニ超ヘサルモハ罰金ヲ千フランニ迄登スナ得ヘシ但シ此規則ト刑法第五十七條及ヒ第五十八條ノ適施ト抵觸ス可カラス然レモ此加重ハ裁判官ノ自由ニ適施スルヲ得可キモノナリ又同法ノ第七條ハ此罪ニ第四百六十三條ヲ適施スルヲ得ヘキ旨ヲ記載ス茲ニ欺キノ總テノ場合ニ通シ用フヘキ規則アリ即チ不適法ノ度量衡及ヒ販賣ニ因テ罪ヲ構造ス可キ物品ノ沒收是ナリ偽造ノ度量衡ハ之ヲ破毀シ使用ニ供スルヲ得ヘキ日用物ハ之ヲ救育場ニ

販賣シタル物品ノ性質ヲ偽ル罪及ヒ偽ノ度量衡ヲ以テ販賣シナス事 九百十七

贈ラソカ爲メニ一旦管掌ノ官ニ送附シ有害物ハ被罰者ノ住居ノ門前ニ於テ之ヲ破壊ス千八百五十一年但シ沒收ハ罪ノ宣告アリタルキニ非サレハ之ヲ宣告スルヲ得ス千八百五十年九月而シテ有害ナル日用物ハ其犯人ニ屬スルト否トヲ論セス之ヲ沒收ス千八百五十七年一月三月十二日千八百五十一年三月二十七日ノ法ノ第六條ニ曰ク裁判所ハ被罰者ノ費用ヲ以テ其指示シタル場所ニ宣告文ノ榜示及ヒ其指示シタル新聞紙ニ宣告文ノ全文又ハ其摘撮書ノ登記ヲ命スルヲ得ヘシト

從第四百二十五條至第四百二十九條

此規則ハ千八百六十三年五月十三日ノ法ニ因テ第四百二十三條ノ終リニ一項ヲ附記セシ以來欺キニ關スル諸種ノ裁判宣告ニ延及セリ

○第十節 學術上ノ偽造ノ罪

第八百八十四號 罪ノ原素 ○學術上ノ偽造トハ發明、書類、肖像、額、圖書、音樂ノ譜ノ著作ニ關シテ發明者、著述者、畫工、彫刻者及ヒ樂人ノ權利ヲ

妨害スルモノヲ云フ故ニ法律ハ此場合ヲ罰センニハ著書上ニ著述者ノ權利アルコト其權利ヲ妨害セシコトノ二事アルヲ要ス第四百二十五條ニ記載シタル此罪ノ原素ハ文學、理學及ヒ術上ノ著作物ノ全部又ハ一部ヲ竊版スルコト此竊版ニ依テ其著作主ニ損害ヲ醸スコト其損害ヲ來ス可キ詭計アルコト是ナリ

第八百八十五號 竊版 ○第四百二十五條ハ著作權者ノ權利ヲ害シテ書類、音樂ノ譜、圖書又ハ其他ノモノヲ印刷又ハ彫刻セシキニ非サレハ偽造ノ所爲アリトセス而シテ千七百九十三年七月十九日ノ法ノ第一條ハ著作權者ニハ其著作物ヲ販賣シ販賣ヲナサシメ又ハ配達スルノ權ニ非サレハ許與シサリシ故ニ此二條ニ從ヘハ法律ニ於テ保護シ有罪トスル所ノモノハ人ノ思考ヲ取リテ著作ヲ爲セシコトニハ非スシテ人ノ既ニ著作シタル物ニ摸擬シテ更ニ製作スルコトナリ何トナレハ是レ人ノ

學術上ノ偽造ノ罪

所有權ヲ害スレハナリ又此規則ハ印刷又ハ彫刻シタルモノニ非カレ
 ハ適當セス何トナレハ是レ商品ノ一部ヲ爲スモノナレハナリ刑法律二
論第百六
十號參觀但シ偽版ノ條件ハ罪ノ成立ニ付必要ニ非ルナリ著作
 權利ヲ保證センカ爲ニ法律ニ用ヰタル此偽版ノ語ハ法律ニ掲ケタル
 場合ニノミ限ラスシテ寧ロ例示ニ過キサカ故ニ罪ヲ構造センニハ
 本版ノ著作物ト競フヲ得ヘキ有害且外面ニ顯ハレタル竊版アリシテ
 以テ充分トス又本版ノ著作物ト偽版ノ著作物ト全ク均一ナルヲ要セ
 ス書中順序ノ差異ハ偽造ノ所爲ヲ蓋フニ足ラサルナリ千八百二十年
二月二十六日
及ヒ千八百五十年
一月二十六日ノ判決然レヒ竊版ト摸造及ヒ一部ノ出版トヲ混淆ス
 可カラス摸造トハ他人ノ著作物ノ全部ヲ精細ニ摸寫セシニ非スシテ
 其一部ヲ己レノ著作物中ニ借り來リタルヲ云ヒ千八百五十五年五月
月二十四日ノ判決
 部ノ出版トハ他人ノ著作物中ノ一部ヲ己レノ著作セシモノ、如ク己

レノ名ヲ以テ發行スルヲ云フ此出版ハ異リタル順序ヲ有スルカ著作
 者ト競ハンカ爲メニ非サルカ又ハ原著ノ一部ヲ己レノ所有ト爲サン
 ト欲セシトニ非サレハ竊版ト差等アリ但シ原著ノ主眼タル部分ヲ出
 版セシトハ此例ニ非サルナリ千八百二十二年七月
三月三日ノ判決竊版ニハ全部一部ノ二
 種アリ全部ノ竊版トハ原著ノ儘ヲ印刷セシテ云ヒ一部ノ竊版トハ原
 著中ノ一部ヲ借り來ルカ又舉示スルヲ云フ此第二ノ場合ニ於テハ原
 著ニ可ナリ害ヲ生セシトニ非サレハ罪ヲ構造セサルナリ共和第十二
年八月二十二
日及ヒ千八百十二
年九月四日ノ判決而シテ書籍ノ略書ハ原著ノ順序思考及ヒ文体ヲ存
 スルキニ非サレハ之ヲ竊版ト看做サ、ルナリ
 第八百八十六號 竊版ノ方法○第四百二十五條ハ千七百九十三年七
 月十九日ノ法ノ第二條ニ從テ法律ヲ犯シテ爲シタル全部又ハ一部ノ
 印刷又ハ彫刻「ヲ偽版トス法律ハ其保護ヲシテ書類、音樂ノ著作、圖書ニ

ノミナラス其他ノ竊版ニ適當セリ故ニ此規則ハ千七百九十三年七月十九日ノ法ノ第七條ニ依テ美術ニ屬スル諸種ノ著作物ニ適當ス而シテ彫刻圖書ノ著作ハ其規則中ニ包含スルニ非ズ又摺物ノ原石及ヒ書類ハ之ヲ印刷物ト同視スルヲ得ヘシ何トナレハ罪ハ之ヲ犯サシカ爲メニ用サタル器械ノ性質ニ關セサレハナリ然レモ法律ハ印刷又ハ彫刻ト記載セシカ故ニ罪ノ構造ニ付テハ必スシモ發行販賣セシヲ要用トセス唯印刷又ハ彫刻セシノ一事ヲ以テ偽造ノ所爲アリトスルナリ

千八百七十年六月二日ノ判決

第八百八十七號 損害○竊版コリ生シ或ハ生スルヲ得ヘキ損害罪ノ第二ノ原素ハ著作權ノ權利ヲ侵セシニ因テ生スルナリ著作權ノ所有權ハ千七百九十三年七月十九日及ヒ千八百十年二月五日ノ布令千八百四十四年八月三日ノ法千八百五十二年三月二十八日ノ布令及ヒ千

八百五十四年四月八日ノ法ニ因テ種々ニ之ヲ規定セリ此權利ハ下ノ諸種ノ書類ニ適當ス數著書ノ摘撮ノ集成及ヒ千八百四十七年十二月二日六日ノ翻譯書月二十三日ノ判決條例ノ註解及ヒ附記書十月二十三日ノ判決數著書ノ目錄書百五十五年六月十八日及千八百八十九年五月二十日ノ規則ハ國會又ハ公ノ集會ニ於テ爲タル演說訟廷ニ於ル開申又ハ請求教師ノ公ノ講義ニ適當ス但シ諸種ノ演說ヲ別々ニ發行スルハ出版條例ニ於テ許ス所ト雖モ代理人又ハ教師ノ如キ著者ノ演說申牒訟廷ニ於ル開申講義ノ集成ヲ發行スルハ之ヲ許サハルナリ然レモ私有物タル能ハスシテ直ニ公有物トナル可キ書類アリ法律規則判決裁判官ノ決議廻達諭示公文官ノ書類勘定書申牒法律ノ趣旨書是ナリ

第八百八十八號 寺院ノ書籍○寺院ノ書籍ハ格段ナル法律ヲ以テ之ヲ規定ス共和十三年七月七日ノ布令ハ寺院ノ書籍ノ印刷ヲ規定シ

學術上ノ偽造ノ罪

區ノ僧長ヨリ允許ヲ得タル後ニ非サレハ其印刷又ハ再印刷ヲ爲ス能
 ハサル旨ヲ定メリ此規則ハ此僧長ノ著述シタル書ニ適當セサルカ故
 ニ僧長ハ平人ノ如ク其所有主トナリ且其テ販賣シ又ハ其所有權ヲ他
 人ニ讓與スルヲ得ヘシ千八百二十五年四月三十日ノ判決然レモ寺區内ニ於テ發行シ
 タル寺院ノ書籍ニ付テハ僧長ハ如何ナル權利ヲ行フヲ得ヘキ乎破毀
 院ニ於テハ下ノ如ク決定セリ共和十三年七月七日ノ布令ハ寺院ノ書籍
 ノ所有權ヲ僧長ニ許與セサリシヲ該布令ハ宗教ノ利益及ヒ其同一轍
 ノ爲メ僧長ニ監察ノ權ヲ任セシニ過サルコト是ヨリシテ僧長ニハ布令
 ニ背キタル印刷者ニ對シテ告訴ヲ爲シ檢事ニハ職權上之レニ對シテ
 訴ヲ爲スノ權ヲ生シ千八百二十六年五月二十八日ノ判決千八百四十七年六月五日ノ判
 決千八百九十九年六月十日ノ判決第五口ノ參議院決議
 第八百八十九號 音樂ノ譜及ヒ術ノ著作○第四百二十五條ハ書類ノ

語ノ後ニ音樂ノ譜及ヒ圖書ノ竊版ノ語ヲ記載ス故ニ該條ノ目的トス
 ル所ノ保護ハ音樂ノ譜及ヒ諸種ノ圖書ノ思考ヲ凝シテ爲セシモノニ
 シテ其竊版ノ著作者ニ有害ナルモハ之ニ適當スルナリ千八百五十二年
 五月十九日及ヒ千八百六十年五月十一日ノ判決術ノ著作物ノ竊版ハ
 異リタル術ヲ以テ施セシモ例ヘハ招物法又ハ彩色ヲ以テノ同方法ニ
 因テ額又ハ圖書ヲ竊版セシモト雖モ均シク僞版ナリ刑法理論第二千
 百八十八號參觀
 器械ヲ以テ音樂ノ譜ヲ竊版セシモ亦上ト同一ナリ千八百六十二年
 二月十三日ノ判
 決然レモ原作ノ方法ト全ク異ナリタル結果ヲ有スルモノノ原作ト摸作
 トノ用方ノ全ク異ナルモノハ之ヲ僞版ト同視セス故ニ尋常ノ額ニ畫
 シタル事柄ヲ蠟石ニ摸寫セシ彫刻者肖像製造人ノ製シタル浮彫ヲ布
 ニ畫セシ畫工及ヒ世間普通ノ圖書ヲ肖像ニ摸彫シ又ハ銅若クハ石ニ
 施シタル彫刻ヲ紙上ニ摸寫セシ者ハ法律ノ犯人ニ非サルナリ千八百
 五十五年

學識上ノ僞造ノ事

年七月二十一日千八百六十五年八月十七日判決同決定ハ之ヲ寫眞コナセシ場
合ニ適當ス千八百六十二年十一月二十五日判決法律ハ術上ノ偽作ノ
性質ノ義解ヲ掲ケサリシカ故ニ其模倣ノ法律ニ因テ保護ス可キモノ
タルヤ否ヤハ陪審會ノ判定申陳ニ任スナリ

第八百九十號 不正ノ意思○第三ノ原素ハ他人ヲ害スルノ意思ナリ
是レ偽造ニ付テハ過シ可カラサルノ條件ナリ共和第九年六月二十五日
二十四月及ヒ千八百六十總テ詭計ハ公訴ノ條件ナリト雖モ此詭計ヲ
除去シタル偽造ノミノ所爲ハ私權ニ對スル妨害ヲ生スルニ過キサル
カ故ニ民事裁判所ニ於テ判決スルヲ得而シテ第四百二十五條ノ罰セン
ト欲スル所ノ罪ヲ構造セサルナリ

第八百九十一號 償還及ヒ刑罰○告訴及ヒ公訴ノ權ハ偽造ノ被害者
ナル佛蘭西人又ハ外國人川千八百五十二年八月其相續人及ヒ其讓受人ニ

屬ス然レモ其訴ニ付テハ印刷シ又ハ石版ヲ以テ摺リタル原著ノ一部
ヲ豫メ裁判所ニ出サ、ルヲ得ス千七百九十三年七月而シテ此義務ハ著
作者ニ屬セスシテ印刷者ニ屬スルナリ千八百四十年二月八日ノ布令千
年一月九日ノ規則又告訴人ハ偽版ニ因テ受ケタル損害ヲ證セサルヲ
得ス法律ノ偽版ヲ以テ出版シタル部冊ノ沒收ト第四百二十九條ノ償
還法トニ因テ保護セント欲スル所ノモノハ著作物ヲ販賣シ之ヲ販賣
セシメ及ヒ之ヲ配達スルノ權ノミニ限ルナリ告訴人ニ於テ上ノ二條
件ヲ行ヒシキハ裁判官ハ千七百九十三年七月十九日ノ法ノ第四條刑
法第四百二十七條及ヒ第四百二十九條ニ從テ、第一罪ノ輕重ニ從テ法
律ニ定メタル制限内ノ罰金ヲ宣告シ、第二偽造ヲ以テ出版シタル部冊
ノ沒收ヲ命シ、第三裁判所又ハ鑑定人ノ評價ニ從テ所有主ニ償還ヲ命
ス但シ沒收シタル部冊ヲ以テ損害ヲ償フニ足ルルキハ別段此償還ヲ宣

スルヲ得ス又一部ノ偽造ニ係ハルカ若クハ償還ヲ以テ損害ヲ回復セ
シトハ沒收ヲ命セサルコトアル可シ千八百四十二年九月

第八百九十二號 偽造シタル著作ノ零賣○第四百二十六條ハ著作ノ

偽造ノ罪ヲ制止センカ爲メニ偽造シタル著作ノ零賣及ヒ外國ニ於テ

偽造シタル著作ヲ佛國ニ輸入セシ事ヲ著作ノ偽造ト同視ス此第一ノ

場合ニ於テハ偽造シタル著作ヲ情ヲ知リテ零賣セシモノトス而シテ販

賣セシカ爲メニ商店ニ展示セシノ所爲ハ假令一部冊ヲ展示セシヤト

雖モ之ヲ販賣ト看做ス共和第十三年四月十四日ノ判決雖モ唯書肆ノ書目上ニ其著

作ヲ記載セシノ一事ハ罪ヲ構造セサルナリ千八百八十二年十二月二日ノ判決著作物ノ

差押ヘニ依テ正ニ其偽版タルコトノ判定アリシハ罪ノ構造ニ必要ナ

ル不正ノ意思アリト推測ス然レモ一部分ノ偽造タルコトヲ判定セシト

ハ此推測ハ消散スルナリ

第八百九十三號 偽造シタル著作物ノ輸入○偽造シタル著作物ノ佛

蘭西内ニ入り且零賣ス可キモノタルハ罪ヲ生ス何トナレハ第四百

二十六條ニ記載スル所ノモノハ販賣ニ非スシテ其輸入ナレハナリ此

輸入ハ外國ニ於テ偽造シタル著作ヲ佛蘭西ニ於テ發行シタルハ非

サレハ罰ス可キモノニ非ス此規則ハ佛蘭西人ノ外國ニ於テ初メテ發

行シタル著作ニハ適當ニサルナリ外國ニ於テ偽造シタル著作ヲ佛蘭

西ニ輸入シタル後之ヲ零賣セシトハ佛蘭西ニ於テ偽造ヲ爲シタル場

合ト均シク之ヲ罰スルナリ

第八百九十四號 淨瑠璃ノ著作ノ演劇○淨瑠璃ノ著作ハ他人ノ印刷

又ハ石摺ヲ以テ發行シタルハ第四百二十八條ニ因テ之ヲ保護ス而

シ該條ハ格段ニ不適法ノ演劇ニ對シテ其著作ヲ保護スルヲ目的トシ

演劇ノ支配人、興業人及ヒ技藝者ニ非サレハ罰セサルカ故ニ其他ノ者

ハ縦覽人ヨリ賃銀ヲ收受セサル以上ハ他人ノ著作シタル淨瑠璃ヲ公ケノ劇場ニ於テ演スルヲ得ヘシ千八百五十四年十二月十六日千八百五十九年五月十九日及ヒ千八百六十年五月十一日演劇ノ興業人ノ語ハ格段ニ演劇ノ興業ヲ職業トスル者ニノミナス總テ偶然ニ又ハ多少永續スヘキ方法ヲ以テ淨瑠璃又ハ音樂ノ著作ヲ公衆ニ見聞セシメント企テシ者ニ適當スヘシ千八百五十六年一月廿二日判決然レハ公ケノ演劇ニ非サレハ法律ニ適當セス千八百六十二年八月十七日判決然レハ此演劇ニ著作權ノ所有權ニ關スル法律及ヒ規則ニ反シテ施シヤニ非サレハ第四百二十八條及ヒ第四百二十九條ニ因テ之ヲ罰セサルナリ此法律及ヒ規則ハ學術ノ所有權ヲ保護スル所ノモノト同一ナリ

○第十一節 海陸軍ニ諸般ノ物品ヲ供給スル者ノ罪

第八百九十五號 供給者ノ其約シタル務ニ付施シタル罪ハ第四百三

從第四百三十三條至第四百三十三條

十條ヨリ第四百三十三條ニ至ルノ四條ニ於テ之ヲ論ス此數條中ニハ主タル三所爲ヲ記載ス第一供給者ノ務メテ缺タル過失第二懈怠ニ依テ物品ノ交付及ヒ工事ノ執行ヲ遲滞セシメ第三供給シタル物品又ハ工事ノ性質品位又ハ分量ニ付詭計ヲ施シテ是ナリ此第一ノ場合ハ重罪ヲ構造シ他ノ二箇ノ場合ハ輕罪ヲ構造ス此規則ハ海陸軍ノ供給者ニ非サレハ適當セス故ニ政府ノ爲メニ施セシ工事供給ト雖モ其軍隊ノ爲メニ非サルモ如何ナル場合ト雖モ此規則ノ適施ヲ受ケルトナシ法律ハ上ノ過失等ノ職時ニ於テ行ハレシト平時ニ於テ行ハレシトチ區別セサルカ故ニ其平時ニ於テ行ハレシト雖モ之ヲ罰ス千八百七十八年二月十七日判決

第八百九十六號 第四百三十條ハ供給者ノ過失ニ因テ其約シタル務ヲ缺シノ所爲ヲ記載ス供給者トハ自身ノ名ニ於テ又ハ組合ノ名ニ於

海陸軍ニ諸般ノ物品ヲ供給スル者ノ罪

テ海陸軍ノ爲メニ供給作業又ハ操作ヲ約シシ者ヲ云フ此身分ハ法律ノ適施ニ付テノ第一ノ條件ナリ第四百三十一條ハ供給者ノ過失ニ加ハリタルコトナリ責ヲ受ク可キ其使丁ニ之ヲ延及セリ第二ノ條件ハ務ヲ缺キタルコトナリ罪ノ基ク所ノモノハ此外面上ノ所爲ナリ然レモ尋常ノ遲滞ハ務ノ欠缺中ニ入ラサル可シ何トナレハ第四百三十三條ハ別ニ之ヲ有罪トスレハナリ第三ノ條件ハ供給者カ故ラニ務ヲ缺キシカ又ハ少クトモ不執行ノ過失ヨリ生セシモノタルコトナリ第四百三十三條ハ眞ニ抗拒ス可カラサル強迫ニ因ラスシテ務ヲ缺キシ供給者ニ非サレハ之ヲ罰セス而シテ該條ハ同時ニ敵ト通謀シシ場合ヲ記載ス故ニ法律ハ供給者ノ自由ニ動作シ且有罪ノ意思ヲ有セシキニ非サレハ之ヲ罰セサルナリ上ノ場合ニ於テ適當スル所ノ懲役ノ刑ハ下ノ二箇ノ場合ニ於テ加重ス第一供給者ノ敵ト通謀セシキ(此場合ニ於テハ第七

十七條以下ヲ適施ス第二供給者ノ政府ノ官吏ト共犯セシキ(第四百三十三條ハ此場合ニ於テ有期徒刑ヲ適施ス)

第八百九十七號 第四百三十三條ハ二箇ノ所爲ヲ記載ス懈怠ニ因テノ遲滞及ヒ供給シタル物ノ性質品位及ヒ分量上ノ詭計是ナリ此第一ノ場合ニハ二原素アリ第一務ヲ遲滞セシコト若シ務ヲ缺キシキハ該條ノ目的ニ非サルカ故ニ第四百三十條ヲ適施ス第二此遲滞ノ懈怠過失又ハ有罪ナル意思ヨリ生セシコトナリ第二ノ場合ハ第四百二十三條ノ複記ニ過キサルカ故ニ尋常ノ懈怠ニ非スシテ詭計ナリ

第八百九十八號 第四百三十三條ノ第二項ハ第四百三十條第四百三十一條第四百三十二條及ヒ第四百三十三條ニ記載シタル場合ニ於テハ政府ノ告訴アリタルトニ非サレハ公訴ヲ爲サル旨ヲ規定ス茲ニ政府トハ海軍省及ヒ陸軍省ヲ云フナリ

海陸軍ニ諸般ノ物品ヲ供給スル者ノ罪

千八百四十六年八月二十日ノ判決 而シテ海軍省ニ非サレハ

長ノ告訴ハ公訴ノ原因タルヲ得サルナリ 千八百六十年七月十三日ノ判決但シ此告訴
ハ現今廢止ニ屬シタル共和八年三月二十二日ノ法ノ第七十五條ニ記
載シタル允許ト混淆ス可カラス ○總テ政府ノ供給者ハ政府ノ官吏ニ
非サルナリ 千八百七十一年一月十二日及七十年六月十
四日ノ判決 ○刑法理論卷二千五百十號參觀

○第三款 毀壞損取、損害ノ罪

從第四百三十
四條至四百
三十六條

○第一項 放火、地雷火ニ因テノ毀壞放火ノ脅迫ノ罪

第八百九十九號 放火ノ罪ヲ罰スル所ノ第四百三十四條ハ之ヲ五種
ニ區別ス、第一犯人ノ所有タルト否トヲ論セス人ノ住居シ又ハ人ノ住
居ス可キ場所ノ放火、第二人ノ住居セサル場所他人ニ屬シタル未タ刈
收セサル森林又ハ穀物及ヒ他人ニ屬シタル既ニ刈收シタル森林又ハ
穀物ノ放火、第三事主ニ屬シタル住居セサル場所既ニ刈收シ或ハ未タ
刈收セサル森林穀物ノ放火、第四上ノ物件ニ火ヲ傳ヘテ燒燬セシメン

カ爲メ置キタル物件ノ放火第五燒燬シタル場所ニ在リタル一人又ハ
數人ヲ偶然ニ死ニ致セシ所ノ放火是ナリ

第九百號 人ノ住居シ或ハ住居ス可キ場所ノ放火 ○第四百三十四條

ノ第一項ハ人ノ性命ヲ保護スルノ目的ヲ有スルモノニシテ人ノ所有
權ヲ保護スルノ目的ヲ有スルモノニ非ス該條ノ場合ニ死刑ヲ適施ス
ル所以ノモノハ夫レ此理ニ由ルナリ該條ノ罪ノ成立ニ付テハ二原素
ヲ有ス放火ノ意思及ヒ其外面上ノ所爲是ナリ而シテ該條ニ記スル所ノ
意思トハ他人ニ害ヲ加フルノ企テ云フナリ該條ノ場合ヲ生センニハ
住家ニ放火セシ者ノ其住人ヲ死ニ致スノ意思有リシテ要用トシテ唯
故意ヲ以テ即チ放火ノ意思故ラニ人ニ害ヲ加フルノ意思ヲ以テ放火
セシテ充分トス此意思中ニハ犯人ニ放火ノ結果ノ前見アリトシ之ヲ
其責ニ任ス 刑法理論第二千五百二十一號 ○千八百四十二年十二月十
七日千八百六十六年四月十三日及ヒ千八百六十八年七月十
放火地雷火ニ因テノ毀壞放火ノ脅迫ノ罪

長ノ告訴ハ公訴ノ原因タルヲ得サルナリ千八百六十年七月十三日ノ判決但シ此告訴ハ現今廢止ニ屬シタル共和八年三月二十二日ノ法ノ第七十五條ニ記載シタル允許ト混淆ス可カラス○總テ政府ノ供給者ハ政府ノ官吏ニ非サルナリ千八百七十二年一月十二日及ヒ同年六月十四日ノ判決○刑法理論第二千五百十號參照

○第三款

毀壞損敗損害ノ罪

○第一項

放火地雷火ニ因テノ毀壞放火ノ脅迫ノ罪

從前四百三十四條至第四百三十六條

第八百九十九號 放火ノ罪ヲ罰スル所ノ第四百三十四條ハ之ヲ五種ニ區別ス第一犯人ノ所有タルト否トヲ論セス人ノ住居シ又ハ人ノ住居ニ可キ場所ノ放火第二人ノ住居セサル場所他人ニ屬シタル未タ刈收セサル森林又ハ穀物及ヒ他人ニ屬シタル既ニ刈收シタル森林又ハ穀物ノ放火第三事主ニ屬シタル住居セサル場所既ニ刈收シ或ハ未タ刈收セサル森林穀物ノ放火第四上ノ物件ニ火ヲ傳ヘテ燒燬セシメン

カ爲メ置キタル物件ノ放火第五燒燬シタル場所ニ在リタル一人又ハ數人ヲ偶然ニ死ニ致セシ所ノ放火是ナリ

第九百號 人ノ住居シ或ハ住居ニ可キ場所ノ放火○第四百三十四條

ノ第一項ハ人ノ性命ヲ保護スルノ目的ヲ有スルモノニシテ人ノ所有權ヲ保護スルノ目的ヲ有スルモノニ非ス該條ノ場合ニ死刑ヲ適施スル所以ノモノハ夫レ此理ニ由ルナリ該條ノ罪ノ成立ニ付テハ二原素

ヲ有ス放火ノ意思及ヒ其外面上ノ所爲是ナリ而シテ該條ニ記スル所ノ意思トハ他人ニ害ヲ加フルノ企テ云フナリ該條ノ場合ヲ生センニハ

住家ニ放火セシ者ノ其住人ヲ死ニ致スノ意思有リシヲ要用トシテ唯故意ヲ以テ即チ放火ノ意思故テニ人ニ害ヲ加フルノ意思ヲ以テ放火

ニシテ充分トス此意思中ニハ犯人ニ放火ノ結果ノ前見アリトシ之ヲ

其責ニ任ス
刑法理論第二千五百二十一號
○千八百四十二年十二月十七日及ヒ千八百六十八年七月十日
放火地雷火ニ因テノ毀壞放火ノ脅迫ノ罪

九日ノ人ニ害ヲ加フルノ意思ハ之ノミニテハ充分セス其放火ニ因テ
 判決 損害ヲ起セシテ要ス然レモ犯人罪ヲ他人ニ歸スルノ意思ヲ有セザル
 ハ人ニ害ヲ加フルノ意思ハ消散ス可キ乎否ラス此場合ニ於テハ別種
 ノ二所爲アリ第一放火何トナレハ他人ヲ告發スルモ故意ナクシテ放
 火ヲ行ヒシト看做ス能ハサレハナリ第二誣告是ナリ故ニ放火ノ所爲
 ト誣告ノ所爲トニ因テ重複ノ責任ヲ受ケサルヲ得サルナリ 共和二年
 八月二十一日ノ判決

第九百一號 第二ノ條件ハ人ノ住居シ或ハ住居ス可キ建築物、船舶、小
 舟、倉庫、木材ノ集積場又ハ其他犯人ノ所有ニ屬スルト否トヲ論セス人
 ノ住居シ又ハ住居ス可キ諸般ノ場所ニ放火セシ外面上ノ所爲ナリ而
 シテ罪ヲ構造セシニハ其結果ノ如何ヲ問ハス故意ヲ以テ放火セシノ所
 爲ノミニテ充分シ建築物ノ崩壞シ火勢ノ熾ナリシヲ要用トセサルナ

リ然レモ放火シタル場所ノ人ノ住居スルカ或ハ住居ス可キモノタル
 ナ要スルナリ此住居スル及ヒ住居ス可キノ二語ハ如何ナル意味ヲ有
 スル乎又此二語ハ當ニ住居ニ供スル建築物ニノミナラス之ニ附屬ス
 ル建築物及ヒ住居ニ供ス可キ建築物ヲ包含スル乎判決例ニ於テハ、第
 三百九條ニ於テ住居スル場所ト云フ語ノ意味ヲ決定シ此區別ハ第四
 百三十四條ニ適當シ及ヒ住居スル或ハ住居ス可キ場所ト云フ語ハ住
 居スル建築物及ヒ住居セスシテ住居ニ屬スル建築物ヲ指示スルヲ以
 テ住居スル家屋ノ語ヨリ廣宏ナリト決定シ 四日千八百三十九年八月十
 月二十日此解釋ハ實ニ排駁ス可キモノナリ 刑三十九號參觀 五ト雖モ
 然レモ判決例ニ於テハ之ヲ維持スルカ故ニ尙當今實際上ノ規則トセ
 サルヲ得サルナリ 五日千八百五十七年一月十八日千八百四十九年六月十
 八年四月及ヒ千八百五十八年三月十一日ノ判決

放火地雷火ニ因テノ毀壞放火ノ脅迫ノ罪

第九百二號 放火シタル場所ノ住居スルモノタルキハ其犯人ノ所有ニ屬スルト否トニ拘ハラス刑ハ同一ナリ何トナレハ既ニ述ヘシ如ク第四百三十四條ノ目的トスル所ノモノハ所有權ノ保護ニ非スシテ人ノ性命ノ保護ナレハナリ但シ總テ放火ノ訴ニ付テハ放シタル建造物ノ他人ニ屬スルカ又ハ犯人ニ屬スルカヲ區別セサルヲ得ス何トナレハ此差異ヨリシテ此建造物ノ罪ヲ構造スルノ條件タルカ刑ヲ加重スルノ條件タルカノ差異ヲ生スレハナリ即チ建造物ノ他人ニ屬スルキハ刑ノ加重ヲ生ス何トナレハ他人ノ建造物ニ放火シタルノ所爲ハ主タル所爲ナレハナリ之ニ反シテ建造物ノ犯人ニ屬スルキハ罪ノ構造ニ係ハル所ノ一條件ヲ爲シ且陪審會ニ下問ス可キノ主點タルナリ此區別ハ明瞭ナリト雖モ實際上數多ノ困難ヲ生シリ

千八百四十四年五月九日
千八百四十五年五月九日
千八百四十六年一月十三日
千八百四十九年三月九日
千八百五十年一月十三日
千八百五十年三月九日

第九百三號 法律ハ人民ノ集會所ニ用フ可キ建造物ヲ人ノ住居スル場所ト同視シサリシ舊第四百三十四條ハ其第二項ニ於テ格段ニ此事ヲ記載シリ然レモ該項ハ千八百六十三年五月十三日ノ法ニ因テ之ヲ廢止セリ故ニ人民ノ集會所ニ用フ可キ建造物ハ當今之チ人ノ住居スル建造物ト同視スル能ハサルカ故ニ刑ヲ加重シンニハ放火ノ時ニ於テ現ニ此建造物ニ人ノ住居シヤ否ヤヲ判定スルヲ要ス是レ上ノ欠典ヨリ生シシモノナリ之ニ反シテ同法ハ漁車ノ一部タル人ノ乗ラサル車又ハ機關車ヲ人ノ住居スル場所ト同視シリ

第九百四號 人ノ住居ニサル場所他人ニ屬シタル森林及ヒ穀物ノ放火○第四百三十四條ノ第三項及ヒ第五項ハ人ノ性命ノ保護ヲ目的トシテ所有權ノ保護ヲ目的トス第三項ニ記載シタル場合ニ於テハ放火カ甚シキ損害ヲ起スヲ以テ其犯人ヲ無期徒刑ニ處ス此二項ノ重

放火地雷火ニ因テノ毀壞放火ノ管連ノ罪

罪ヲ生ゼンニハ三條件ヲ要ス犯人ノ意思燒燬シタル物品ノ性質他人ノ所有物タルコト是ナリ犯人ノ意思トハ放火シ他人ニ害ヲ加フルノ意思ナリ而シテ犯人カ情ヲ知リテ動作セシコト毀壞セシカ爲メニ惡意ヲ以テ放火セシコトハ之ヲ判定セサルヲ得サルナリ

第九百五號 第一項ニ記載シタル第二ノ條件ハ燒燬シタル物品ノ性質ナリ第三項及ヒ第五項ハ其保護セント欲スル物ヲ列記ス但シ此列記ハ第一項ト均シク例示ニ非ス制限ニシテ放火ニ因テ甚シキ損害ヲ起スヲ得ヘキ物品ニ限レリ然レモ條例ノ意ハ甚ク廣宏ナルカ故ニ建造物ノ語ハ車ヲ置クヘキ小舎ヲ除キ總テノ家作ヲ包含シ千八百五十二年十月ノ十日又船舶及ヒ小舟ノ語ハ名稱ノ如何ヲ論セス諸種ノ船ヲ指シ又倉庫ノ語ハ總テ商品ヲ貯ヘ置ク可キ場所及ヒ穀物貯場ヲ包含ス斫伐ス可キ森林トハ國、邑、公舎又ハ平民ニ屬スル森林ヲ云フ然レモ此規則

ハ森又ハ林ヲ爲サ、ル樹木ノ集リニ適當セス何トナレハ危害同一ナラサレハナリ又刈收セサル穀物トハ放火スルヲ得ヘキ性質ノ刈收セサル穀物ヲ云フ例ヘハ熟シタル麥ノ如キ是ナリ刑法理論第二千五百三十九號參觀

第九百六號 第五項ハ堆積セシ穀又ハ穀物又ハ堆積セシカ或ハ立方ヲ以テ量リタル木材又ハ瀛車ノ一部タル人ノ乘リヨル車又ハ機關車ニ放火セシ場合ニ於テ有期徒刑ヲ適施ス斫伐シタル木材ハ倉庫又ハ木材ノ集積場ニ在ルキハ第三項中ニ入り其集積場ニ非サル場所ニ堆積セシキハ第五項中ニ入ルナリ千八百五十七年三月三日判決但シ其堆積セシモノカ又ハ立方ヲ以テ量リタルモノカヲ判定スルハ必要ナリ何トナレハ唯地上ニ其ヲ散布セシキハ其損害實ニ微少ニシテ第五項ヲ適施スル能ハサレハナリ千八百三十六年九月即チ此適施ニ付テハ燒燬シタル產物ノ一收穫物タルカ又ハ其一部タルコト其收穫物ノ安意ヲ

放火地雷火ニ因テノ毀壞放火ノ脅迫ノ罪

以テ田野ニ泄キシト否トニ關セズ堆積セシモノタルコトヲ要スルナリ
 第九百七號 第三項及ヒ第五項ニ記載シタル第三ノ條件ハ放火シタ
 ル物品ノ他人ニ屬スルコトナリ此條件ノ性質ハ所有權ヲ保護スルニ在
 リ故ニ質物トシテ預リタル穀物又ハ己レノ差押ヲ蒙リシル穀物ニ放
 火セシ者ハ第三項及ヒ第五項ノ適施ヲ受ケサルナリ然レモ一部ノ所
 有權ノミテ有スル物品ニ放火セシ者即チ同相續人同社員又ハ婦ニ屬
 スル物品ニ夫婦別居又ハ財産分別ノ宣告後ニ放火セシ夫ハ此二項ノ
 適施ヲ受クヘシ千八百二十年三月二日ノ判決
 第九百八號 自己ノ所有物ノ放火○所有主ノ自己ノ所有物ニ爲シタ
 ル放火ハ如何ナル損害如何ナル損失ヲモ他人ニ醸サ、ル以上ハ重罪
 又ハ輕罪ヲ構造セサルナリ千八百二十二年十一月二十一日千八百五
 十年九月十二日千八百五十七年七月三十
 日及ヒ千八百六十三年九月三日ノ判決然レモ他人ニ損害ヲ醸セシキハ假令自己ノ所有

物ニ爲シタル放火ト雖モ罰ス可ナリ是第四百三十四條ノ第四項及第
 六項ノ決定ナリ故ニ人ノ居住スル自己ノ家屋ニ放火セシ所有主ハ第
 一項ノ適施ヲ受ケ第三項及第五項ニ列記シタル物品ニ放火シ而シテ他
 人ニ損害ヲ醸セシキハ第三項ノ場合ニ於テハ有期徒刑ノ適施ヲ受第
 五項ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ノ適施ヲ受ケ又自己ノ所有物ニ放火シ
 遂ニ隣家ニ延燒セシキハ直接ニ燒燬シタル物品ニ放火セシ場合ト同
 一ノ刑ヲ受ケ故ニ所有主ノ自己ノ物品ニ放火シタル罪ノ條件ハ第一
 其物品ノ性質ニシテ次ニ故意ヲ以テ他人ニ醸シタル損害ナリ此損害
 ハ或ハ燒燬シタル建造物ノ他人ニ書入質トナシタル者タルニ因テ或
 ハ期限ヲ定メテ若クハ貸銀ヲ約シテ他人ニ貸附シタル者タルニ因テ
 或ハ他人ノ保險請負ヲ爲シタルニ因テ又或ハ其他ノ原由ニ因テ生ス
 千八百二十六年一月七日ノ判決 而シテ此損害ハ現在且直接タルヲ要セス放火ヨリ直接
 放火地雷火ニ因テノ毀壞放火ノ脅迫ノ罪

ニ生セシヲ以テ充分トス千八百二十九年四月二十二日千八百五十四年七月六日及七千八百五十七年九月二十四日ノ判所有主自ラ放火ヲ爲サスノ他人ニ之ヲ爲サシメシキト雖モ其受ク可キ刑ハ同一ナリ而シテ他人ハ所有主ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第九百九號 傳通ニ因テ放火○第四百三十四條ノ第七項ハ可燃質ノ物ヲ以テ前數項ニ列記シタル物品ニ間接ニ火ヲ傳フルノ所爲ヲ記載スルヲ目的トス此罪ノ條件ハ第一故意ヲ以テ可燃質ノ物ニ放火セシメ、第二法律ニ列記シタル物品中ノ一ニ火ヲ傳フルノ方法ヲ以テ此物質ヲ置キシメ、第三火ノ目的トシタル物品ニ傳ハリシメ是ナリ該項ノ罪ヲ生センニハ始メ放火ノ時ニ於テ故意ヲ有セシヲ要スルハ勿論ナリト雖モ此故意ハ放火ノミニ止マラスシテ火ヲ傳フルノ事ニ迄延及セシモノタルヲ要スル乎第七項ニ從ヘハ故意ノ語ハ火ヲ傳フタル物品ニ放火セシメニ止マルヘシ然レハ此場合ニ於テハ火ヲ傳フ

ルノ意思アリト推測ス但シ法律ハ此意思ヲ判定スルヲ必要トセサルカ故ニ其反對ノ證據ヲ追却セサルナリ千八百六十二年六月一日ノ判決第二ノ條件ハ火ヲ傳フルノ方法ヲ以テ物品ヲ置キシメ要スルヲナリ此外面上ノ事情中ニハ内心上ノ意思ヲ包含スルカ故ニ宣告書中ニハ延燒シタル物品ノ位置ヲ精細ニ指示スルヲ要スルナリ第三ノ條件ハ火ノ正ニ傳ハリシヲ要スルヲナリ是レ全ク外面上ノ所爲ナリ何トナレハ第七項ニ於テ罰スル所ノモノハ放火ノ所爲ニ非スシテ火ノ傳通ナレハナリ千八百三十六年一月三日ノ判決然レハ此規則ヨリシテ左ノ諸件ヲ生ス、第一此種ノ放火ハ時ニ寄リテハ火ヲ傳フヘキ物質ノ放火ト火ノ傳ハリタル物品ノ延燒トノ二罪ヲ生スルヲ得、第二火ノ傳ハラサリシキハ其未遂犯ヲ有ストスルヲ得ヘシ○此種ノ放火ノ犯人ハ直接ニ物品ニ放火セシ場合ト同一ノ刑ヲ受ケ且延燒シタル物品ノ性質ニ從テ第四百三十四條ノ區

放火地雷火ニ因テノ毀壞放火ノ脅迫ノ罪

別ニ從フハ論ヲ俟タサルナリ千八百六十一年七月二十日ノ判決

第九百十號 火災ニ因テ人ヲ死ニ致セシ○家屋物品ヲ滅盡セント

欲シテ放火シタルニ此災ノ一人又ハ數人ヲ死ニ致セシ○ハ第四百三

十四條ノ第八項ニ從テ所有權ニ對スル放火罪ニ加重ヲ施シ其犯人ヲ

死刑ニ處ス第八項ノ始メニ記シタル何レノ場合ニ於テモノ語ハ第三

項第四項第五項第六項及ヒ第七項ニ記載シタル場合ニ非サレハ適當

セサルヲ要ス可シ何トナレハ第八項ハ人ヲ死ニ致シタル放火ノ重罪

ノ性質ヲ有スル場合ニ非サレハ適當スルヲ得サレハナリ刑法理論第十二號

該條ノ適施ニ付テハ二條件ヲ要ス第一有罪ナル意思即チ他人ニ

害ヲ加フルノ意思ノ成立アルヲ要ス此意思ハ殺害ノ所爲ニ附會シテ

内心上ノ罪ヲ構造スルモノナリ第二放火ノ一人又ハ數人ヲ死ニ致セ

シヲ要ス而シテ此第二ノ條件ハ假令至重ナル創傷ヲ起セシキト雖モ

成立セサルナリ死者ノ遺骸ハ火ノ延燒セシ後其燒燬シタル場所ニア

リシヲ要ス故ニ消防ノ爲メニ來集シ遂ニ燒死セシ者アルモ放火ノ犯

人ニ第八項ヲ適施スルノ原因タラサルナリ上ノ二條件ノ外總テ偶然

ニ生シタル殺害ハ均シク加重ノ原因タルヲ得サルナリ

第九百十一號 地雷火ニ因テノ毀壞○第四百三十五條ハ第四百三十

四條ト符合シ且同一ノ事柄ヲ記載ス何トナレハ地雷火ノ破裂ハ放火

ト同一視スルヲ得可ケレハナリ故ニ該條ノ罪ハ第四百三十四條ニ於

ケル如ク有罪ナル意思ト毀壞ノ外面上ノ所爲ト滅盡シタル物品ノ性

質トノ三條件ノ具備ニ因テ構造スルナリ有罪ナル意思トハ人ノ所有

物又ハ身體ヲ毀壞シ又ハ殘害スルノ意思ヲ云ヒ外面上ノ所爲トハ毀

壞又ハ其未遂犯ヲ云フ此毀壞ハ其一部タルト全部タルトヲ論セス地

雷火ニ因テ生セシモノタルヲ要ス而シテ地雷火ハ其効ナキト雖モ少

放火地雷火ニ因テノ毀壞放火ノ脅迫ノ罪

クトモ一部ノ毀壞アルモノトス物品ノ性質ニ付テハ毀壞ノ建造物、船、小舟、倉庫又ハ木材ノ集積場ニ適當スルヲ要ス故ニ地雷火ニ因テノ毀壞ノ訴ニ付テハ先ツ放火シタル物品ノ該條ヲ以テ論ス可キモノヤ
 ナ検査シ次ニ第四百三十四條ノ區別ニ從テ或ハ住居シタル場所タルカ若クハ住居セサル場所タルカ或ハ此場所ノ犯人ニ屬スルカ若クハ他人ニ屬スルカ或ハ破裂ノ損害ヲ起セシカ或ハ人ヲ死ニ致セシカヲ
 検査スルヲ要ス此場合ニ於テ刑ノ階梯ハ放火ノ罪ニ於ケル刑ノ階梯ト同一ナリ此第四百三十五條ニ記載シタル罪ハ第九十五條ニ記載シタルモノト混同ス可カラス何トナレハ第九十五條ハ内亂ニ因テ國ヲ騷カシ其安寧ヲ害センカ爲メ地雷火ヲ破裂シテ毀壞ヲ起セシ場合ニ非サレハ適當セサレハナリ

第九百十二號ノ上 放火ノ脅迫○放火ヲ爲サント人ヲ脅迫スルコトハ

謀殺ヲ爲サント人ヲ脅迫セシ場合ノ如ク且第三百五條第三百六條及ヒ第三百七條ノ區別ニ從テ罰ス可キモノナリ故ニ無名若クハ記名ノ書ヲ以テ又ハ命令若クハ約束ヲ以テ放火ノ脅迫ヲ爲セシ犯人ハ有期徒刑ニ處シ如何ナル命令約束モナク脅迫ヲ爲セシ犯人ハ二年乃至五年ノ禁錮ト百フラン乃至六百フランノ罰金トニ處シ命令若クハ約束ナシト雖モ口頭ニテ脅迫ヲ爲セシ犯人ハ六月乃至二年ノ禁錮ト二十五フラン乃至三百フランノ罰金トニ處シ口頭ニテ脅迫ヲ爲セシト雖モ如何ナル命令約束ヲモ爲サ、リシキハ如何ナル刑ヲモ適施スルコトナシ第四百三十六條ノ脅迫ハ第四百三十四條ニ列記シタル物品ニ施セシヲ要スルナリ數色ヲ放火シシカ爲メニ徒黨ヲ結ヒタリトノ偽言ハ第四百三十六條ヲ以テ論ス可キモノニ非サルナリ
 千八百四十七年十一月十七日ノ
 判決

放火地雷火ニ因テノ毀壞放火ノ脅迫ノ罪

○第二項 建造物橋梁及ヒ堤防ヲ毀壞スル罪

第九百十二號ノ中 此罪ノ原素○第四百三十七條ニ記載シタル重罪ハ三條件ノ集合ニ依テ構造ス、第一何レノ方法ヲ論セス不動産ノ全部又ハ一部ヲ毀壞顛覆スルヲ、第二犯人カ此毀壞顛覆シタル不動産ノ他人ニ屬スルヲ知リタルヲ、第三故意ヲ以テ毀壞顛覆ヲ施セシヲ是ナリ

第九百十二號ノ下 毀壞○建造物ノ全部又ハ一部ヲ毀壞顛覆スルノ所爲ハ法律ニ於テ其全部又ハ一部ノ崩潰トス第四百三十七條ハ第二百五十七條ノ如ク記念ノ標ノ破壞、毀損ヲ論スルニ非スシテ甚クシク所有權ヲ害スルノ所爲ヲ論スルモノナリ故ニ該條ノ罪ヲ構造セシニハ只窓又ハ其硝子ヲ毀損セシノミニテハ充分セス必ス暴行ヲ以テ建造物ノ一部ヲ毀壞セシヲ要スルナリ

第九百十三號 建造物○第二ノ條件ハ毀壞シタル物ノ同條ニ列記シタル建造物タルヲ要ス故ニ第四百三十七條ハ第二百五十七條ニ記載シタル術ヲ以テ建築シタル記念ノ標ニ適當セス但シ千八百六十三年五月十三日ノ法ハ蒸氣器械ヲ破裂スルノ所爲ヲ附記シ以テ該所爲ヲ建造物ノ毀壞ト同視セリ概シテ建造物トハ其竣功シタルト僅ニ着手シタルトヲ論セス總テ公用又ハ私用ノ爲メ人ノ手ヲ以テ造營シタルモノヲ包含ス該條ハ家屋ノ蓋ノ一部ヲ毀壞セシノ所爲千八百九十三年四月九日ノ判決ニ蓋シ毀壞セシノ所爲千八百九十三年九月九日ノ判決ニ因テ不動産ト看做シタル製造器械ノ一部ヲ毀壞セシノ所爲千八百九十三年四月九日ノ判決ニ適當セリ然レモ第四百五十一條ニ記載シタル守舎及ヒ第四百五十六條ニ記載シタル圍繞ニハ適當セサルナリ千八百六十九年四月總テ該條ノ適施ニ付テハ建造物ノ他人ニ屬スルヲ要スルナリ

建造物橋梁及ヒ堤防ヲ毀壞スル罪

第九百十四號 意○第三ノ條件ハ毀壞シタル物ノ他人ニ屬スルヲ知○且故意ヲ以テ毀壞ヲ施セシヲナリ此毀壞スルノ意思ト他人ノ所有物タルヲ知リシヲトノ二事情ハ必ス陪審會ニ於テ判定申陳セシヲ要ス故ニ陪審會ニ於テ犯人ヲ有罪ナリト申陳セシノミニテハ充分セズ必ス罪科ノ諸原因ヲ明示セシヲ要ス千八百三十八年一月十九日ノ判決此場合ニ於テ他人ニ害ヲ醸スノ意思アリヤハ論ヲ俟タスト雖モ此意思ハ他人ノ所有權ヲ害スルノ意思中ニ包含ス千八百四十三年十二月二十二日及千八百四十四年六月十三日ノ判決第九百十五號 刑罰○第四百三十七條ノ第一項ニ記載シタル懲役ノ刑ハ第二項ノ殺害又ハ創傷アリタル場合ニ於テハ加重シ其第一ノ場合ニ於テハ轉シテ死刑トナリ第二ノ場合ニ於テハ有期徒刑トナル是レ第四百三十四條ノ第七項ヲ變更シテ再示シタルニ過キサルナリ第一項ニ記載シタル還給及ヒ賠償ノ四分一ニ超ヘズ百「フラン」ニ下ラサ

ルノ罰金ハ格段ナル刑ナリ何トナレハ施體ノ刑ト重積シ且酌量減輕ノ事情アルキト雖モ決シテ減少ス可カラサレハナリ千八百四十七年一月三日ノ判決

第四百三十八條

○第三項 政府ノ允許アル工事ヲ障礙スル罪

第九百十六號 第四百三十八條ハ暴行ヲ以テ政府ノ允許アル工事ノ成功ヲ障礙スル所爲ヲ記載シ之ヲ輕罪トス此罪ノ構造ニ付テハ工事ノ政府ヨリ允許シタルモノタルト暴行又ハ輕易ナル暴行ヲ以テ障礙ヲ爲セシトトヲ要ス故ニ絶テ暴行ナキ障礙ハ適法ノ所爲タルヲ以テ如何ナル罪ヲモ生セサルナリ輕易ナル暴行トハ工事ノ場所ト其隣接シタル場所トヲ論セス又工事ノ中止ヲ成就セシト否トニ關セス總テ工事ヲ障礙ス可キ所爲ヲ云フ此所爲ハ重ニ一揆人ノ團結毀壞又ハ毀壞ノ未遂犯ニ因テ生ス而シテ其目的トスル所ハ工事ノ執行ヲ中止或

政府ノ允許アル工事ヲ障礙スル罪

ハ障礙スルニ在リ刑法理論第二千五百八十一號參觀

第九百十七號 政府ノ允許アル工事トハ如何ナルモノヲ云フ乎、第一
官吏ノ執行スルト請負人ノ執行スルトヲ論セス總テ政府ノ爲メニ施
ス工事ヲ云ヒ、第二判決例ニ從ヘハ縣令ノ允許ヲ得テ縣又ハ邑ノ爲メ
ニ企テタル工事ヲ云フ千八百三十四年五月三日ノ判決然レモ此規則ハ假令官許ヲ得
タル工事ト雖モ人民ノ爲メニ施スモノニハ延及セサルナリ千八百五
日ノ判決又政府ヨリ允許アル政府ノ工事ト雖モ允許ノ際限ヲ超ユル
ハ假令輕易ナル暴行ヲ蒙ルモ之ヲ暴行トセサルナリ千八百六十
二千五百八十二號參觀 第六千五百八十二號參觀 第六千五百八十二號參觀
ナラス其豫備ノ事業ナル土地ノ調査及ヒ工事ノ執行ヲ容易ナラシメ
ンカ爲ニ計畫ヲ施スノ所爲ニ適當スルナリ千八百四十年三月四日ノ判決
第九百十八號 暴行ヲ以テ施シタル障礙ハ假令土地ノ所有主ノ施セ

シキト雖モ罰ス可キノ所爲ナリ而シテ官ニ於テ千八百四十一年五月三
日ノ法ニ記載シタル公用買上ノ法式ヲ履踐セサリシモ此反則ハ工事
障礙ノ公訴ヲ爲ス妨ケトナルヲナシ邑道ノ幅ヲ廣ムル事ニ關シテ償
ヲ定メサル前ニ工事ノ障礙ヲ陳ヘタル所有主ニ適施シタル上ノ判決
例千八百四十四年二月二日ノ判決ハ所有權ニ付故障アル都テノ場合ニ延及セラレタ
リ千八百四十四年七月六日ノ判決此判決例ノ理由ハ所有主ニ暴行ヲ施サ、ルモ法律
上ノ順序ヲ經テ工事ヲ中止セシメ又ハ償金ヲ得ルノ道アルカ故ニ其
暴行ハ假令所有權ニ基クモ之ヲ輕罪トスルニ在ルナリ

第四百三十九條

○第四項 證書ヲ毀壞スル罪

第九百十九號 證書ノ毀壞○第四百三十九條ハ公ケノ受託人(第七
十三條ニ之ヲ論ス)ニ非サル者ノ公ケノ預リ所(第二百五十五條ニ之ヲ
論ス)外ニ於テ該條第四百三十九條ニ列記シタル證書ノ毀壞ヲ施セシ場合ヲ

證書ヲ毀壞スル罪

記載ス此罪ノ第一ノ條件ハ毀壞ノ外面上ノ所爲ナリ毀壞トハ音ニ放
 火ノ如ク證書ヲ滅盡シテ之ニ記シタル事柄ヲ消散セシメタル外面上
 ノ所爲ノミナラス書加ヘノ如ク證書ノ効ヲ變ス可キ所爲ヲモ云フナ
 リ千八百二十七年十月十日ノ判決然レモ該條ノ罪ヲ生センニハ必ス毀壞ヲ施セシ
 ナ要シ證書ノ遺失ヲ毀壞ト推測スルヲ以テ充分トセス何トナレハ第
 四百三十九條ニ於テ罰スル所ノモノハ奪取遺失ニ非スシテ毀壞ナレ
 ハナリ千八百二十五年十月十日ノ判決然レモ裁判官ハ證書ノ滅失ノ原因ヲ判定
 シタル後犯人ノ毀壞ヲ施シ旨ヲ宣告スルヲ得ヘシ千八百二十五年
 判決
 第九百二十號 毀壞シタル證書類ノ區別○毀壞ノ所爲ハ官署ノ簿冊、
 公證書ノ本書、證書、手形、爲替手形、商業證書又ハ銀行手形ニ施セシキニ
 非サレハ第四百三十九條ヲ以テ論ス可キモノニ非ス此書類ハ之ヲ二

類ニ分ツ第一類ハ官ノ書類、商業證書及ヒ銀行手形ナリ此書類ノ毀壞
 ハ重罪ヲ構造シ其犯人ヲ懲役ノ刑ニ處ス第二類ハ官署又ハ商業ニ屬
 セサル其他ノ書類ヲ云フ其毀壞ハ輕罪ヲ構造シ其犯人ヲ二年乃至
 五年ノ禁錮ト百フラン乃至三百フランノ罰金トニ處ス法律ハ官署ノ
 簿冊又ハ公證書ノ本書ノミチ官署ノ證書トシ副本又ハ保證アル寫書
 ハ假令滅失スルモ再ヒ得可キヲ以テ之ヲ官署ノ證書トセサルナリ○
 判決例ニ於テハ第四百三十九條ヲ輕罪又ハ違警罪ノ罰書千八百三十
 二年八月十日ノ判決租稅ノ簿冊及ヒ本書千八百三十一年四月十日ノ判決販賣ス可キ樹木ニ押
 シタル政府ノ證印千八百二十二年五月十四日ノ判決千ニ適當セリ官署ノ
 簿冊、公證書ノ本書及ヒ商業證書ニ非サル證書ハ總テ第四百三十九條
 ノ末尾ノ項ニ記スル所ノ階級中ニ入ル可シ故ニ此證書ノ毀壞ハ輕罪
 ナ構造スルニ過キサルナリ千八百六十四年十二月三十日ノ判決

證書ヲ毀壞スル罪

第九百二十一號 然レモ重罪及ヒ輕罪ノ構造ニ付上ノ總テノ證書類ニ普通ノ條件ハ其書類ノ義務規則又ハ義務釋放ヲ生ス可キモノタルヲナリ何トナレハ毀壞シタル證書ノ如何ナル効ヲ生スルヲ得ス又如何ナル權利如何ナル訴ノ基礎トモナリ得サルキハ其毀壞ハ如何ナル損害ヲモ他人ニ起サ、レハナリ此事柄ニ於テハ偽造「エキストル」ヨ「又ハ詐僞取財」ノ場合ニ於ケル如ク法律ノ罰セント欲スル所ノモノハ眞ノ損害又ハ生スルヲ得ヘキ損害ナリ第四百三十九條ハ財産ニ關スル證書ニ非サレハ適當セス何トナレハ名譽上ノ事ヲ記シタル證書ハ義務規則又ハ義務釋放ヲ生セサレハナリ又權義ノ連結ヲ生セサルヲ以テ無効ニ歸ス可キ證書ニ適當セス決千八百十六年九月十二日ノ判參一號故ニ押印アル白紙ノ毀壞ニ適當セサルナリ

第九百二十二號 意。○上ノ重罪又ハ輕罪ノ末尾ノ條件ハ故意ヲ以テ。

テ。毀壞ヲ爲セシ「ナリ總テ毀壞」ノ場合ニ於テ故意トハ人ニ害ヲ起サシカ爲メニ毀壞ヲ施スノ意思ヲ云フ而シテ此意思ハ陪審會ノ申陳ニ因テ又ハ輕罪裁判所ニ於テ明瞭ニ判定アリシテ要スルナリ

第九百二十三號 證。○毀壞シタル證書ハ假令百五十「以上」ノ義務ヲ記載スルキト雖モ民法第千三百四十一條ノ禁止ニ拘ハラズ證人ヲ以テノ證據ヲ許サ、ルヲ得ス何トナレハ證書ヲ得ル能ハサル事柄及ヒ契約ニ非サレハ適當セサル所ノ民法ノ條例ヲシテ契約上ヨリ生セサル且犯人ノ一身ニ屬スル毀壞ノ所爲ニ適當スルヲ得ス而シテ此場合ニ於テ證ス可キモノハ證書上ニ記スル所ノモノニ非スシテ暴行ノ所爲即チ輕罪ナレハナリ千八百十六年九月十二日及ヒ千八百七十七年三月九日ノ判決然レモ毀壞シタル證書ノ犯人ニ附託セシモノタルキハ上ト同一ナラサル可シ何トナレハ附託ノ所爲ハ必スシモ書類ヲ以テ證セサルヲ得ス此附託

ヨリ生シタル毀壞ハ背信ヲ構造スルモノナレハナリ
千八百五十三年九月二十五日ノ
判決

從第四百四十
條至第四百四
十二條

○第五項 商品ヲ掠奪及ヒ毀損スル罪

第九百二十四號 第四百四十條ハ群衆又ハ團結ニ於テ暴行ヲ以テ犯シタル動産ノ掠奪及ヒ毀損ヲ記載ス該條ニ於テハ掠奪ト毀損トナ一
時ニ論スト雖モ此二所爲ハ全ク別種ノモノナリ即チ掠奪トハ暴行ヲ以テ犯シタル竊盜ヲ云ヒ毀損トハ絶テ犯人ニ利益ナキ亂妨ノ所爲ヲ云フナリ判決例ニ於テハ通常ノ價ヨリ低價ニ日用物ノ交付ヲ得ント
其所有主ヲ脅迫スルノ所爲ヲ掠奪トセリ
千八百三十二年一月十七日及
千八百三十年六月二十四日
判決ノ

第九百二十五號 茲ニ論スル所ノ掠奪又ハ毀損ノ所爲ハ日用物、商品、
證、書、動、産、ニ付行ヒシモノニ限ルナリ而シテ陪審會ノ申陳ニ依テ何々ノ

物品ヲ掠奪又ハ毀損セリト確定スルコトハ必要ナラスト雖モ要川ナリ
千八百三十三年四月十三日ノ判決 但シ此事ハ掠奪シタル物品ノ第四百四十二條ニ記
載スル所ノ物品ノ員數ニ達スルキハ實ニ必要ナリ何トナレハ食用ノ
日用物ニ付テハ刑ヲ加重スレハナリ
千八百三十二年八月二十八日ノ判決
第九百二十六號 第四百四十條ハ群衆又ハ團結ヲ以テ施シタル掠奪
又ハ毀損ノ所爲ニ非サレハ罰セズ此場合ニ於テ重罪ヲ生スルモノハ
該所爲ノ執行ヲ容易ナラシメシ所ノ此反則ノ精神ナリ群衆トハ第二
百一十一條第二百十二條及ヒ第二百十四條ニ記載シタル場合ニ於ケル
如ク動産ヲ掠奪スルノ目的ノミヲ以テ即時ニ發シタル偶然ノ場合ヲ
云フ而シテ此群衆ハ第二百一十一條ノ群衆ノ如ク三人ヨリ少カラサル人
員ヲ以テ組織セシメタルヲ要スルナリ
千八百三十二年四月五日ノ
判決
九百六十一號參觀 團結ハ既ニ前ニ述ヘシ整備シタル編制アル一揆狀ノ團結又ハ

商品ヲ掠奪及ヒ毀損スル罪

兇惡人ノ團結ヲ云フニ非ス掠奪ヲ成就セシカ爲メニ偶然ニ會合セシ
モノタルヲ以テ充分トス第四百四十條ノ適施ニ付テハ上ノ二事情ア
ルヲ要用トセス唯其一アルノミヲ以テ充分トス

第九百二十七號 此罪ノ末尾ノ條件ハ公然暴行ヲ現行セシメナリ此
事情ハ陪審會ニ於テ之ヲ判定セシメ必要トス千八百十六年十月二十
七日及ヒ千八百十五年十
三月八日而シテ暴行ヲ以テ掠奪又ハ毀壞ヲ犯セシ場合ハ兵力ヲ用サシ
場合ト之ヲ同視スルヲ得サルナリ上ノ暴行ナキ掠奪又ハ毀損ハ通常
ノ竊盜又ハ他人ノ動産ノ損害ヲ構造スルニ過キサルナリ第四百七十七
條ノ第七十
項○千八百三十
年三月一日ノ判決

第九百二十八號 第四百四十條ニ記シタル有期徒刑及ヒ必要ナル附
加刑即チ罰金千八百四十七年五月ハ二箇ノ場合ニ於テ變易ス即チ犯人
カ被害者ヨリ挑唆ヲ受ケタルニ依リ所爲ヲ施セシ旨ヲ證スルキハ徒

刑ヲシテ懲役ノ刑トナシ且別ニ罰金ヲ適施セス然レモ從犯ノ規則ノ
例外トシテ此種ノ減輕ヲ許ス所ノ第四百四十一條ハ之ヲ重罪裁判所
ノ自由ニ適施スルヲ得可キモノトス故ニ此事情ハ宥恕減輕ヲ生セサ
ルナリ千八百五十二年十二月之ニ反シテ第四百四十二條ニ記載シタル物
質ヲ掠奪毀損セシキ及ヒ犯人カ犯罪ノ首魁煽動者又ハ教唆者タリシ
キハ徒刑及ヒ罰金ヲ其最上極ニ迄加重ス而シテ此最上極ハ無論第四百
六十三條ニ記シタルモノヲ適施スルナリ

第四百四十三

○第六項 商品ヲ損敗スル罪

第九百二十九號 第四百四十三條ハ毀損ノ格段ナル場合ヲ記載ス故
意ヲ以テ商品ヲ損破セシメ是ナリ千八百六十三年五月十三日ノ法ハ
商品又ハ製造ヲ施ス可キ原質ノ語ニ器械ノ語ヲ附記セリ是レ工作ノ
器械又ハ物産ニ對シテ施ス所ノ損敗ヲ防止シ以テ商業及ヒ製造場ヲ

商品ヲ損敗スル罪

保護スルノ目的ニ出テタルモノナリ法律ハ該條ノ適施ニ付三事情アルヲ要ス損害トナル可キヲ知ラシメカ爲メニ豫メ用キタル方法損害ヲ起スノ意思商品原質又ハ製造器械ヲ損敗セシ外面上ノ所爲是ナリ此損敗ハ必スシモ物ヲ腐敗セシム可キ流動物ヲ以テ施シテ要セス其他諸種ノ方法ニ因テ施シテ以テ充分トス何トナレハ法律ニ於テ有罪トスル所ノモノハ損敗ヲ來クサシメタル物質ニ非スシテ損敗ノ所爲ナレハナリ

第九百三十號 此罪ノ條件ハ第一故意ヲ以テ即チ害ヲ醸スノ意思ヲ以テ損敗ヲ施セシヲ次ニ商品原質又ハ製造器械ヲ損敗セシヲナリ損敗トハ此物品ヲ汚穢ニシ又ハ變更セシヲニシテ全ク之ヲ毀壞シ又ハ其價額ヲ失シタルヲ云フニ非ス故ニ第四百四十三條ノ罪ヲ生センニハ其價額ノ一部ヲ失センカ爲メ又ハ其用方ノ一部ヲ缺カンカ爲メ

物品ヲ變更セシテ以テ充分トス商品原質又ハ製造器械トハ製造シ且販賣ス可キ物品製造ヲ施ス可キ原質物及ヒ現在使用スル所ノ總テノ製造器械ヲ云フナリ判決例ニ於テハ商品ノ語ヲ建造請負人ニ販賣シタル石礫ニアリテ未タ切出タサ、ル石千八百六十年九月七日ノ判決及ヒ製造人ノ手ニ在ルト否トヲ論セス販賣ス可キ動産或ハ額、圖畫及ヒ術ヲ以テ製シタル物品ニ延及セリ刑法理論第二千六百四號參照

第九百三十一號 製造場ノ使丁又ハ工丁ノ損敗ヲ施セシハ一月乃至二年ノ禁錮及ヒ十六フラン乃至賠償ノ四分一ノ罰金ノ刑ニテハ重カラサルカ故ニ禁錮ノ刑ヲ二年乃至五年ニ迄加重ス他ナシ此使丁及ヒ工丁ハ損害ノミナラス背信ノ罪ヲ犯セシモノナレハナリ

○第七項 收穫物、植物、樹木、接木、藪物又ハ草類ヲ荒殘スル罪

收穫物、植物、樹木、接木、藪物又ハ草類ヲ荒殘スル罪

從第四百四十五條至第四百四十一條

第九百三十二號 收穫物ノ荒殘シ第四百四十四條ヨリ第四百五十一條ニ至ルノ數條ニ記載シタル數輕罪ハ均シク農業ノ利益及ヒ安意ヲ以テ家外ニ置キタル物品ノ保護ヲ目的トスルカ故ニ普通ノ性質ヲ有スルナリ此罪ノ第一ハ第四百四十四條ニ記載スル所ノ收穫物ヲ荒殘スルモノナリ荒殘ハ他人ニ害ヲ起サンカ爲メ物ヲ毀損荒敗スルノ所爲ニシテ犯人ノ利益ノ爲メ物ヲ竊盜スルノ所爲ニ非サルナリ一判決ニ於テニ第四百四十四條ノ規則ハ決シテ此場合ニノミ制限セシモノニ非サルコト該條ハ他人ニ屬スル麥圃ニ惡意ヲ以テ惡草ノ大分量ヲ下種セシノ所爲ニ適當スルコト及ヒ下種セシ穀物ハ刈收シサル穀物ト同等タルコトヲ決定セリ千八百五十六年七月十八日ノ判決

第九百三十三號 樹木ヲ斫伐シ及ヒ之ヲ傷クルコト○樹木ヲ斫伐シ及ヒ之ヲ傷クルコトハ第四百四十五條第四百四十六條第四百四十七條及

ヒ第四百四十八條ニ之ヲ記載ス第四百四十五條ニ記載シタル輕罪ノ構造ニ付テハ二條件ヲ要ス一根又ハ數根ノ樹木ノ斫伐及ヒ此樹木ノ他人ニ屬スルヲ知リシコト是ナリ該條ノ場合ニ於テハ全ク伐採セシテ要ス然レモ第四百四十六條ハ樹木ヲ枯死セシムル爲メ之ヲ傷ケ又ハ斫リ又ハ其皮ヲ剝キシノ所爲ヲ上ノ所爲ト同視ス故ニ此場合ニ於テハ樹木ヲ傷ケ又ハ斫リシコト此傷ノ之ヲ枯死セシム可キ性質ノモノタルコトヲ要スルナリ千八百二十八年二月二十九日及ヒ千八百四十七年四月二十四日ノ判決

第四百四十七條ハ一根又ハ數根ノ接木ノ損害ヲ記載ス上ノ數規則ハ格段ナル法律ヲ以テ管理スル所ノ森林ノ外總テ他人ニ屬スル樹木即チ街衢道路市街往還小路又ハ傍徑ニ植タル樹木ニ適當スルナリ千八百十八年五月十四日ノ判決

第九百三十四號 荒殘ノ罪ニ付テハ犯人カ其荒殘セシ樹木ノ他人ニ

收穫物植物樹木穀物又ハ並類ヲ荒殘スル罪

屬スルヲ知リシヲ要ス但シ此事ハ推測ヲ以テ之ヲ定ムルハ危殆ナルカ故ニ必ス判定スルヲ要スルナリ○千八百二十六年五月六日ノ判決樹木ヲ斫伐シ又ハ之ヲ傷クルノ所爲ハ必ス惡意ヲ以テ之ヲ施セシヲ要シ之ヲ所有スルノ意思ヲ以テ施セシヲ要セス何トナレハ此終リノ所爲ハ第三百八十八條ヲ以テ論ス可キモノナレハナリ千八百四十五年十月十四日ノ判決

此規則ハ專ラ慣習ニ依テ樹木ヲ斫伐スルヲ得サル借地人ニ適當ス千八百十八年六月十三日ノ判決然レモ如何ナル場合ト雖モ法律ハ惡意ヲ以テ上ノ所爲ヲ施セシ場合ニ非サレハ適當セサルナリ共和第八年八月十八日ノ判決

第九百三十五號 刑罰○第四百四十五條ハ斫伐シタル樹木一根ニ付六日乃至六月ノ禁錮ヲ適施ス但シ其合數ノ五年ニ過クルヲ許サス第四百四十七條ハ一接木ニ付六日乃至二月ノ禁錮ヲ適施ス但シ其合數ノ二年ニ過クルヲ許サス故ニ刑ノ輕重ハ損害ノ多少ニ係ハルナリ上

ノ刑ハ街衢、道路等ニ植ヘタル樹木ニ關シテハ第四百四十五條及ヒ第四百四十六條ノ場合ニ於テハ其最下極ヲ二十日ニ迄加重シ第四百四十七條ノ場合ニ於テハ其最下極ヲ十日ニ迄加重ス第四百四十八條如此ク最下極ヲ加重スト雖モ然レモ酌量減輕ノ事情アルニ於テハ第四百六十三條ノ適施ヲ障礙セス然レモ第四百五十五條ハ尙ホ他ニ罰金ヲ宣告スルナリ

第九百三十六號 穀物又ハ草類ノ刈変○第四百四十九條ノ目的タル此刈変ハ第三百八十八條ニ記載スル所ノ竊盜、第四百七十一條ノ第十項ニ記載スル所ノ竊取、第四百四十四條ニ記載スル所ノ荒殘ヲ構造スルモノニ非スシテ穀物又ハ草類ノ他人ニ屬スルヲ知リテ即チ他人ヲ害スルノ意思ヲ以テ刈変スルノ所爲ナリ若シ未熟ノ穀物ヲ刈収セシハ其刑ヲ二倍ニ加重ス第四百五十條

收穫物植物樹木接木穀物又ハ草類ヲ荒殘スル罪

第九百三十七號 刑ヲ加重ス可キノ事情○第四百五十條ハ前六條ニ適當スル所ノ二則ヲ附記ス、第一官、吏、ハ、職務ニ付、其官吏ヲ恨ミテ其罪ヲ犯シタル者ニハ其各條ニ記シタル刑ノ最上極ヲ適施スルヲ但シ加重ノ此二所爲ハ之ヲ判定スルヲ要ス、第二夜間其罪ヲ犯シタル者ニハ均シク其刑ノ最上極ヲ適施スルヲ是ナリ但シ此二箇ノ加重ノ場合ハ相互ニ關係セサルナリ

第九百三十八號 農具ノ毀壞○第四百五十一條ニ記載シタル罪ノ外而上ノ所爲ハ其施シタル方法ノ如何ヲ論セス農具、獸圈及ヒ守舎ノ毀壞ナリ千八百六十九年四月十五日ノ判決此所爲ハ慾心又ハ一身ノ利益ノ爲メコ非スシテ唯惡意即チ他人ニ害ヲ醸スノ希望ヨリ生セシモノナリ刑法理論 第二百十五號參觀

從第四百五十二條至第四百五十五條

○第八項 動物ヲ殺害スル罪

第九百三十九號 動物ノ殺害ヲ罰スル所ノ第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ハ之ヲ二級ニ分別シ馬又ハ其他車ヲ挽カシメ又ハ物ヲ負戴セシムルノ用ニ供ス可キ獸類、牛、羊、山羊、豚及ヒ魚類ヲ第一級トシ家畜獸ヲ第二級トス第一級ノ動物ニ關シテハ第四百五十二條ハ其毒殺ヲ罰シ第四百五十三條ハ已ムヲ得サルニ非スシテ之ヲ殺セシノ所爲ヲ罰ス此第一ノ場合ニ於テハ毒殺ノ所爲ト動物ノ性質トノ二條件アルヲ要ス而シテ毒殺アリトセンニハ動物ノ性命ヲ害スルノ意思ト之ヲ死ニ致スニ適當ナル毒物ヲ施用セシトトノ二事アルヲ要ス此死ニ致スノ意思ハ此罪ノ必要ナル條件ナリ故ニ犯人カ毒物ノ効ヲ知リシトト其効ヲ生センカ爲メニ之ヲ施用セシトトハ正ニ判定アリシヲ要シ又其他此毒物ノ動物ヲ死ニ致スノ威力アルモノタルヲ要ス若シ其威力ナキトハ外面上ノ所爲ハ消散ス然レモ必スシモ動物ノ死セシヲ必

動物ヲ殺害スル罪

要トセサルカ故ニ死ニ致ス可キノ毒物ヲ一旦施用セシキハ罪ヲ生スルナリ但シ動物ノ之ヲ食セシカ爲メニ其前ニ之ヲ置キシノヨコテハ法律ニ禁止セサル未遂犯ノ所爲ニ過キサルナリ法律ハ毒殺ニ對シテ保護セント欲スル所ノ動物ヲ列記シ而シテ此列記ハ實ニ此場合ニノミ制限シタルモノナリ千八百二十二年八月十七日及千八百四十五年五月二十六日ノ判決第四百五十二條ニ記載スル所ノ魚類ハ池又ハ畜魚場ニアル魚類ニノミ限ルヘシ蓋シ河川ノ魚類ノ毒殺ハ千八百二十九年四月十五日ノ法ノ第三十六條ニ因テ之ヲ罰スルナリ

第九百四十號 第四百五十三條ハ毒殺ヲ除キ其他ノ方法ヲ以テ前條ニ記載シタル動物ヲ殺セシ者ニ適當ス該條ハ實ニ之ヲ殺セシ者ニ非カレハ適當セス故ニ創傷ヲ加ヘシ者ハ該條ヲ以テ論ス可キノ限リニ非ス然レモ判決例ニ於テハ千七百九十一年九月二十八日及千七百九十年六月

日ノ法ノ第二卷第三十條惡意故意ヲ以テ他人ノ土地ニ於テ獸類又ハ番犬ヲ殺シ又ハ之ニ創傷ヲ加ヘシ者ヲ罰スルモノヲ維持セリ千八百二十五年五月十七日及千八百四十七年五月十七日ノ判決○刑法理論第二千六百三十二號參觀 法律ニ指示シタル一動物ヲ殺セシノ所爲ハ已ムヲ得サルニ非スシテ犯シトニ非カレハ罪ヲ構造セス此已ムヲ得サルノ語ハ法律ニ義解ヲ掲ケサルカ故ニ事實ト場合トニ因テ之ヲ判定ス然レモ概シテ人ノ性命ヲ危フシシ動物ヲ殺セシキハ勿論人ヲ襲撃スルカ又ハ他ノ動物ヲ創傷セシ動物ヲ殺セシキト雖モ蓋シ適法ノ所爲タルヘシ第四百五十三條ハ故意ヲ以テ他人ニ屬スル馬又ハ其他動物ヲ殺セシ場合ニ非サレハ適當セス故ニ若シ殺害ノ不注意ニ因リ又ハ偶然ニ生シシキハ第四百七十條ヲ以テ論ス可キノリ千八百十八年二月五日ノ判決

第九百四十一號 動物ヲ殺シタル場所ハ或ハ刑ヲ加重ス可キノ事情

動物ヲ殺害スル罪